第738集

棚下込山遺跡

一般国道17号（綾戸バイパス）建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇二四

国土交通省関東地方整備局
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第738集

棚下込山遺跡

一般国道17号（綾戸バイパス）建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2024

国土交通省関東地方整備局
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

棚 下 込 山 遺 跡

一般国道17号（綾戸バイパス）建設事業に伴う
埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

2024

国 土 交 通 省 関 東 地 方 整 備 局
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

本書では、一般国道17号(綾戸バイパス)建設事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査として実施された棚下込山遺跡の発掘調査成果を報告します。綾戸バイパスは災害に強い道路整備と関越自動車道等周辺道路における交通規制時の代替路としての機能確保を目的として、群馬県渋川市上白井から群馬県沼田市岩本町を結び、幹線道路である国道17号のバイパスとなる４車線・延長2.3kmの路線です。

棚下込山遺跡の発掘調査は、群馬県渋川市赤城町棚下において令和元年度、令和３年度、令和５年度の三次にわたり実施されました。当地域は、北東1.5kmに長井坂城、南東1.2kmに棚下砦跡として知られる南雲御殿遺跡が存在するなど、中近世の遺跡が所在する地として知られていました。本遺跡の調査では、縄文時代の土坑のほか、古墳時代や古代の土坑が発見され、縄文時代から古代に至る人々の暮らしの様子の一端が明らかとなりました。

発掘調査から報告書の刊行に至るまで、国土交通省関東地方整備局、群馬県地域創生部、群馬県教育委員会、渋川市教育委員会をはじめ、関係機関および地元関係者の皆様には多大なる御指導と御協力を賜りました。

本報告書の上梓にあたり、関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、本書が赤城山西麓地域における歴史の解明に広く役立てられますことを念じて、序といたします。

令和６年３月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理　事　長　　向　田　忠　正

例　　言

1　本書は、一般国道17号(綾戸バイパス)建設事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査として実施された棚下込山遺跡の調査成果をまとめた発掘調査報告書である。発掘調査は令和元年度、令和３年度、令和５年度に実施された。報告書作成は令和５年度　一般国道17号(綾戸バイパス)建設事業に伴う埋蔵文化財の整理事業として実施した。

2　発掘調査所在地

令和元年度・１区

群馬県渋川市赤城町棚下字込山384-2、385-2、386-2、392-2、393-2、398-2、399、411-1、412-3

令和３年度・２区

群馬県渋川市赤城町棚下字小坂419-5、420-4、420-6、420-8、421-2、428-4

令和５年度・１区

群馬県渋川市赤城町棚下字込山388-1

3　事業主体　　国土交通省関東地方整備局

4　調査主体　　公益財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

5　発掘調査の期間と体制

令和元年度

履行期間	令和元年７月５日～令和元年12月31日
調査期間	令和元年８月１日～令和元年10月31日
調査担当	須田正久(主任調査研究員)、鈴木佑太郎(専門員)
遺跡掘削工事請負	技研コンサル株式会社
地上測量委託	アコン測量設計株式会社

令和３年度

履行期間	令和３年６月17日～令和３年10月31日
調査期間	令和３年８月１日～令和３年８月31日
調査担当	田村　真(主任調査研究員)、木村　收(専門調査役)
遺跡掘削工事請負	株式会社歴史の杜
地上測量委託	アコン測量設計株式会社
火山灰分析委託	株式会社火山灰考古学研究所

令和５年度

履行期間	令和５年４月１日～令和６年３月31日
調査期間	令和５年５月１日～令和５年５月31日
調査担当	鈴木佑太郎
遺跡掘削工事請負	株式会社飯塚組
地上測量委託	株式会社測研

6　整理作業の期間と体制

履行期間	令和５年４月１日～令和６年３月31日
整理期間	令和５年10月１日～令和６年３月31日
整理担当	佐藤元彦（専門調査役）
黒曜石産地推定業務委託	株式会社パレオ・ラボ

7　本書の作成分担

編集	佐藤元彦	
デジタル編集	齊田智彦（主任調査研究員）	
本文執筆	第４章第２節第１項	木村　収
	第４章第２節第２項	関口博幸（上席調査研究員・資料統括）
	上記以外	佐藤元彦
遺構写真撮影	発掘調査担当者	
遺物観察	石器・石製品：関口博幸	
	縄文土器・弥生土器：橋本　淳（主任調査研究員・資料統括）	
遺物写真撮影	石器・石製品：関口博幸、その他：佐藤元彦	
第４章第２節第１項	木村　収	
第４章第２節第２項	関口博幸	

8　発掘調査及び報告書作成には、国土交通省関東地方整備局、群馬県地域創生部、群馬県教育委員会、渋川市教育委員会をはじめ、関係機関ならびに関係各位に多くのご協力、ご指導を賜った。

9　出土遺物及び写真・図面等記録類の保管場所は、群馬県埋蔵文化財調査センターである。

凡　　例

1　本報告書(以下「本書」)に用いた座標・方位はすべて世界測地系(日本測地系2011、測地成果2011)、平面直角座標系第IX系による。

世界測地系による当所の所在は、北緯36度34分45.15秒、東経139度３分2.49秒であり、当所における座標北と真北との偏差は＋0度27分59秒33、磁北線の偏角は８度13分である。

また、遺構図中の十字記号は世界測地系(日本測地系2011、測地成果2011)、平面直角座標系第IX系に基づく基準点を示す。Ｘ値とＹ値の整数部末尾３桁を付記した。

2　本書に用いた遺構名称は、発掘調査終了時点の名称の踏襲を基本としたが、令和５年度調査は先行調査と命名規則に相違が認められるため、混乱を避けるため掲載に際し先行調査にならって名称を改めた。

令和５年度調査区である１－１区を１区北端部とし、１－１区１面を１区Hr-FP上面、１－１区２面を１区１面、１－１区３面を１区２面とした。また区名を含めずとも重複しないように個別遺構名を改めた。なお、１区中部北辺から１区北部にかけて、３面出土と記録された遺構が存在するが、２面出土遺物と３面出土遺物との間に時代差が認められないとのことで、一律に２面出土遺構とした。

遺構名対照表

調査時遺構名		掲載時遺構名
１－１区１号土坑	→	１区76号土坑
１－１区２号土坑	→	１区77号土坑
１－１区３号土坑	→	１区78号土坑
１－１区４号土坑	→	１区79号土坑
１－１区５号土坑	→	１区80号土坑
１－１区６号土坑	→	１区81号土坑
１－１区７号土坑	→	１区82号土坑
１－１区１号トレンチ	→	１区９号トレンチ
１－１区１号旧石器トレンチ	→	１区９号旧石器確認トレンチ
１－１区２号旧石器トレンチ	→	１区10号旧石器確認トレンチ
１－１区３号旧石器トレンチ	→	１区11号旧石器確認トレンチ

3　遺構の主軸方位は座標北を基準とした。形状の確認できる遺構においては長軸を主軸とし、その傾きを度で示し、形状の不明なものについては計測不能のため不明とした。

4　遺構の標高は、原則として遺構断面図中に「Ｌ＝○．○m」と表記した。また遺構の計測値は主軸方向を縦とし、縦・横・深さ(高さ)・面積の順に記した。主軸方向の不明な遺構については長・短・深(高)・面積の順での記載を原則とした。全容が確認できない遺構については、検出部分の計測値を()付きで表記した。

5　本書の個別遺構図版の縮尺は1/40を基本とした。

6　原則として、本書の遺物図版縮尺は1/3を基本とし、適宜1/4や1/1、4/5等を用いた。

7　本書における遺構・遺物の略称は以下のとおりである。

土坑　土　　ピット　P　　焼土遺構　焼　　自然流路　流　　石器・石製品　S

8　本書で使用したトーンは以下のとおりである。

攪乱　焼土　炭化物　　石器：摩耗痕　敲打痕

9　本書における土層註記及び遺物観察表記載に用いた色彩表現は、農林水産省水産技術事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修1996「新版標準土色帳」に基づく。

なおデジタル現像等を含め、デジタルデータの取り扱いに際してICC(International Color Consortium)の規定・規格に基づく色管理(CMS)はなされていないので、編集時点において被写体本来の色調や色相は担保されない。

10　本書で使用した地形図、地勢図、地質図等は以下のとおりである。

国土交通省国土地理院20万分１地勢図「長野」

国土交通省国土地理院20万分１地勢図「宇都宮」

国土交通省国土地理院2.5万分１地形図「沼田」

国土交通省国土地理院2.5万分１地形図「鯉沢」

国土交通省国土地理院「地理院地図Vector（試験公開）」

https://maps.gsi.go.jp/vector/#17/36.579529/139.051659/&ls=vstd&disp=1

国土交通省国土地理院「地理院地図Vector（試験公開）傾斜量図」https://maps.gsi.go.jp/vector/

国立研究開発法人産業技術総合研究所地質調査総合センター「20万分の１日本シームレス地質図Ｖ２」

地質図更新：2023年５月10日、https://gbank.gsj.jp/seamless/v2/

11　本書ではテフラの略称として下記の用語を用いた。

AT:姶良Tn火山灰、MP:室田軽石、As-BP:浅間板鼻褐色軽石群、As-SP:白糸の滝降下軽石、As-Sr:浅間白糸軽石、As-Ok1：浅間大窪沢第１軽石、As-YP：浅間板鼻黄色軽石、As-K：浅間草津テフラ、Hr-FP：榛名二ツ岳伊香保テフラ

目　　次

序
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
写真目次

第１章　調査経過と調査の方法 ・・・・・・・・・・・・ 1
　第１節　調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・ 1
　第２節　調査の経過と方法 ・・・・・・・・・・・・ 2

第２章　周辺の環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
　第１節　地理的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
　第２節　歴史的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

第３章　確認された遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・ 12
　第１節　調査の概要と基本土層・・・・・・・・・ 12
　　第１項　調査の概要・・・・・・・・・・・・・・ 12
　　第２項　基本土層 ・・・・・・・・・・・・・・・ 12
　第２節　古墳時代以降 ・・・・・・・・・・・・・・・ 21
　　第１項　検出された遺構 ・・・・・・・・・・・ 21
　第３節　縄文時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
　　第１項　検出された遺構 ・・・・・・・・・・・ 24
　第４節　出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

第４章　理化学分析とまとめ・・・・・・・・・・・・・ 61
　第１節　理化学分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
　　第１項　火山灰分析報告 ・・・・・・・・・・・ 61
　　第２項　棚下込山遺跡出土黒曜石製石器
　　の産地推定 ・・・・・・・・・・・・・・・ 66
　第２節　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
　　第１項　棚下込山遺跡の火山灰 ・・・・・・ 70
　　第２項　縄文時代の石器 ・・・・・・・・・・・ 70

報告書抄録
写真図版
奥付

挿図目次

第１図　遺跡の所在・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
第２図　調査区の位置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
第３図　調査区設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
第４図　周辺の地形・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
第５図　周辺の地質・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
第６図　周辺の遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
第７図　棚下込山遺跡全体図（第１調査面・古墳時代以降） ・・・・・・ 13
第８図　棚下込山遺跡全体図（第２調査面・縄文時代） ・・・・・・・・ 14
第９図　１区・２区第１調査面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
第10図　１区・２区第２調査面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
第11図　１区旧石器確認トレンチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
第12図　２区旧石器確認トレンチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
第13図　１区基本土層 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
第14図　２区基本土層 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
第15図　溝断面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
第16図　土坑１・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
第17図　土坑２・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
第18図　土坑３・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
第19図　土坑４・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
第20図　土坑５・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
第21図　土坑６・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
第22図　遺物包含層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
第23図　遺構出土遺物図１ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
第24図　遺構出土遺物図２ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
第25図　遺構出土遺物図３ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
第26図　遺構出土遺物図４ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
第27図　遺構出土遺物図５ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
第28図　遺構出土遺物図６、遺構外出土土器図１ ・・・・・・・・・・・・・ 34
第29図　遺構外出土土器図２ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
第30図　遺構外出土土器図３ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
第31図　遺構外出土土器図４、遺構外出土石器図１ ・・・・・・・・・・・ 37
第32図　遺構外出土石器図２ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
第33図　遺構外出土石器図３ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
第34図　遺構外出土石器図４ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
第35図　遺構外出土石器図５ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
第36図　遺構外出土石器図６ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
第37図　遺構外出土石器図７ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
第38図　遺構外出土石器図８ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
第39図　遺構外出土石器図９ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
第40図　遺構外出土石器図10 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
第41図　遺構外出土石器図11 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
第42図　遺構外出土石器図12 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
第43図　遺構外出土石器図13 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
第44図　２区基本土層Ａトレンチの土層柱状図・・・・・・・・・・・・・・ 61
第45図　サンプルデータ採取位置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
第46図　黒曜石産地分析図（東日本）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
第47図　黒曜石製石器の産地推定判定図（１）・・・・・・・・・・・・・・・ 68
第48図　黒曜石製石器の産地推定判定図（２）・・・・・・・・・・・・・・・ 68
第49図　石材別点数グラフ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
第50図　石材組成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71

第51図　打製石斧と黒色頁岩製剥片の長幅散布図 ・・・・・・・・・・・・ 72
第52図　剥片の石材別長幅散布図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
第53図　打製石斧(完形)の長さ別ヒストグラム・・・・・・・・・・・・・・ 72
第54図　黒色頁岩製剥片の長さ別ヒストグラム・・・・・・・・・・・・・・ 72

表　目　次

第１表　周辺の遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
第２表　溝一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
第３表　土坑・ピット一覧１ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
第４表　土坑・ピット一覧２ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
第５表　遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
第６表　未掲載縄文土器集計表(点数) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
第７表　テフラ検出分析結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
第８表　分析対象となる黒曜石・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
第９表　東日本黒曜石産地の判別群・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
第10表　測定値および産地推定結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
第11表　器種別の産地 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
第12表　石材別集計表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
第13表　黒曜石産地分析一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73
第14表　石器集計表(掲載点数)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74
第15表　石器集計表(遺構別) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74
第16表　石器集計表(器種別・石材別) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
第17表　石器一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76

写真目次

PL. 1
1　棚下込山遺跡遠景(南から)
2　棚下込山遺跡１区北部～南部全景(南東から)
3　棚下込山遺跡２区全景(南から)
4　棚下込山遺跡１区北端部全景(南から)
5　１区北部第１調査面(南東から)
6　１区北部第１調査面(東から)
7　１区北端部第１調査面、焼土・炭化物(東から)
8　１区北端部第２調査面(西から)
PL. 2
1　10号旧石器確認トレンチ(南から)
2　11号旧石器確認トレンチ(南から)
3　１号旧石器確認トレンチ(西から)
4　５号旧石器確認トレンチ(西から)
5　８号旧石器確認トレンチ(南から)
6　７号旧石器確認トレンチ(南から)
7　１区北端部基本土層１(西から)
8　１区北端部基本土層２(西から)
9　１区中部基本土層(西から)
10　１区南部基本土層(西から)
11　２区基本土層Ａ(北から)
12　１号溝(西から)
13　２号溝(西から)
14　２号溝(南から)
15　３号溝(南から)
16　３号溝・土層断面(南から)
17　４号溝(北から)
18　４号溝・土層断面(南から)
PL. 3
1　10号土坑(南西から)
2　10号土坑・土層断面(南西から)
3　11号土坑(南西から)
4　11号土坑・土層断面(南西から)
5　13号土坑(北から)
6　13号土坑・土層断面(西から)
7　14号土坑(南東から)
8　14号土坑・土層断面(南西から)
9　15号土坑(北西から)
10　15号土坑・土層断面(南東から)
11　16号土坑(北西から)
12　16号土坑・土層断面(南西から)
13　17号土坑(北から)
14　17号土坑・土層断面(南西から)
15　20号土坑(南西から)
16　20号土坑・土層断面(南西から)
17　31号土坑(北から)
18　31号土坑・土層断面(西から)
PL. 4
1　34号土坑(西から)
2　34号土坑・土層断面(西から)
3　37号土坑(北西から)
4　38号土坑(北から)
5　38号土坑・土層断面(南西から)
6　40号土坑(西から)
7　40号土坑・土層断面(南から)
8　43号土坑(南西から)
9　43号土坑・土層断面(南西から)
10　48号土坑(西から)
11　48号土坑・土層断面(南西から)
12　78号土坑(南から)
13　78号土坑・土層断面(南から)
14　45号土坑(南西から)
15　45号土坑・土層断面(南西から)
16　46号土坑(南から)
17　46号土坑・土層断面(南から)
18　47号土坑(南から)
PL. 5
1　47号土坑・土層断面(東から)
2　49号土坑(西から)
3　49号土坑・土層断面(南西から)
4　50号土坑(西から)
5　51号土坑(南西から)
6　51号土坑・土層断面(南西から)
7　52号土坑(南西から)
8　52号土坑・土層断面(南西から)
9　54号土坑(西から)
10　59号土坑(南から)
11　61号土坑・土層断面(西から)
12　67号土坑(北から)
13　60号土坑(北から)
14　60号土坑・土層断面(西から)
PL. 6
1　62号土坑(南から)
2　62号土坑・土層断面(南西から)
3　65号土坑(南西から)
4　65号土坑・断ち割り(北東から)
5　71号土坑(東から)
6　71号土坑・土層断面(南から)
7　73号土坑(南から)
8　73号土坑・土層断面(東から)
PL. 7
1　81号土坑(西から)
2　81号土坑・土層断面(西から)
3　82号土坑(西から)
4　82号土坑・焼土(西から)
5　１区２面包含層(南西から)
6　１区２面包含層(南東から)
7　１区２面包含層(西から)
8　１区２面包含層(北から)
PL. 8
遺構出土遺物１
PL. 9
遺構出土遺物２
PL.10
遺構出土遺物３
PL.11
遺構出土遺物４、遺構外出土土器１
PL.12
遺構外出土土器２、遺構外出土石器１
PL.13
遺構外出土石器２
PL.14
遺構外出土石器３
PL.15
遺構外出土石器４
PL.16
遺構外出土石器５
PL.17
遺構外出土石器６
PL.18
遺構外出土石器７
PL.19
遺構外出土石器８
PL.20
遺構外出土石器９、剥片一括１
PL.21
剥片一括２
PL.22
剥片一括３
PL.23
剥片一括４
PL.24
剥片一括５
PL.25
剥片一括６
PL.26
黒曜石集合、縄文石器集合

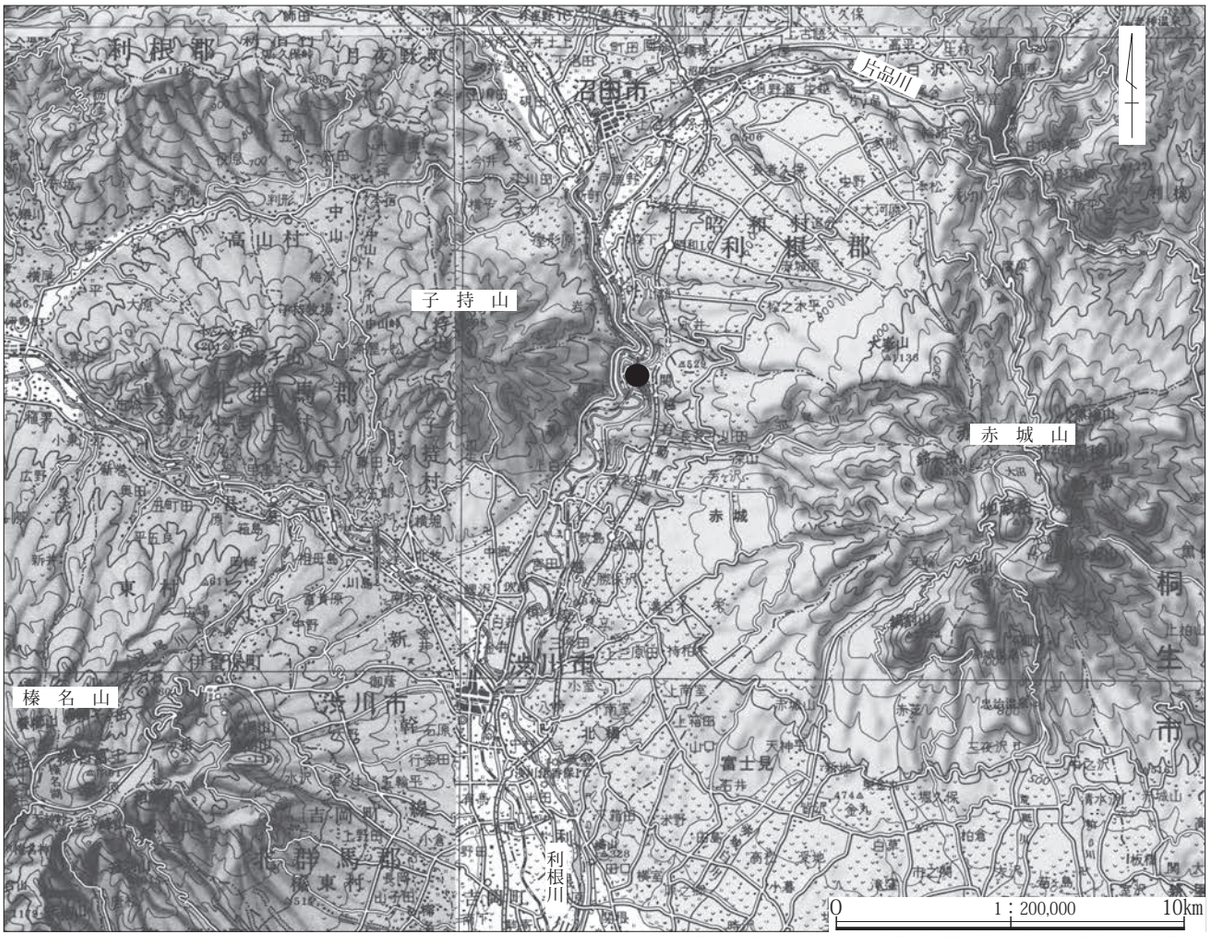
第１章　調査経過と調査の方法

第１節　調査に至る経緯

本書で調査成果を報告する棚下込山遺跡は、一般国道17号（綾戸バイパス）建設事業に伴って埋蔵文化財の発掘調査が実施された。

綾戸バイパス（以下「本路線」）は、災害に強い道路整備と関越自動車道等周辺道路における交通規制時の代替路としての機能確保を目的として、群馬県渋川市上白井から群馬県沼田市岩本町を結ぶ、国道17号のバイパスとなる４車線・延長2.3kmの路線である。国道17号は、東京と新潟を結ぶ主要幹線道路であり、当該区間は群馬県の県央と北毛地域とを連結する重要ルートでもあるが、利根川に沿った急峻な地形を通過していることから、当該区間内に線形不良箇所（曲線半径150m未満の急曲線）が10箇所も連続し、また落石等も発生する、事故の多発する場所となっている。本路線の整備により、線形不良箇所が解消され、また落石等による災害の回避も可能となり、安全性、円滑性が確保されることが期待されている。また国道17号の対岸となる利根川左岸には関越自動車道、県道255号下久屋渋川線、JR上越線が通過している。この関越自動車道の赤城IC～昭和IC間では、濃霧・積雪・雨量による通行止めが年間約35時間ほど発生している。その際に、隣接する県道下久屋渋川線がう回路となるのであるが、この路線は狭隘な道路であることからボトルネックと化すため、本路線は代替路の役割を果たす重要な路線となる。

本路線は平成４年度に事業化された。平成８年２月10



（国土地理院 20 万分１地勢図「長野」「宇都宮」を編集して使用。）

第１図　遺跡の所在

日、北海道後志管内古平郡古平町で発生した豊浜トンネル事故を受け、平成８年度から14年度に現道国道17号に対し緊急防災対策が施された。現道の緊急防災対策が平成14年度に概成したことから、バイパス事業が本格的に着手される事となり、平成22年度から用地買収に着手された。

群馬県教育委員会文化財保護課（現群馬県地域創生部文化財保護課、以下「文化財保護課」という。）による平成30年に実施された試掘・確認調査及び調整を経て、平成31年２月21日に国土交通省関東地方整備局、群馬県教育委員会、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団（以下「当事業団」）の３者による基本協定及び細目協定を締結し、国土交通省関東地方整備局と当事業団とが受委託契約を締結した。令和元年７月５日から令和元年12月31日を履行期間として、令和元年８月１日から10月31日まで１区の発掘調査を実施するに至った。また令和２年の文化財保護課による試掘・確認調査の結果及び調整を経て、国土交通省関東地方整備局と当事業団とが受委託契約を締結し、令和３年６月17日から令和３年10月31日を履行期間として２区の発掘調査を実施するに至った。発掘調査は令和３年８月１日から８月31日に行われた。また令和元年の文化財保護課による試掘・確認調査及び調整を経て、国土交通省関東地方整備局と当事業団とが受委託契約を締結し、令和５年４月１日から令和６年３月31日を履行期間として、令和５年５月１日から５月31日に１－１区の発掘調査を実施するに至った。

第２節　調査の経過と方法

本書に記載する棚下込山遺跡の発掘調査は令和元年度、令和３年度、令和５年度の三次にわたり実施された。以下は各年度の調査記録に基づき記載する。

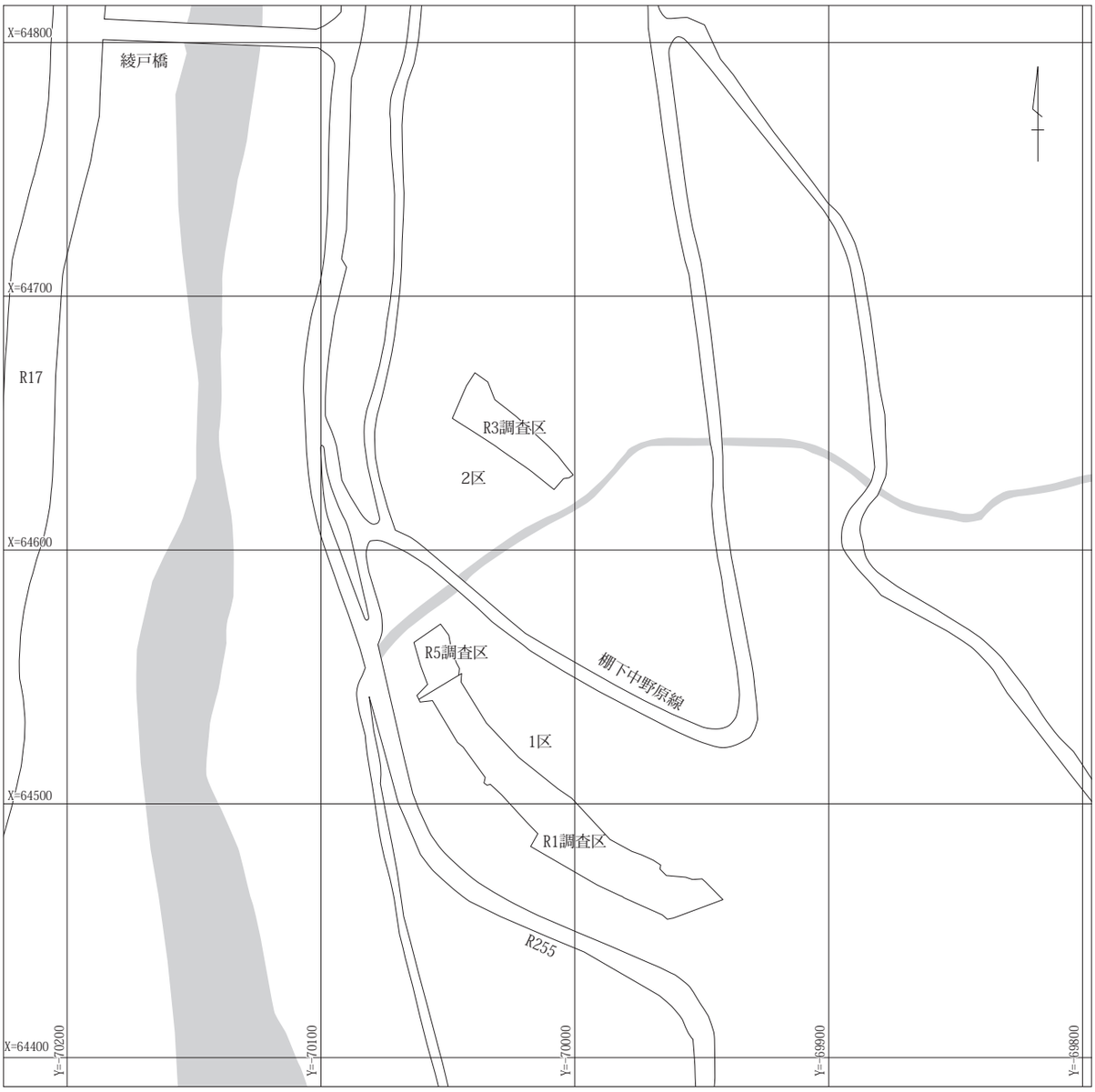
令和元年度の発掘調査は当事業団により令和元年８月１日から令和元年10月31日にかけて実施された。調査対

（国土地理院 2.5 万分１地形図「沼田」「鯉沢」を編集して使用。）

第２図　調査区の位置

象地は2,310㎡、調査遺構面は２面で、第１調査面は古墳時代、第２調査面は縄文時代として調査を行った。１区と呼称した発掘調査用地は、竹林や樹木、下草が繁茂しており、調査前の下準備として、人力による樹木の伐採など、まず用地整備を行った。その後、発掘調査は建設機械による表土掘削から始まり、次いで発掘作業員（以下「作業員」という。）による鋤簾を用いた平面精査によって遺構確認を行った。人為的な掘り込み箇所を遺構と認定し、遺構の精査、写真撮影、測量作業という工程で調査をすすめた。遺構堆積土の断面観察や写真撮影、遺跡掘削技術者（以下「現場代理人」という。）への指導を含め発掘方法の指導等は調査担当者が行った。遺構掘り下げなどの作業は現場代理人の指示により作業員がこれを行った。また航空写真撮影、遺構断面図、遺構平面図、出土遺物図等の図化は測量業者に委託した。遺構写真などの撮影に際しては1120万画素の一眼レフ・デジタルカメラと６×７判の一眼レフ・フィルムカメラを使用した。

発掘調査着手当初は縄文時代面の調査のみを予定していたが、Hr-FPが想定よりも厚く残る箇所が確認できたため、Hr-FP下の黒色土層（古墳時代）と下位の黄褐色土



0　1：2,500　100m

（国土地理院地図 Vector（試験公開）
https://maps.gsi.go.jp/vector/#17/36.579529/139.051659/&ls=vstd&disp=1 を加工。）

第３図　調査区設定

層(縄文時代)の２面の調査を実施した。古墳時代面(第１調査面)では土坑や溝、自然流路が発見された。縄文時代面(第２調査面)では、調査区北側において土坑と遺物包含層の形成が確認された。縄文時代面の調査終了後には、旧石器時代の遺構･遺物の確認調査を実施したが、文化層の確認には至らなかったものの、旧利根川の河床礫と見られる礫層を確認した。

令和３年度の発掘調査は令和３年８月１日から令和３年８月31日にかけて実施した。今回の953.68㎡の調査対象地を２区と呼称した。２区は文化財保護課の試掘・確認調査結果からHr-FPの堆積が予想され、古墳時代の地表面(第１調査面)やその下の縄文時代面(第２調査面)の遺構の存在が想定されたことから、表土掘削以下記録作業に至る一連の手順を２度行うこととした。表土掘削は、建設機械を用いて掘削作業を行うが、調査担当者が掘削の深さを確認しながら機械オペレーターが作業を行った。掘削後の遺構や遺物の検出作業、遺構の掘り下げ作業等は調査担当者が現場代理人を指導し、現場代理人の指示により作業員がこれを行った。遺構埋没土の観察や遺構写真、遺物出土写真等の写真撮影は調査担当者が行い、遺構断面図、遺構平面図、出土遺物図等の図化は測量業者に委託した。遺構写真などの撮影に際しては2000万画素の一眼レフ・デジタルカメラと６×７判の一眼レフ・フィルムカメラを使用した。

発掘調査は、調査区を東西に区分し、東側から着手した。最近の軽石採取により軽石の大半が除去され、古墳時代の地表面にまで作業機械の作業痕が残されていた。その中で、水路寄りの調査区東端付近の地点にHr-FP降下後に掘られた土坑を確認し､写真撮影､図化記録を行った。古墳時代面下位の第２面目であるローム上面では、ピットや倒木痕を確認し、掘り下げから埋没土の観察、写真撮影、図化記録を行った。最後にローム層中の旧石器時代の遺構・遺物の確認を行ったが遺構・遺物は出土せず、東側の調査は終了し埋め戻し作業を行った。西側の調査は、東側の表土掘削に続き着手した。第１面目では遺構が確認できなかったので引き続き第２面の掘削を行った。第２面では土坑や倒木痕を確認し、写真撮影、図化記録を行った。最後にローム層中の旧石器時代の遺構・遺物の確認調査を行ったが、遺構・遺物は出土せず西側調査が終了し埋め戻し作業を行い、８月末に埋め戻しが完了した。発掘調査終了に伴い、調査区内に打設されていた杭の復元や事務所プレハブの解体撤去、機材の撤収などの作業を完了させ、８月末日をもって令和３年度の全ての工程を終えた。

令和５年度の発掘調査は令和５年５月１日から令和５年５月31日にかけて実施した。令和元年度調査地の北辺に隣接した364.85㎡の調査対象地を１-１区と呼称した。文化財保護課による試掘・確認調査の結果と、隣接する１区の調査状況から、Hr-FP上面(古代以降)を１面、Hr-FP下面の黒色土層(古墳時代)を２面、ローム漸移層(縄文時代)の３面を対象とする調査を行った。建設機械による遺構確認面の掘削作業は調査担当者が掘削の深さを確認しながら作業を進めた。遺構埋没土の観察や写真撮影等は調査担当者が行い、遺構の掘削等は調査担当者が現場代理人に発掘方法を指導し、現場代理人の指示により作業員がこれを行った。また遺構断面図、遺構平面図、出土遺物図等の図化は、測量業者に委託して行った。遺構写真の撮影に際しては2000万画素の一眼レフ・デジタルカメラと６×７判の一眼レフ・フィルムカメラを使用した。

発掘調査対象となる１面は現地表下1.5mほどの位置となるため、安全勾配を遵守しつつ、建設機械により表土を掘削した。１面に相当するHr-FPを確認し、作業員の手作業による遺構精査に切り替え、遺構確認を行ったが遺構は確認されなかった。ついでHr-FPを建設機械により掘削し、２面目の黒色土層を確認した。作業員の手作業による遺構精査により土坑が確認されたので、記録作業を行った。同様にして掘削を行い３面に相当するローム漸移層の精査を行った。土坑が確認されたので記録作業を行った。その後旧石器時代の遺構・遺物確認のためのトレンチ３箇所を設定・調査したが、遺構・遺物は確認されなかった。発掘調査終了に伴い埋め戻しに着手した。埋め戻し作業が完了し、プレハブや機材の撤収等、必要な作業を完了させ５月末日をもって令和５年度の調査を終了させた。

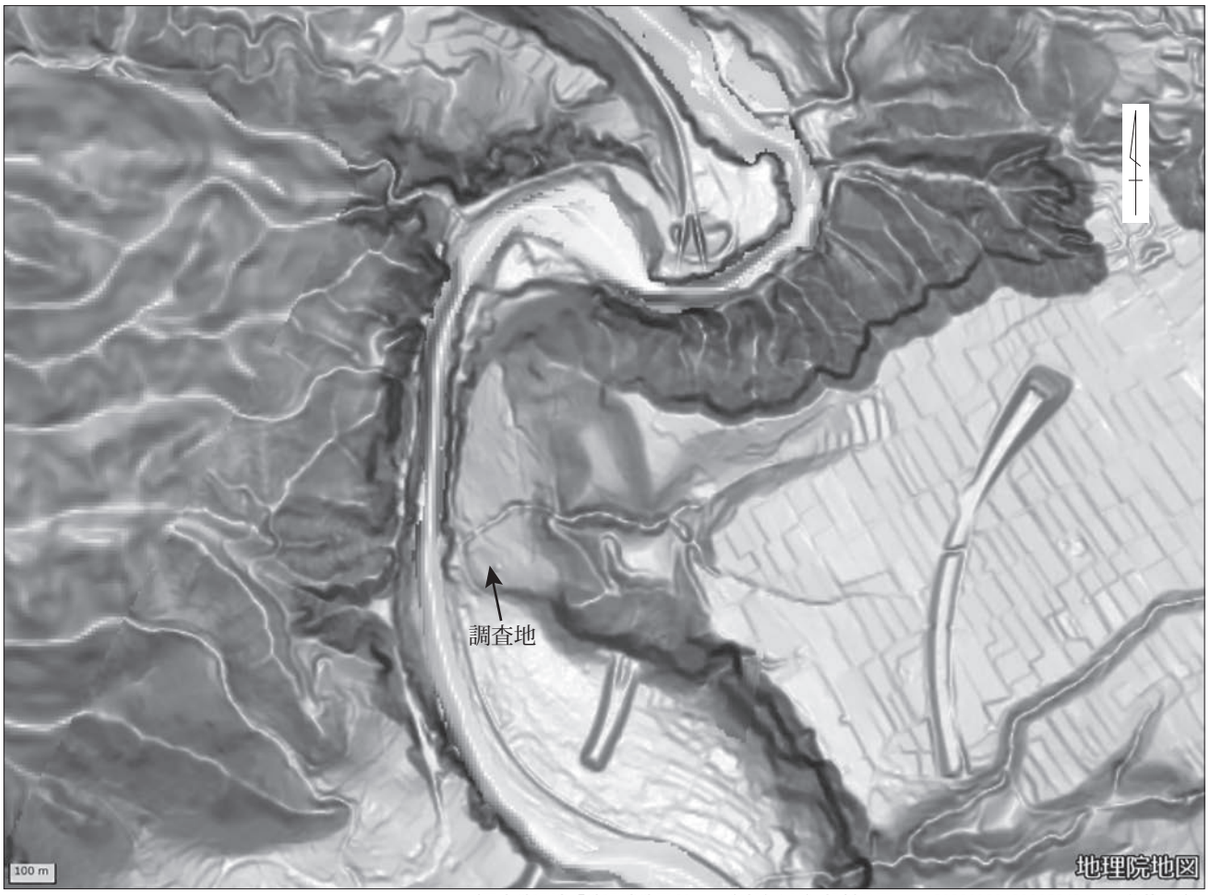
なお本書では、令和５年度調査の１-１区を１区北端部と記載し、１-１区１面(古代以降)を１区Hr-FP上面、１-１区２面(Hr-FP下黒色土層)を１区１面(古墳時代面・第１調査面)、１-１区３面(ローム漸移層)を１区２面(縄文時代面・第２調査面)と読み替え、用語の統一を図った。

第２章　周辺の環境

第１節　地理的環境

棚下込山遺跡(以下「本遺跡」)は群馬県渋川市赤城町棚下に所在する。渋川市は群馬県のほぼ中央、関東平野の最北西部に位置する。渋川市は平成18年の合併により、利根川を挟み西は榛名山の山頂から東は赤城山の山頂近くまで至り、標高は139mから1565mに及んでいる。市域に赤城山(1,828m)、榛名山(1,449m)、子持山(1,296m)、小野子山(1,208m)と、利根川や吾妻川の流れによって形成された谷地を含み、起伏に富んだ地形となっている。北は吾妻郡高山村、沼田市、利根郡昭和村と接し、東は前橋市、南は北群馬郡吉岡町と接し、西は高崎市、吾妻郡東吾妻町、吾妻郡中之条町と接する。また市域にはJR上越線(高崎市高崎駅-新潟県宮内駅/ガーラ湯沢駅)、JR吾妻線(渋川市渋川駅-吾妻郡嬬恋村大前駅)の２路線が通り、また南北に関越自動車道(東京都練馬区-新潟県長岡市)と国道17号(東京都中央区-新潟県新潟市)、東西に国道353号(桐生市-新潟県柏崎市)が通っている。

本遺跡の所在する渋川市赤城町は利根川左岸の赤城山西麓に位置し、渋川市の北辺の東半を構成する。赤城町は平成18年の合併により、勢多郡赤城村から渋川市赤城町となった。この赤城村も昭和31年の合併により成立したもので、それ以前は北の勢多郡敷島村と南の勢多郡横野村の二村に分かれていたが、本遺跡はこの旧敷島村域に立地する。赤城町の地形は東の赤城山山頂(薬師岳・標高1,524m)から西の利根川河畔にかけて山体部、山麓部、段丘部の三部に区分されている。町域西端の標高200mから標高300m付近にある、面積的には狭い範囲に



(国土地理院「地理院地図 Vector(試験公開) 傾斜量図」gsi20230920133005342.pngを使用。)

第４図　周辺の地形

（国立研究開発法人産業技術総合研究所地質調査総合センター「20 万分の１日本シームレス地質図Ｖ２」
地質図更新：2023年5月10日、https://gbank.gsj.jp/seamless/v2/ を加工。）

凡例

H_sad	新生代 第四紀 完新世 堆積岩、谷底平野・山間盆地・河川・海岸平野堆積物	
H_svd	新生代 第四紀 完新世 堆積岩、自然堤防堆積物	
Q32-33_std	新生代 第四紀 後期更新世中期～後期更新世後期 堆積岩、段丘堆積物	
Q31_std	新生代 第四紀 後期更新世前期 堆積岩、段丘堆積物	
Q22_sn	新生代 第四紀 更新世 後期チバニアン期 堆積岩、非海成層	
J１_sbc	中生代 前期ジュラ紀 堆積岩、汽水成層ないし海成・非海成混合層 礫岩	
N２_som	新生代 新第三紀 中新世 後期ランギアン期～トートニアン期 堆積岩、海成層 泥岩	
Q１-H_v_af	新生代 第四紀 更新世 ジェラシアン期～完新世 火成岩、火山岩 火山麓扇状地堆積物	
Q３_vis_al	新生代 第四紀 後期更新世 火成岩、安山岩・玄武岩質安山岩 溶岩・火砕岩	
Q２_vis_al	新生代 第四紀 更新世 チバニアン期 火成岩、安山岩・玄武岩質安山岩 溶岩・火砕岩	
Q12_vis_al	新生代 第四紀 更新世 カラブリアン期 火成岩、安山岩・玄武岩質安山岩 溶岩・火砕岩	
N２_vas_al	新生代 新第三紀 中新世 後期ランギアン期～トートニアン期 火成岩、デイサイト・流紋岩 溶岩・火砕岩	
N３_vas_ap	新生代 新第三紀 中新世 メッシニアン期～鮮新世 火成岩、デイサイト・流紋岩 大規模火砕流	
O-S_pu_a	古生代 オルドビス紀～シルル紀 火成岩、超苦鉄質岩類 島弧・大陸	
K22_pam_a	中生代 後期白亜紀 カンパニアン期～マーストリヒチアン期 火成岩、花崗岩 塊状 島弧・大陸	
	河川	

第５図　周辺の地質

展開する段丘部も、東から上位、中位、下位の三部に区分されているが、町内唯一の平坦地といわれている。

赤城町の町名の由来となった赤城山は底面の径約35×22㎞の大型の成層火山であり、国土地理院により「日本の典型地形」の一つとして紹介されている。これによると、赤城山のもつ長大な裾野は、火山麓扇状地、岩屑なだれ堆積面、火砕流堆積面から構成されており、北麓から西麓にかけては火山麓扇状地が広く展開し、南麓には火砕流台地と泥流丘が存在する。約50～40万年前から始まったとされる赤城山の活動は、古期成層火山形成期、新期成層火山形成期、中央火口丘形成期の三期に区分されている。古期成層火山形成期の岩屑なだれ堆積面は、約30～20万年前に発生した山体崩落による大規模な岩屑なだれであり、南西麓及び南東麓から東麓に痕跡が残される。岩屑なだれ堆積面としては南東麓の梨木泥流が著名である。また南麓の火砕流台地は新期成層火山形成期の溶岩流とテフラの噴出によるものとされ、大胡火砕流が著名であるが、火砕流の痕は西麓にも残されており、棚下火砕流などが知られる。棚下火砕流は約13万年前(山本2016)、赤城山西側面で大量に軽石が噴出して北側に堆積し軽石層を形成した際に、多量の岩塊や軽石が山体西側にも流れ下ってできたものであり、本遺跡の立地する赤城町棚下周辺に堆積し、利根川を堰き止めて古沼田湖を形成したとされる。古沼田湖を生んだ天然ダムは利根川に浸食されて約10万年前には消失し、利根郡昭和村糸井周辺の河岸段丘が残されたとされる。

第２節　歴史的環境

本遺跡の所在する群馬県渋川市赤城町棚下周辺の地理的環境や歴史的環境については文末に付した参考資料に詳しいので、本節では本遺跡周辺の主な遺跡の分布図(第６図)とその一覧表(第１表)を掲載し、当地域の概要を記載する。なお本節に記載した遺跡の名称と所在は原則として「マッピングぐんま遺跡マップ」に掲示されたデータに準拠している。なお、本遺跡周辺の遺跡密度は決して高いとは言い難いものであるが、これは調査事例の少なさに由来するものであり、これをもって潜在する遺跡数の多寡を意味しない。

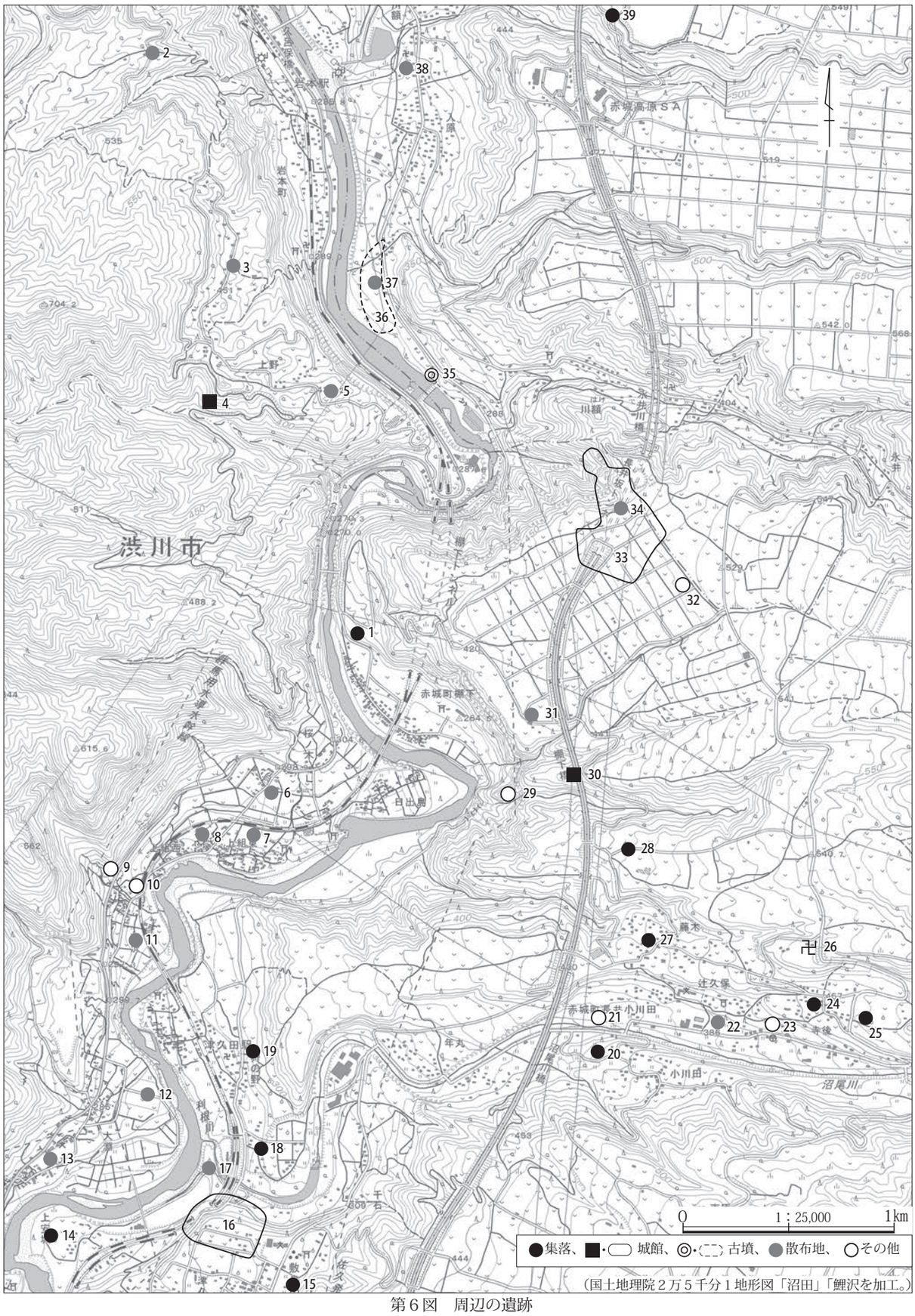
１　旧石器時代

みどり市岩宿遺跡に代表されるように、旧石器時代遺跡の宝庫と呼ばれる赤城山南麓に比べ、赤城山西麓に周知の遺跡は多くはないが、本遺跡北東1.5㎞に位置する長井坂城跡(33)の北端、利根郡昭和村域に属する山麓断崖上の標高480m付近のAT直下の地層から、ナイフ形石器やスクレイパー、縦長剥片、楔状石器などが出土している。このほか図外とはなるが、下流の吾妻川との合流点に近い渋川市赤城町の勝保沢中ノ山遺跡、見立溜井遺跡、諏訪西遺跡などが旧石器時代の遺跡として知られている。

２　縄文時代

渋川市赤城町域においては、標高250m付近の利根川左岸にひろがる河岸段丘上ならびに標高300～500m付近の山麓部に形成される複雑に発達した舌状台地を中心に縄文時代の遺跡が分布すると考えられている。また段丘面毎の比較として、上位の段丘は早期・前期が多く、中位の段丘は前期、下位の段丘は中期から後晩期の集落が多いとされる。渋川市赤城町域・利根郡昭和村域ともに、時代を下るにつれ標高の高い地点から標高の低い地点に集落拠点が移り変わることが指摘されている。こうした傾向を踏まえ、特筆される遺跡として、本遺跡東南東７㎞ほどの標高800m付近の山岳部から敷石住居３棟が出土した渋川市赤城町北赤城山中山遺跡があげられている。

旧石器時代の遺跡として知られる上述の諏訪西遺跡、見立溜井遺跡からは撚糸文系、沈線文系、条痕文系などの早期の遺物が出土している。岩下清水古墳群(36)の古墳周堀の外側面から、前期中葉の有尾・黒浜式を主体とする土器片多数が出土しており、周辺に前期集落の存在が想定されている。梨木平遺跡(19)や図外とはなるが渋川市赤城町六万遺跡では前期後葉諸磯ｃ式期の竪穴建物が確認されている。南雲諸峯遺跡(25)では中期の竪穴建物が確認され、南雲沢遺跡(18)では中期の土器片が採取されており、藤木遺跡(27)では敷石住居が確認されている。なお藤木遺跡からは早期後半の茅山式、前期前半の関山式、前期後半の諸磯式、後期中葉の加曽利Ｂ式の土器が確認されており、早期から後期に至る集落と考えら


渋川市
赤城高原ＳＡ
赤城町柳下
小川田
沼尾川
利根川
1 : 25,000
0
1km
●集落、■・▭ 城館、◎・〔 〕古墳、● 散布地、 ○その他
（国土地理院２万５千分１地形図「沼田」「鯉沢を加工。）

第６図　周辺の遺跡

れている。また利根郡昭和村域では、利根川・片品川合流点上流３㎞程の糸井地区に遺跡が集中するとされ、特に前期における、遺跡当たりの住居の多さが指摘されている。

３　弥生時代

渋川市赤城町域の標高250m付近の利根川左岸にひろがる河岸段丘上の、六万遺跡などから樽式土器の破片が出土している。利根郡昭和村域では糸井地区の昭和村役場周辺とその南方及び北東方向に分布がみられるとされ、利根郡昭和村中棚遺跡では竪穴建物が確認されている。

なお図外となるが、上毛野地域の弥生時代後期を代表する土器の一つである樽式土器の標識遺跡となった樽遺跡は、本遺跡から南南西に９㎞ほど下流の利根川・吾妻川合流点に近い利根川左岸の段丘上に存在する。遺跡は西流し利根川にそそぐ天竜川が南に大きく蛇行し残された台地の中ほどから発見されている。周囲は東に赤城山西麓の山麓崖が迫り、狭い範囲に段丘と段丘崖、凹地、山地が混在する複雑な地形となっている。

４　古墳時代

周辺の古墳分布は利根川と片品川の合流点を中心に大きく３群が指摘されている。まず、合流点から約３㎞ほど上流の片品川左岸段丘面の一群。次いで合流点付近の左岸段丘面の一群、利根郡昭和村森下・川額古墳群が相当し、５世紀代を初現として７世紀代を主体とする群集墳とされる。最後に合流点から約３㎞ほど下流で、間近に綾戸渓谷を臨む利根川左岸段丘面の一群、方形積石塚を有する岩下清水古墳群や円形積石塚の鏡石古墳(35)が相当し、５世紀から６世紀にかけて古墳の築造が行われている。

渋川市赤城町域の古墳時代の遺跡は、弥生時代同様、主に標高250m付近の利根川左岸に広がる河岸段丘上から見つかっており、標高約300m付近の舌状台地上および断崖下に広がる河岸段丘上に集落が形成されると考えられている。利根郡昭和村域にあっては、糸井地区、森下地区とともに南の川額地区への広がりが見られるとされる。また糸井地区や川額地区などでHr-FP下水田が確認されているほか、津久田上安城遺跡(14)でも畦が確認されている。

５　奈良・平安時代

利根川・片品川合流点付近に立地する利根郡昭和村森下地区は利根郡の郡衙が想定されている地域であり、森下・川額古墳群の分布域と８世紀の竪穴建物16棟が確認された利根郡昭和村森下中田遺跡の中間付近から瓦塔や瓦などの出土が知られている。なお利根郡には渭田(奴末田)、男信(奈万之奈)、笠科(加佐之奈)、呉桃(奈久留美)の四郷が置かれたが、昭和村域に笠科郷が存在したと考えられている。

単独出土遺物ではあるが渋川市赤城町三原田諏訪上遺跡では瓦塔片と布目瓦片が出土している。なお標高450mほどの山麓部に立地する南雲寺後遺跡(24)から竪穴建物１棟、竪穴状遺構１基、土坑２基が出土しており、竪穴建物から墨書土器や鉄滓など、隣接する竪穴状遺構から炭化したクヌギなどの炭化種子や、鹿や猪の獣骨片が多量に出土している。津久田上安城遺跡(14)では竪穴建物と鍛冶遺構が確認されている。

６　中世

後白河法皇(1127-1192)御所の六条長講堂に付属する荘園所領である長講堂領荘園の一つとされる上野国拝志荘は渋川市赤城町津久田の地を中心とする赤城山西麓に置かれ、上野九牧の一つである拝志牧も同様に赤城山西麓に設けられたとされる。なお赤城山南西麓から西麓にかけての広大な地域を拝志荘とする説もあり、津久田から南に14㎞程離れた旧利根川左岸の前橋市日輪寺町周辺からも拝志荘を傍証する資料が確認されている。後に「拝志荘名雲郷の半分」が山内上杉氏所領に加えられており、永禄年間(1558-1570)まで当地の実質的な支配は山内上杉氏守護代の長尾氏の元にあり、白井衆の一画を担ったとされる。

中世前半において、山岳部の標高800m付近の渋川市赤城町深山地内の字潜下や字五郎屋敷付近が交通の要衝と考えられており、山岳部から山麓部を主体に村落が栄えていたとされる。後半になると、標高300～400m前後の山麓部の断崖地形を利用して長井坂城、長井坂城の出城とされる棚下砦(南雲御殿遺跡)(30)、長井坂城の後詰の城とされる津久田城(16)と図外になるがその支城とされる津久田砦、そのほか猫城などが築かれており、天

正年間(1573-1592)には利根川・吾妻川合流点に立地する白井城を核とする縦深陣が構築されていたと考えられる。なお長井坂城の北には図外になるが、利根川・片品川合流点に森下城(鎌田の砦)、その上流の糸井地区に阿曽の砦がある。この森下城は天正８(1580)年に真田昌幸(1547-1611)に攻略され真田氏に組し、天正10(1582)年には北条氏に攻め落とされている。

長井坂城は16世紀中頃以降の築城と考えられており、上杉謙信(1530-1578)が越山した際にはここに陣を張ったと伝えられている。天正の初め頃には北条方の持ち城となり、天正６(1578)年に真田氏が沼田城を攻略した際には北条勢の最前線の要となり、天正18(1590)年の小田原城落城に伴い廃城とされた。上州を囲む上杉、相模北条、甲斐武田(真田)の三つ巴の様相の中で、軍事的拠点として重要視された旧敷島村域は戦国動乱の舞台となったと考えられている。

南雲辻久保遺跡(23)では五輪塔や古瀬戸梅瓶の蔵骨器が出土している。なお赤城山西麓の沼田街道によって、渋川市赤城町の南雲宿や溝呂木宿などが宿場町として繁栄するに至るのは近世の事とされる。

参考資料
黒岩文夫　1985「第２章第２節　歴史的環境」『中棚遺跡－長井坂城跡－』昭和村教育委員会pp.14～15
群馬県　2017『マッピングぐんま　遺跡マップ』https://www2.wagmap.jp/pref-gunma-iseki/Portal
群馬県勢多郡敷島村誌編纂委員会　1959『群馬県勢多郡敷島村誌』群馬県勢多郡敷島村誌編纂委員会
群馬県勢多郡横野村誌編纂委員会　1956『群馬県勢多郡横野村誌』群馬県勢多郡横野村誌編纂委員会
小林　修　1998「第２章第１節　遺跡の立地と歴史的環境」『南雲御殿遺跡(棚下砦跡)』赤城村教育委員会pp.３～６
小林　修　1998「第３章第２節　樽遺跡の発見と発掘調査」『赤城村考古資料図録Ⅱ』赤城村教育委員会pp.26～33
竹本弘幸　1998「利根川水系片品川流域の地形発達史」『地理学評論71巻11号』公益社団法人日本地理学会pp.783-804
水田　稔　2015「第２章第２節　遺跡の歴史的環境」『岩下清水古墳群Ⅱ』昭和村教育委員会pp.３～11
山元孝広　2016「赤城火山軽石噴火期のマグマ噴出率と組成の変化」『地質学雑誌　第122巻第３号』一般社団法人日本地質学会pp.109-126

第１表　周辺の遺跡

№.	遺　跡　名	所　在	旧石器	縄文	弥生	古墳	古代	中世	近世	種　別	備　考	文　献
1	棚下込山遺跡	渋川市赤城町棚下 386-2 他		○						集落		
2	戸嶋山田遺跡、滝沢遺跡	沼田市岩本町 1327 他		○						散布地		
3	大石遺跡	沼田市岩本町 983 他		○						散布地		
4	境沢の砦跡	沼田市岩本町 853 他						○		城館		21
5	小鴈田遺跡、大久保遺跡	沼田市岩本町 665 他		○						散布地		22
6	(K0089)	渋川市上白井原 703 他		○						散布地		
7	(K0088)	渋川市上白井中曽根 641 他			○	○				散布地		
8	(K0087)	渋川市上白井椚平 944 他			○					散布地		
9	芭蕉霊神塚	渋川市上白井 1052-1							○	石碑	村史跡	
10	良夜塚	渋川市北牧乙 1596							○	石碑	村史跡	
11	(K0039)	渋川市上白井暮沢 1146-15 他		○						散布地		
12	(K0040)	渋川市上白井悪戸 1322-1 他		○						散布地	縄文前期	
13	(K0041)	渋川市上白井渕ノ上 1808-1 他		○			○			散布地		
14	津久田上安城遺跡	渋川市赤城町津久田 1555 番地					○			集落		10、13、14
15	三間入遺跡	渋川市赤城町津久田三間入 2114		○						集落、包含地		9
16	津久田城跡	渋川市赤城町津久田寄居 2267-1 他						○		山城	赤城村指定史跡	9、11、24
17	津久田鵜見舞遺跡	渋川市赤城町津久田鵜見舞 2475-1 外		○						散布地		3
18	南雲沢遺跡	渋川市赤城町津久田小谷戸 2614 他		○						散布地、集落、包含地	津久田南雲沢遺跡	1、9
19	梨木平遺跡	渋川市赤城町津久田梨木平 2654		○		○				集落	津久田梨木平遺跡	
20	小川田遺跡	渋川市赤城町長井小川田小川田 444 他		○	○					散布地、集落		2、9
21	南雲三島谷戸遺跡	渋川市赤城町長井小川田三島谷戸 1543-1						○		墓、社寺		2

№.	遺　跡　名	所　在	旧石器	縄文	弥生	古墳	古代	中世	近世	種　別	備　考	文　献
22	上南雲遺跡	渋川市赤城町長井小川田上南雲 1394 他		○						散布地		9
23	南雲辻久保遺跡	渋川市赤城町長井小川田辻久保 1346 番地						○		墓、その他		5
24	南雲寺後遺跡	渋川市赤城町長井小川田 1172 番地外		○			○			集落	寺後遺跡	1 、6 、7
25	南雲諸峯遺跡	渋川市赤城町長井小川田 1105 他		○			○			集落	諸峯住居跡	1 、10、15
26	富士塚遺跡	渋川市赤城町長井小川田上風張 2510							○	社寺、墓、その他		
27	藤木遺跡	渋川市赤城町長井小川田藤木 2295		○						散布地、集落	藤木住居跡	1 、9
28	南雲鈩沢遺跡	渋川市赤城町長井小川田鈩沢 2679 番地		○		○				集落		12
29	棚下不動寺経塚	渋川市赤城町棚下大岩 902 番地 1 他							○	経塚		23
30	南雲御殿遺跡、棚下砦跡	渋川市赤城町長井小川田鈩戸 4431 外４筆						○		城館		3 、4 、9
31	トド原遺跡	渋川市赤城町棚下トド原 814 他		○						散布地		2 、9
32	棚下ひばり塚遺跡	渋川市赤城町棚下 1122 番地							○	墓、その他		
33	長井坂城跡（A0031） （0028）	渋川市赤城町棚下綾戸 583 他 利根郡昭和村川額原 3892	○					○		城館	県指定史跡	18 ～ 20
34	長井坂城遺跡	利根郡昭和村川額 3891	○					○		散布地、城館		20
35	鏡石古墳	利根郡昭和村川額 2196 番地				○				古墳	竪穴式石室	8
36	岩下清水古墳群	利根郡昭和村川額 1961 番地ほか		○		○				古墳	川額岩下古墳群	16、17
37	岩下縄文遺跡	利根郡昭和村川額岩下		○						散布地	岩下遺跡	
38	川額内方遺跡	利根郡昭和村川額 1226 番地ほか		○						散布地		
39	森下関屋ノ上遺跡	利根郡昭和村森下関屋ノ上 1945-7		○						集落		

文献一覧

1　赤城村教育委員会　1998『赤城村考古資料図録Ⅱ』赤城村教育委員会
2　赤城村教育委員会　1996『赤城村内遺跡Ⅱ』赤城村教育委員会
3　赤城村教育委員会　1997『赤城村内遺跡Ⅲ、津久田鵜見舞遺跡、見立十三塚遺跡』赤城村教育委員会
4　赤城村教育委員会　1998『南雲御殿遺跡（棚下砦跡）』赤城村教育委員会
5　赤城村教育委員会　2005『南雲辻久保遺跡（高秀寺古墓）』赤城村教育委員会
6　赤城村教育委員会　1997『南雲寺後遺跡、津久田桜ノ木遺跡』赤城村教育委員会
7　赤城村教育委員会　1995『村内遺跡Ⅰ』赤城村教育委員会
8　群馬県教育委員会　1974『鏡石古墳発掘調査報告』群馬県教育委員会
9　敷島村誌編纂委員会　1959『群馬県勢多郡敷島村誌』群馬県勢多郡敷島村誌編纂委員会
10　渋川市教育委員会　2008『市内遺跡Ⅰ』渋川市教育委員会
11　渋川市教育委員会　2015『渋川市市内遺跡８』渋川市教育委員会
12　渋川市教育委員会　2020『渋川市市内遺跡 13』渋川市教育委員会
13　渋川市教育委員会　2009『津久田上安城遺跡Ⅰ』渋川市教育委員会
14　渋川市教育委員会　2014『津久田上安城遺跡Ⅱ』渋川市教育委員会
15　渋川市教育委員会　2009『三原田諏訪上遺跡Ⅵ、南雲諸峯遺跡』渋川市教育委員会
16　昭和村教育委員会　2002『岩下清水古墳群』昭和村教育委員会
17　昭和村教育委員会　2015『岩下清水古墳群Ⅱ』昭和村教育委員会
18　昭和村教育委員会、赤城村教育委員会　1998『群馬県指定史跡　長井坂城跡保存整備基本構想報告書』昭和村教育委員会、赤城村教育委員会
19　昭和村教育委員会　2003『長井坂城跡試掘調査報告書』昭和村教育委員会
20　昭和村教育委員会　1985『中棚遺跡、長井坂城跡』昭和村教育委員会
21　沼田市　1995『沼田市史　資料編１、原始古代・中世』沼田市
22　沼田市教育委員会　2001『小鴈田遺跡』沼田市教育委員会
23　ニューサイエンス社　1982『考古学ジャーナル 210』ニューサイエンス社
24　山崎一　1972『群馬県古城塁址の研究　下巻』群馬県文化事業振興会

棚下込山遺跡遠景（北東から）

第３章　確認された遺構と遺物

第１節　調査の概要と基本土層

第１項　調査の概要

棚下込山遺跡(以下「本遺跡」)は群馬県渋川市赤城町棚下に所在する。赤城山と子持山とを分かつ利根川の左岸、赤城山西麓の断崖上に位置する本遺跡の標高は290m前後であり、綾戸峡に面し、利根川との比高は35mを測る。上越県境に端を発する利根川は、片品川と合流し子持山と赤城山の合間を大きく蛇行しながら南流する。本遺跡はその蛇行部分の北端近くに位置し、西に張り出した幅1.2km程度の舌状台地の西端斜面に立地する。調査区は台地上に展開する緩斜面をなす高原部分の西端から、西に500m程離れ130m程度下った場所にある。なお本遺跡の南には利根川との比高10m以下の一画が存在する。

本遺跡を東西に横切り、利根川左岸沿いの群馬県道255号下久屋渋川線と台地上とを結ぶ渋川市道棚下中野原線が存在する。調査区は、この棚下中野原線の南側を１区、北側を２区とした。また調査区は台地を西流し台地斜面を流下する水路の南北に位置しており、調査区１区の北辺はこの水路に接している。

遺構の殆どは調査面積も広い１区から検出されている。１区から溝４条、自然流路１条、土坑77基、ピット１基と焼土遺構２基、２区からは土坑２基、ピット３基が検出されている。１区の土坑は調査区の北半に集中するが、溝は散在している。２区は調査区の東西両端近くから各１基の土坑が検出されており、等高線に沿う位置関係で倒木痕が確認されている。なお１区では北西に位置する北端部から倒木痕が確認されている。

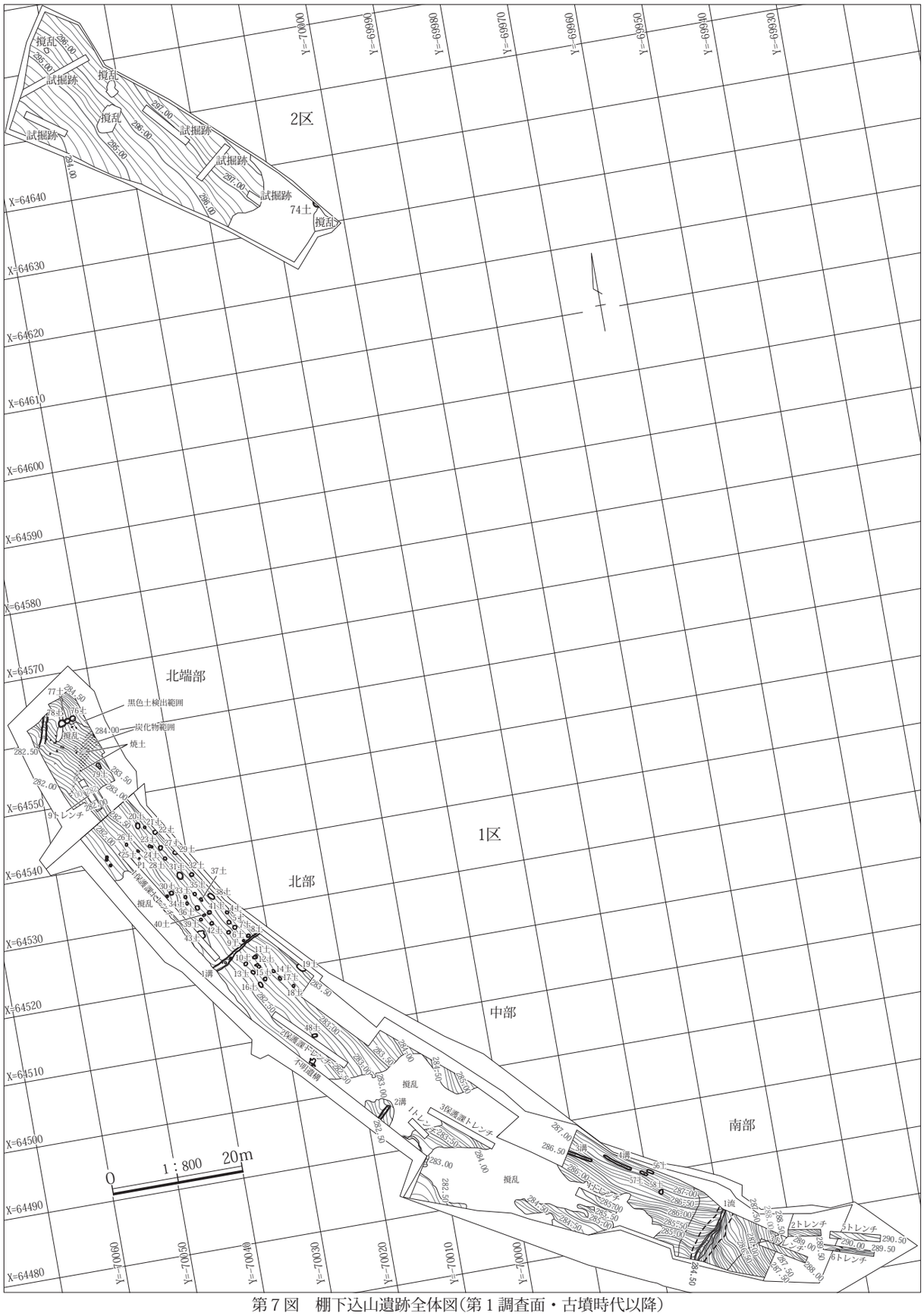
遺構確認面はHr-FP下の黒色土層を第１調査面(以下「１面」)、その下位の黄褐色土層を第２調査面(以下「２面」)とした。１区の遺構のうち溝と自然流路は１面からの出土であり、土坑48基、ピット１基も同様である。２面から土坑29基と遺物包含層１箇所と焼土遺構２基が検出されている。２区１面は土坑１基のみの検出であり、２面は土坑１基とピット３基が検出されている。

１次・２次の調査と異なり、１区北端部の発掘調査ではHr-FP上面を１面として記録されており、１区北端部調査時の２面(黒色土層)を本書では１面、１区北端部調査時の３面(ローム漸移層)を本書では２面とした。

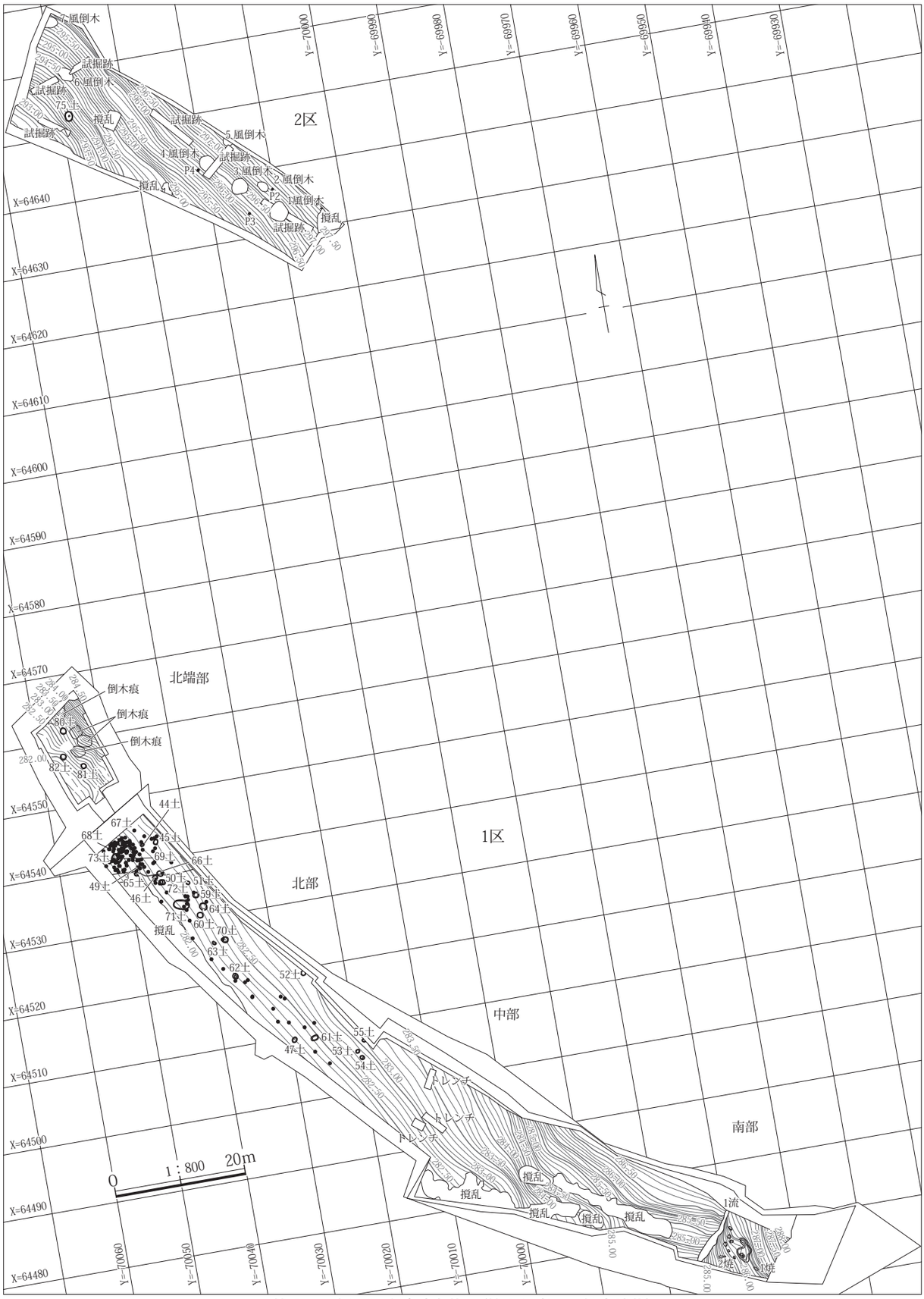
第２項　基本土層

本書に記載する調査区は、半径110mの半円の中に収まるほどではあるが、傾斜地(標高差15m)ゆえかその土層の堆積状況は微妙に相違し、南北に三分されている。まず北側は調査区２区の基本土層(２区南壁)に代表される。南側はいずれも１区に区分した場所であるが１区北端部(９号旧石器確認トレンチ)と１区中・南部でそれぞれ様相を異にしている。なお国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)の土壌インベントリーによると、遺跡の立地する台地の斜面は「細粒質ばん土質褐色森林土」とされるが、台地西端部である棚下中野原線沿いの狭い範囲については「典型普通火山放出物未熟土」となっており、調査区１区北端部はこの未熟土の領域に位置している。

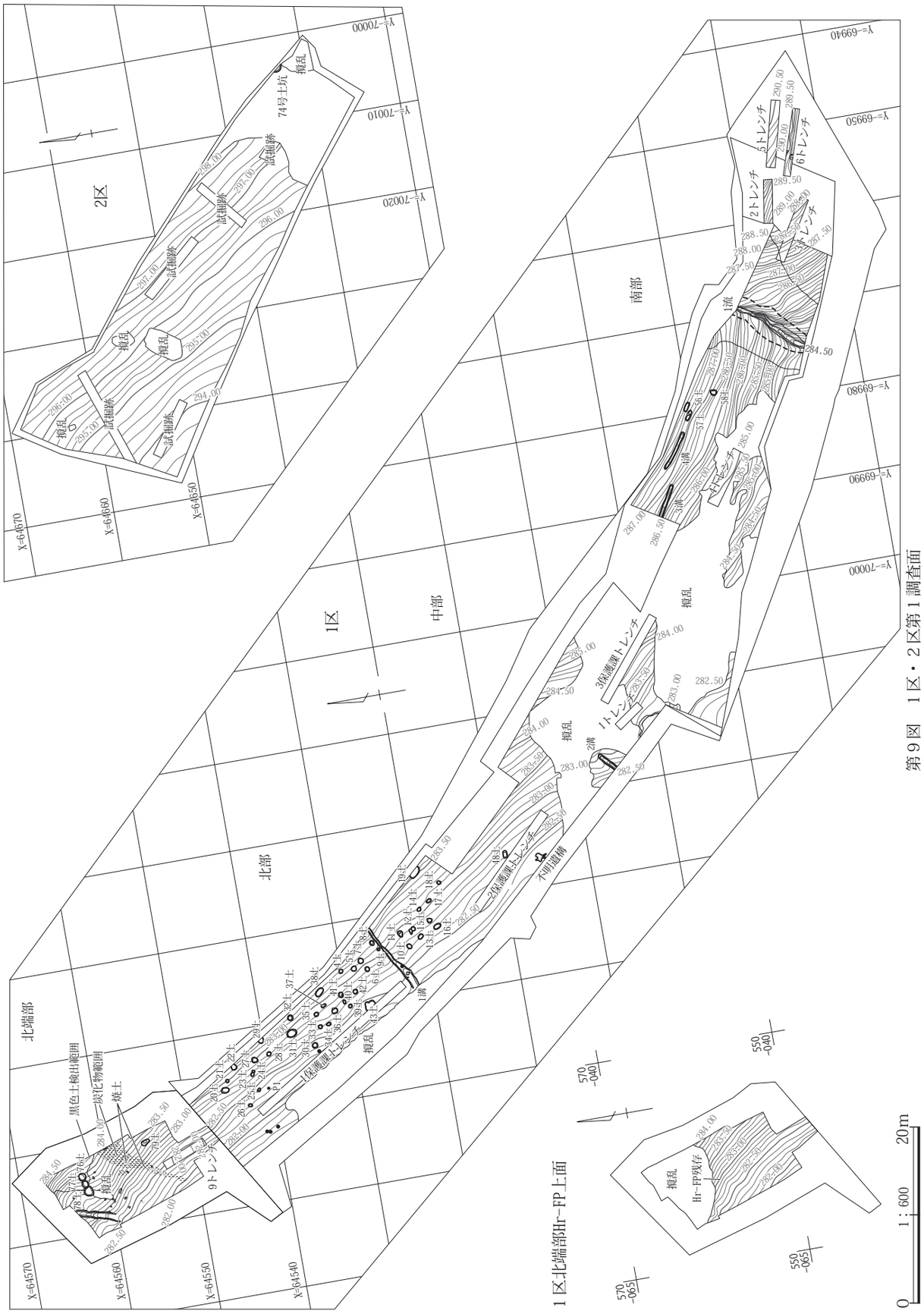
上層の堆積状況は２区と１区中・南部が類似し、白色軽石を含む層を主体とする。これに対し１区北端部は橙色粒子を含む層が特徴となる。下層のロームの状況についてはいずれも一次堆積とは異なる感触が調査所見からうかがえ、殊に２区については火山灰分析を含め後掲(４章)する。なお令和５年度の調査所見によると、調査区１区北端部のローム層中から縄文時代前期の土器片が出土したとのことであり、少なくとも１区北端部のロームの上層は崩落に由来する二次堆積と考えられる。また１区の旧石器確認トレンチ調査により、縄文時代面に相当する黄褐色土から約80cm下位の位置に砂層が確認され、さらにその70cm下位で旧利根川河床礫と考えられる礫層が確認されている。令和元年度の調査所見によると、「礫層上に堆積していた砂層は、下層は水の流れによって堆積した層であり、その上位には黄色土がブロック状に含まれていることから、山体崩落あるいは洪水によって旧利根川が埋没、調査区の立地する河岸段丘面が形成された可能性」が示唆されている。なお、確認調査の結果、旧石器は検出されなかった。



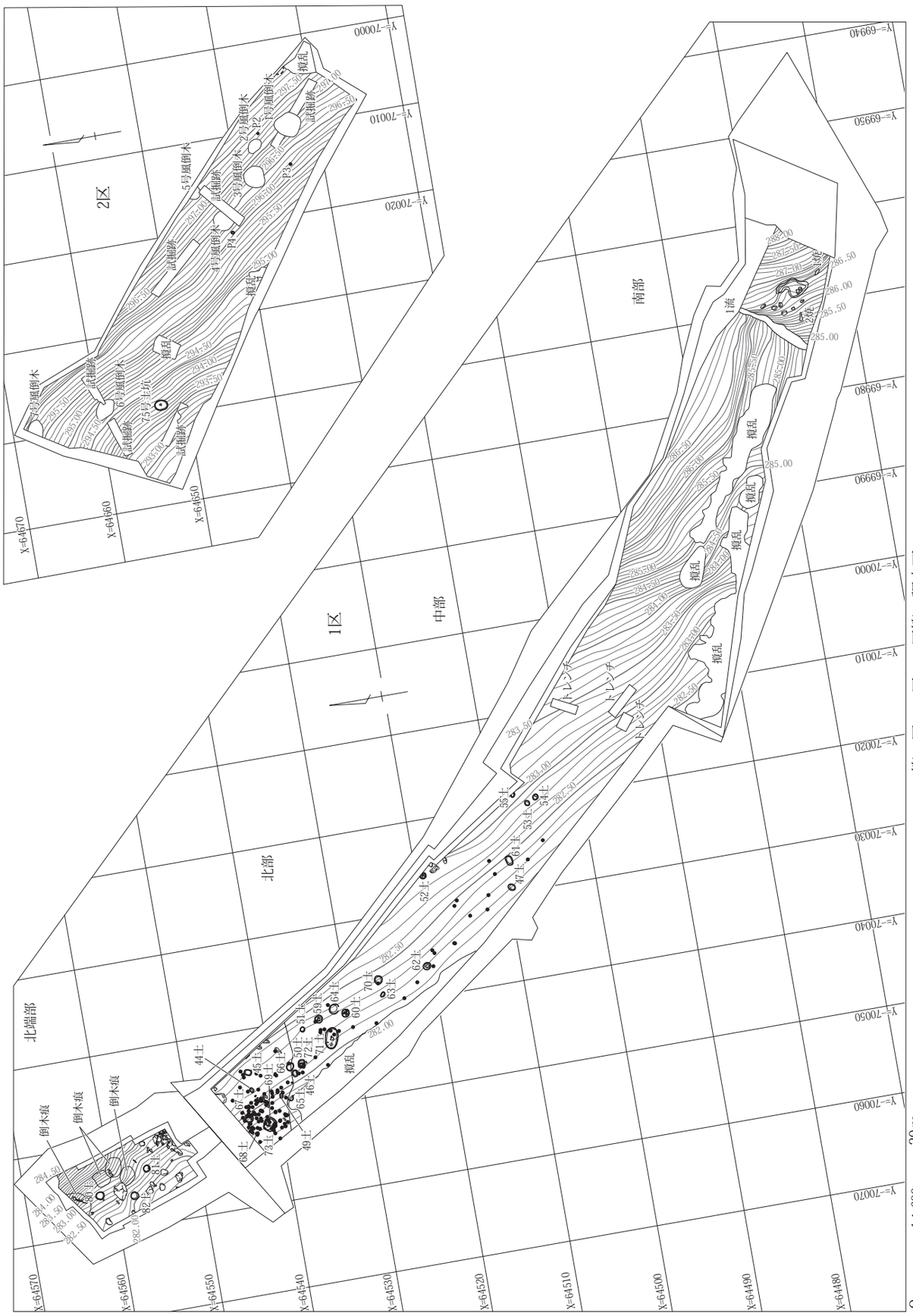
第７図　棚下込山遺跡全体図（第１調査面・古墳時代以降）



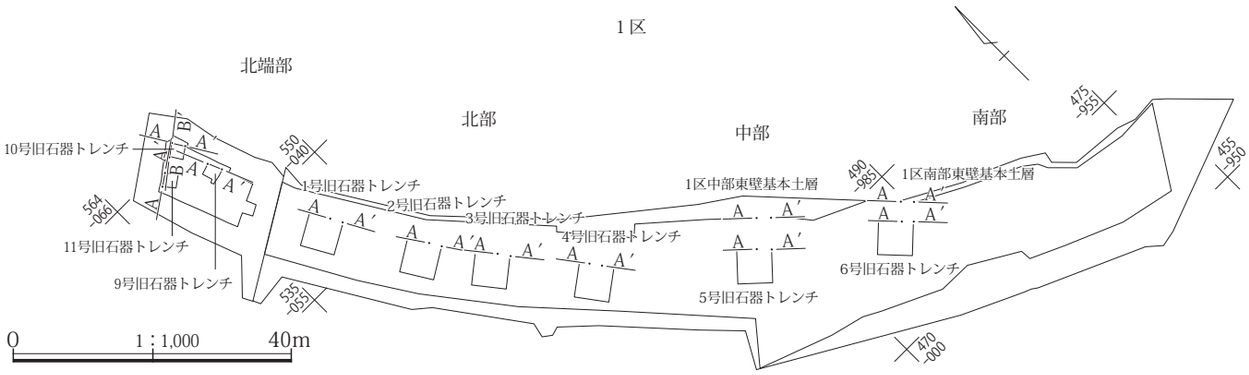
第８図　棚下込山遺跡全体図（第２調査面・縄文時代）

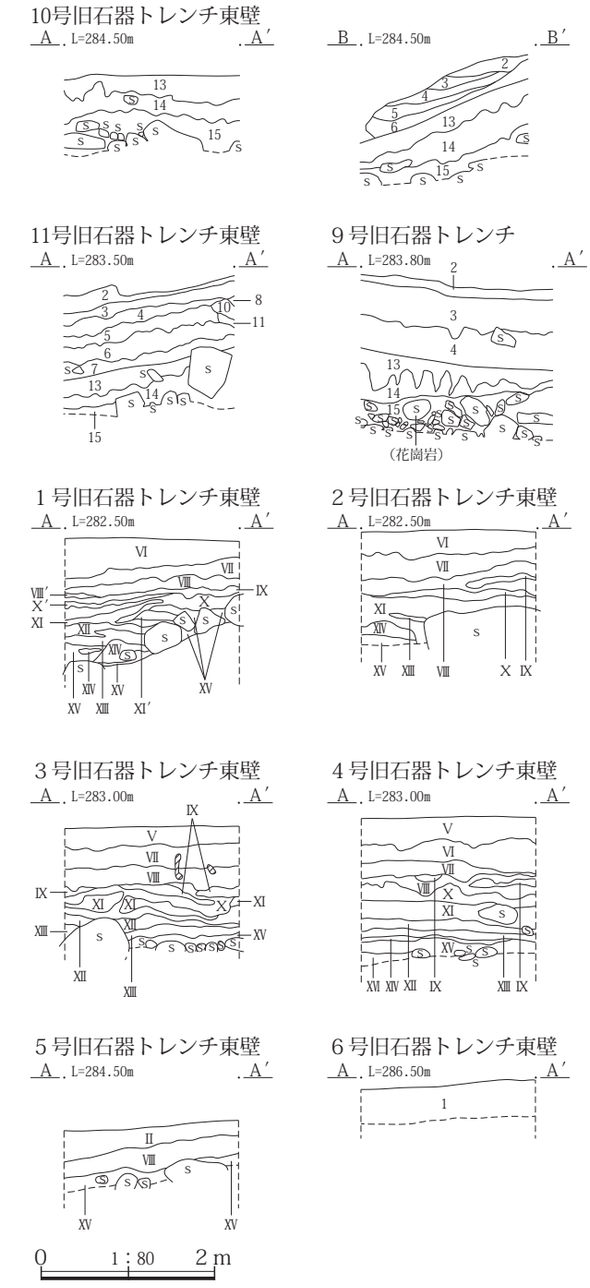


第９図　１区・２区第１調査面



第10図　1区・2区第2調査面





９～11号旧石器確認トレンチ

2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　締まりなし。粘性なし。Hr-FP２次堆積層。

3　黒褐色土(10YR3/1)　締まりややあり。粘性あり。焼土を粒子、ブロック状に、炭化物を中量含む。

4　暗褐色土(10YR3/3)　締まりややあり。粘性なし。５㎜の橙色粒子中量、炭化物少量含む。

5　暗褐色土(10YR3/3)　締まりややあり。粘性なし。１cm程のAs-YPを少量、橙色粒子を中量含む。

6　黒褐色土(10YR3/1)　締まりややあり。粘性ややあり。As-YPを中量、橙色粒子を少量含む。

7　黒褐色土(10YR3/1)　締まりややあり。粘性なし。白色粒子、橙色粒子少量含む。

8　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　締まりややあり。粘性なし。橙色粒子少量。

10　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　締まりややあり。粘性なし。橙色粒子少量含む、礫混土。

11　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　締まりなし。粘性なし。礫混土。

13　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　締まりややあり。粘性ややあり。ロームブロック少量、橙色粒子中量含む。（１区北端部基本土層Ⅴ層）

14　黄褐色土(10YR5/6)　締まりなし。粘性ややあり。崩落土。30～50cm程の円礫を主体とし、地山土を客体的に含む。（１区北端部基本土層Ⅵ層）

15　黄褐色土(10YR5/6)　締まりなし。粘性ややあり。ロームブロック少量、円礫を少量含む。（１区北端部基本土層Ⅶ層）

１～６号旧石器確認トレンチ

Ⅰ　Hr-FP

Ⅱ　黒褐色土(10YR3/1)　細粒白色軽石を多量に含む。暗赤色粒を少量含む。やや締まりあり。

Ⅴ　灰黄褐色土(10YR4/2)　白色軽石を多量に含む。黄橙色軽石を少量含む。φ２～３㎜程の小礫が混入する。

Ⅵ　浅黄橙色土(10YR8/4)　僅かに細粒白色軽石を含む。非常に硬く締まる。

Ⅶ　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黄橙色軽石、細粒白色軽石を含む。

Ⅷ　にぶい黄橙色土(10YR6/3)　黄褐色土ブロックを含む。軽石などの混入物は見られない。

Ⅷ′にぶい黄橙色土(10YR7/3)　Ⅷよりやや明るい。黄褐色土ブロックを少量含む。

Ⅸ　浅黄橙色土(10YR8/3)　僅かに黄橙色軽石を含む。締まりあり。

Ⅹ　黄橙色土(10YR8/8)　混入物は見られない。締まりあり。

Ⅹ′黄橙色土(10YR7/8)　浅黄橙色ブロックを含む。一部粘性を帯びる。

Ⅺ　紫灰色土(5RP5/1)　紫灰色土ブロックを多量に含む。

Ⅺ′紫灰色土(5RP6/1)　Ⅺ層に類似するがⅺ層より紫灰色土ブロックの混入が少ない。

Ⅻ　浅黄橙色土(7.5YR8/3)　僅かに紫灰色土ブロックを含む。砂粒子を含む。

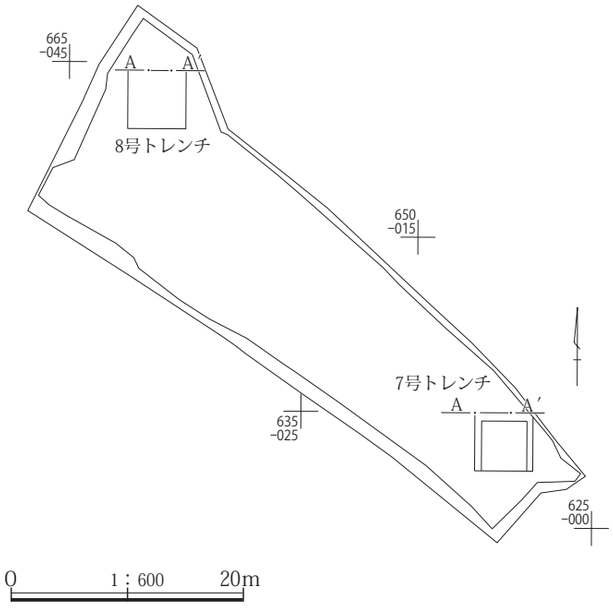
ⅩⅢ　黄色土(2.5Y8/8)　混入物無く、砂質土主体。締まり弱い。

ⅩⅣ　黄色土(2.5Y8/3)　紫灰色土ブロックを少量含む。

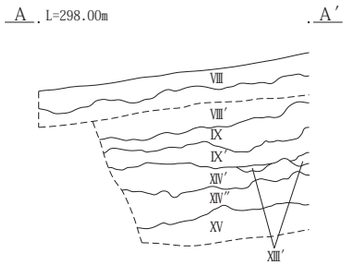
ⅩⅤ　黄色土(2.5Y8/3)　紫灰色土ブロックを含む。大型の河床礫が多量に混在する。

ⅩⅥ　浅黄橙色土(7.5YR8/4)　混入物は希薄で、僅かに砂粒子を含む。

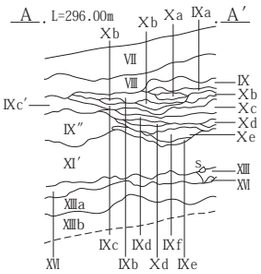
第11図　１区旧石器確認トレンチ



７号トレンチ



８号トレンチ



７号旧石器確認トレンチ

Ⅷ　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　φ３～６㎜岩片５％、白色粒子含む。粘性少しあり。

Ⅷ′にぶい黄褐色土(10YR4/3)　Ⅷ層に近似。ロームの含有量が多め。

Ⅸ　褐色土(10YR4/4)　黒褐色土とロームの混合土。再堆積のくり返しと考えられる。φ２～４㎜黄色軽石が少量入っている。

Ⅸ′暗褐色土(10YR3/3)　Ⅸ層に近似。下になるほど黒褐色土が増える。漸移層。

XIII′にぶい黄褐色土(10YR5/3)　XIII層に近似。黄色軽石はごく少量。

XIV′にぶい黄褐色土(10YR5/3)　XIV層に近似。礫は無く、軽石はほとんど含まれない。

XIV″灰黄褐色土(10YR5/2)　XIV′層に似るがにぶい黄褐色土(10YR5/3)と灰黄褐色土(10YR6/2)の砂層がラミナ状になっている。φ５～８㎜黄色軽石５％含む。

XV　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム主体。礫混じりの層。φ30～150㎜の礫20％含む。

0　1：80　2m

８号旧石器確認トレンチ

Ⅶ　暗褐色土(10YR3/4)　φ５～25㎜岩片10％、白色粒子含む。やや締まりあり。

Ⅷ　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　φ３～６㎜岩片５％、白色粒子含む。粘性少しあり。

Ⅸ　褐色土(10YR4/4)　黒褐色土とロームの混合土。再堆積のくり返しと考えられる。φ２～４㎜黄色軽石が少量入っている。

Ⅸa　灰黄褐色土(10YR4/2)　Ⅸ層に近似。粘性少しあり。As-SPと考えられる。軽石が少量含まれる。

Ⅸb　灰黄褐色土(10YR4/2)　Ⅸ層に近似。粘性少しあり。φ２～４㎜軽石５％含む。

Ⅸc　灰黄褐色土(10YR4/2)　Ⅸb層に近似。粘性少しあり。黒褐色土の含有量が少し多め。

Ⅸc′灰黄褐色土(10YR4/2)　Ⅸc層に近似。粘性少しあり。厚さ10～15㎜の層がラミナ状になっている。

Ⅸd　灰黄褐色土(10YR4/2)　Ⅸa層に近似。φ２～４㎜軽石20%含む。ローム含有量多め。

Ⅸe　灰黄褐色土(10YR4/2)　Ⅸd層に近似。φ３～６㎜軽石25%含む。

Ⅸf　灰黄褐色土(10YR4/2)　Ⅸd層に近似。φ１～３㎜軽石20%含む。

Ⅸ″　褐色土(10YR4/4)　ローム層30～50㎜・黒褐色土５～10㎜がラミナ状になっている。

Ⅹa　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　Ⅹ層に近似。φ４㎜軽石５％含む。

Ⅹb　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　Ⅹ層に近似。軽石はほとんどない。

Ⅹc　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　Ⅹ層に近似。白色粒子含む。

Ⅹd　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　Ⅹ層に近似。φ２～４㎜軽石15%含む。

Ⅹe　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　Ⅹ層に近似。φ２～３㎜軽石10%含む。φ10㎜礫少量あり。

XI′　褐灰色土(10YR4/1)　XI層に似ている。φ２～４㎜軽石20%、φ20～80㎜礫40%含む。

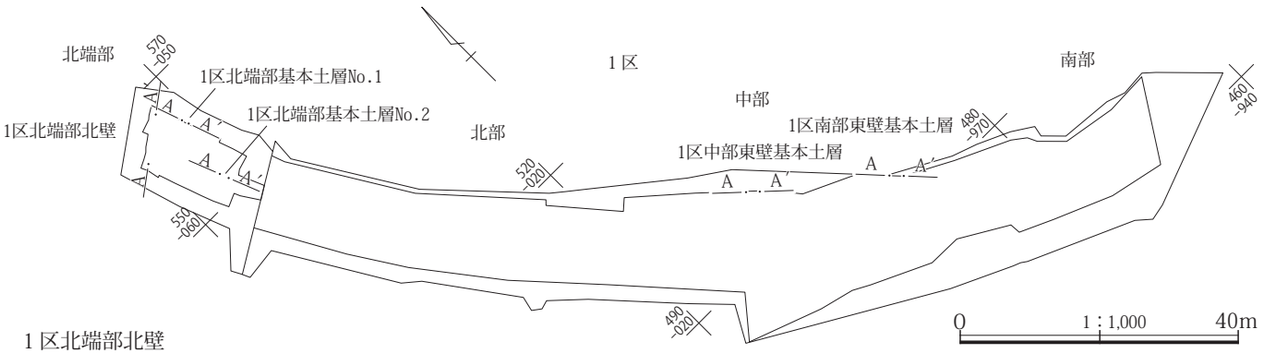
XIIIa　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　XIII層に近似。締まりあり。φ２～４㎜軽石30%、φ10～15㎜礫10%含む。

XIIIb　灰黄褐色土(10YR5/2)　XIII層に近似。締まりあり。φ２～６㎜軽石30%、φ20～30㎜礫10%含む。

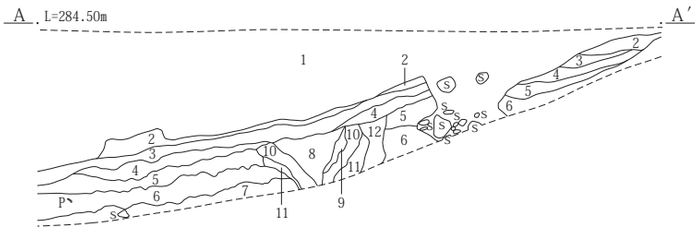
XVI　にぶい黄橙色土(10YR7/4)　As-BPの層。

※Ⅸ層及びⅩ層上位に、As-SPと思われる10㎝程度のブロックが混在する。

第12図　２区旧石器確認トレンチ



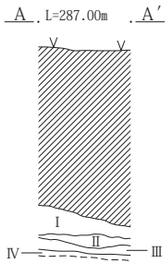
1区北端部北壁



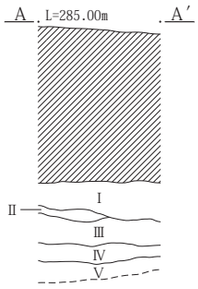
1区北端部北壁

1　暗褐色土(10YR3/3)　締まりややあり。粘性なし。造成土角礫、ビニール片混土。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　締まりなし。粘性なし。Hr-FP２次堆積層。
3　黒褐色土(10YR3/1)　締まりややあり。粘性あり。焼土を粒子、ブロック状に、炭化物を中量含む。
4　暗褐色土(10YR3/3)　締まりややあり。粘性なし。５㎜の橙色粒子中量、炭化物少量含む。
5　暗褐色土(10YR3/3)　締まりややあり。粘性なし。１cm程のAs-YPを少量、橙色粒子を中量含む。
6　黒褐色土(10YR3/1)　締まりややあり。粘性ややあり。As-YPを中量、橙色粒子を少量含む。
7　黒褐色土(10YR3/1)　締まりややあり。粘性なし。白色粒子、橙色粒子少量含む。
8　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　締まりややあり。粘性なし。橙色粒子少量含む。
9　黒褐色土(10YR3/1)　締まりややあり。粘性なし。橙色粒子少量含む。
10　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　締まりややあり。粘性なし。橙色粒子少量、礫混土。
11　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　締まりなし。粘性なし。礫混土。
12　暗褐色土(10YR3/3)　締まりややあり。粘性なし。ロームブロック混土。

1区北端部基本土層 NO.1



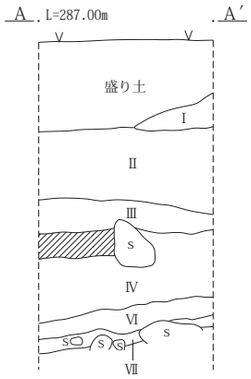
1区北端部基本土層 NO.2



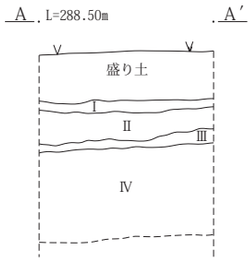
1区北端部基本土層

Ⅰ　褐色土(10YR4/4)　砂質。粘性あり。締まりややあり。ローム質混じり黒色土。
Ⅱ　褐色土(10YR4/4)　砂質。粘性あり。締まりややあり。１cm程の礫混じり。橙色粒子を少量含む。
Ⅲ　黄褐色土(10YR5/6)　砂質。粘性あり。締まりややあり。１cm程の礫混じり。橙色粒子を少量含む。
Ⅳ　褐色土(10YR4/4)　砂質。粘性あり。締まりなし。１cm程の礫混じり。橙色粒子を少量含む。
Ⅴ　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　締りややあり。粘性なし。橙色粒子少量を含む。

1区中部東壁基本土層



1区南部東壁基本土層

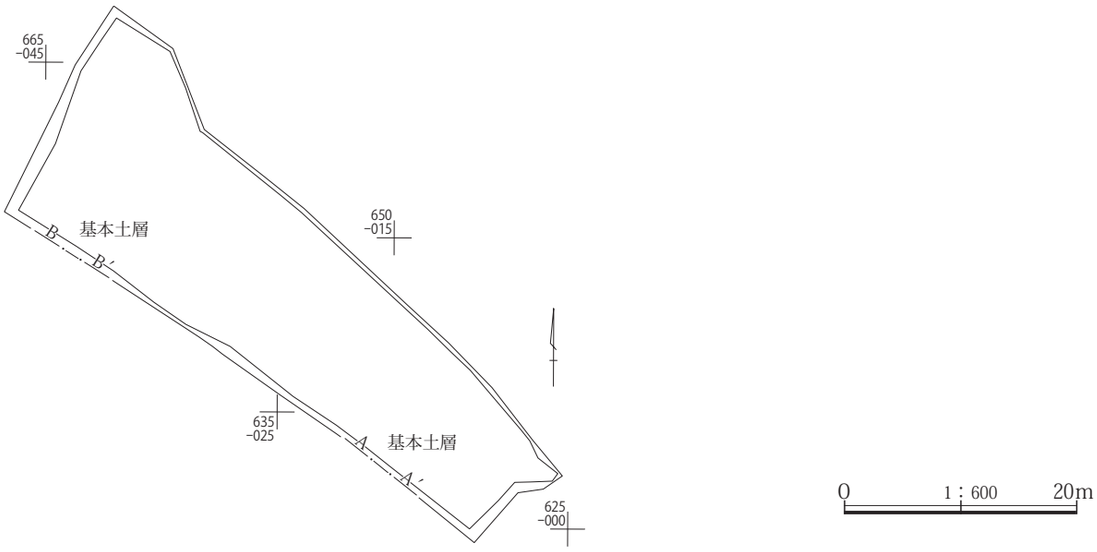


1区中部・南部基本土層

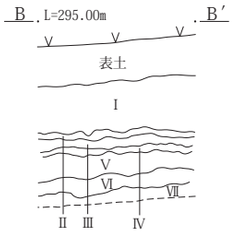
Ⅰ　Hr-FP
Ⅱ　黒褐色土(10YR3/1)　細粒白色軽石を多量に含む。暗赤色粒を少量含む。やや締まりあり。
Ⅲ　にぶい黄橙色土(10YR7/4)　細粒白色軽石を多量に含む。締まりあり。
Ⅳ　灰黄褐色土(10YR4/2)　白色軽石を多量に含む。黄橙色軽石を少量含む。φ２～３㎜程の小礫が混入する。
Ⅵ　浅黄橙色土(10YR8/4)　僅かに細粒白色軽石を含む。非常に硬く締まる。
Ⅶ　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黄橙色軽石、細粒白色軽石を含む。
Ⅷ　にぶい黄橙色土(10YR6/3)　黄褐色土ブロックを含む。軽石などの混入物は見られない。
Ⅷ′にぶい黄橙色土(10YR7/3)　Ⅷ層よりやや明るい。黄褐色土ブロックを少量含む。
Ⅸ　浅黄橙色土(10YR8/3)　僅かに黄橙色軽石を含む。締まりあり。
Ⅹ　黄橙色土(10YR8/8)　混入物は見られない。締まりあり。
Ⅹ′黄橙色土(10YR7/8)　浅黄橙色ブロックを含む。一部粘性を帯びる。
Ⅺ　紫灰色土(5RP5/1)　紫灰色土ブロックを多量に含む。
Ⅺ′紫灰色土(5RP6/1)　Ⅺ層に類似するがⅪ層より紫灰色土ブロックの混入が少ない。
Ⅻ　浅黄橙色土(7.5YR8/3)　僅かに紫灰色土ブロックを含む。砂粒子を含む。
XIII　黄色土(2.5Y8/8)　混入物無く、砂質土主体。締まり弱い。
XIV　黄色土(2.5Y8/3)　紫灰色土ブロックを少量含む。
XV　黄色土(2.5Y8/3)　紫灰色土ブロックを含む。大型の河床礫が多量に混在する。
XVI　浅黄橙色土(7.5YR8/4)　混入物は希薄で、僅かに砂粒子を含む。

0　1：80　2m

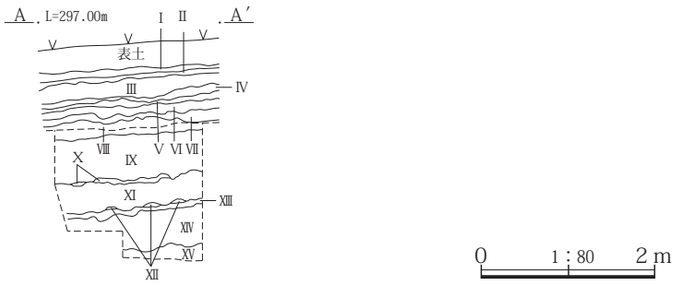
第13図　１区基本土層



基本土層Ｂ



基本土層Ａ



２区南壁基本土層

Ⅰ　灰黄褐色土(10YR6/2)　Hr-FP層。
Ⅱ　黒色土(10YR1.7/1)
Ⅲ　黒褐色土(10YR2/2)　φ５～10㎜岩片５％。
Ⅳ　黒褐色土(10YR3/2)　φ５～７㎜岩片５％、白色粒子含む。やや締まりあり。
Ⅴ　暗褐色土(10YR3/4)　φ４～15㎜岩片５％、白色粒子含む。やや締まりあり。
Ⅵ　黒褐色土(10YR2/3)　φ４～30㎜岩片10％、白色粒子含む。粘性少しあり。
Ⅶ　暗褐色土(10YR3/4)　φ５～25㎜岩片10％、白色粒子含む。やや締まりあり。
Ⅷ　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　φ３～６㎜岩片５％、白色粒子含む。粘性少しあり。
Ⅸ　褐色土(10YR4/4)　黒褐色土とロームの混合土。再堆積のくり返しと考えられる。φ２～４㎜黄色軽石が少量入っている。
Ⅹ　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ロームと黒褐色土の混合土。やや柔らかめ。
Ⅺ　褐灰色土(10YR4/1)　黒褐色土とロームのラミナ状の層。下の方が黒褐色土が多い。φ３～５㎜黄色軽石10％含む。
Ⅻ　にぶい黄褐色土(10YR7/4)　ローム塊。φ３～５㎜黄色軽石20％含む。
XIII　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　Ⅹ層に近似。φ３～５㎜黄色軽石５％含む。やや柔らかめ。
XIV　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　Ⅹ層に近似とローム層がラミナ状になっている層。φ20～30㎜礫10％、φ４～７㎜角閃石入り軽石20％を含む。
XV　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム主体。礫混じりの層。φ30～150㎜礫20％含む。

第14図　２区基本土層

第２節　古墳時代以降

第１項　検出された遺構

Hr-FP下に位置する第１調査面の遺構として、１区からは溝４条、自然流路１条、土坑49基、ピット１基が出土しており、２区からは土坑１基が検出されている。

溝はすべて第１調査面の遺構であり、第２調査面からは確認されていない。調査区北部と中部で各１条、南部で２条が確認されている。１区北部と中部の溝は傾斜方向に沿った溝であり、南部の溝は等高線に沿う溝である。なお３号溝は堆積した軽石層を掘り込んで構築されているが、Hr-FP混土により埋没しており、溝として機能した期間は長くはないと推察される。4号溝はその中央部に最深部があるが、西北端が確認されていない3号溝も同様の構造である可能性がある。

自然流路は１区の南端に近いあたりから出土した、Hr-FP降下から間もない頃に生じたHr-FP層の崩落の痕跡とされる。調査所見によれば、Hr-FP埋没後に生じた数次にわたる出水の痕跡が確認されている。流路周辺は谷状の地形となっており、底面の窪み状の部分は、Hr-FP降下以前から存在した涸れ沢などの浅い溝とされる。

１区の土坑は調査区の北部に集中しており、中部からは２基、南部からは３基が出土したのみである。

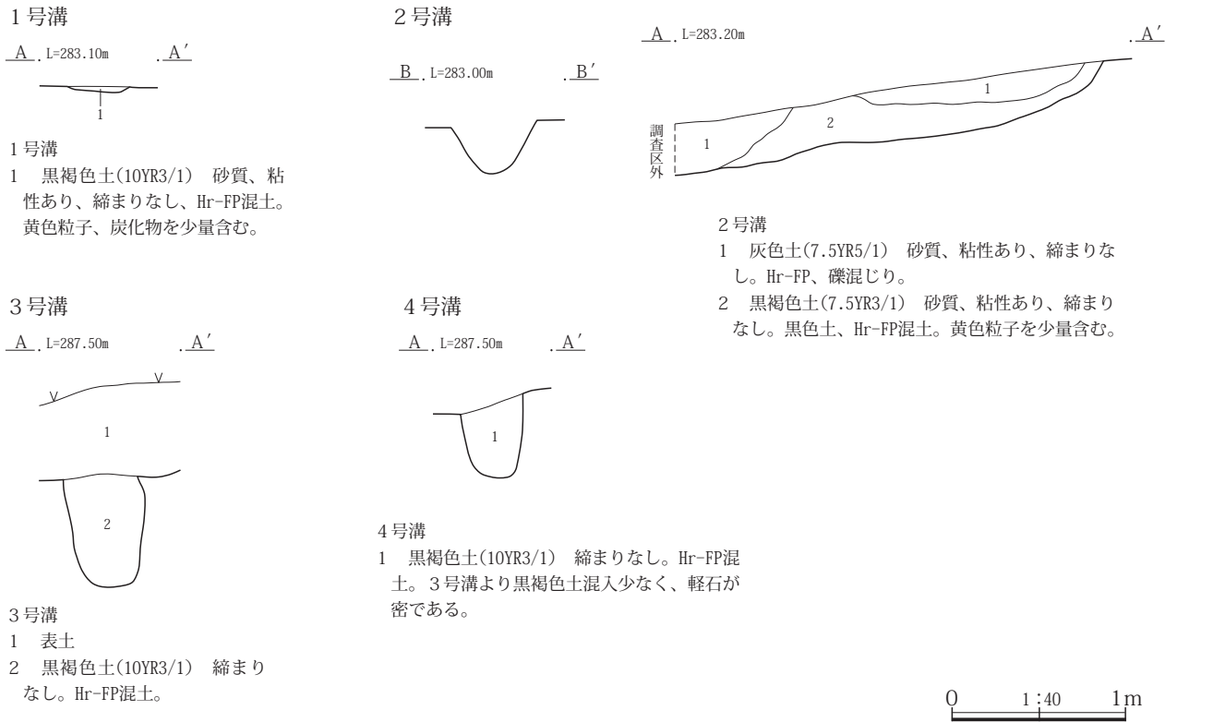
なお１区北端部の中央付近の調査区東辺から西辺近くにかけて、傾斜面を下る帯状に存在する焼土や炭化物が確認されている。またその周辺からも炭化物が確認されており、山林火災の痕跡とされる。

なお、各遺跡の位置や規模、時期等は表で記載した。

（第15～17図、PL．２～４）

第２表　溝一覧

遺構名	区	面	検出位置		主軸方位	規　模	両端標高差	遺物	時期
１号溝	１　北部	１	X＝64,521 ～ 64,527	Y＝-70,031 ～ -70,040	N-59-E	(8.62)×0.19～1.00×0.01～0.04	東＋1.13	有	古代以降
２号溝	１　中部	１	X＝64,495 ～ 64,497	Y＝-70,016 ～ -70,019	N-47-E	(2.48)×0.55×0.29	東北＋0.41		古代以降
３号溝	１　南部	１	X＝64,483 ～ 64,486	Y＝-69,987 ～ -69,992	N-61-W	(3.85)×0.45×0.25～0.62	東＋0.29		古代以降
４号溝	１　南部	１	X＝64,481 ～ 64,484	Y＝-69,982 ～ -69,986	N-52-W	4.65×0.39×0.13～0.64	南東＋0.12		古代以降

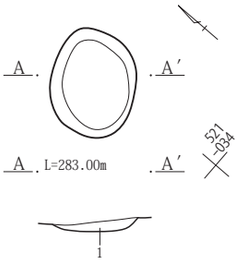


第15図　溝断面

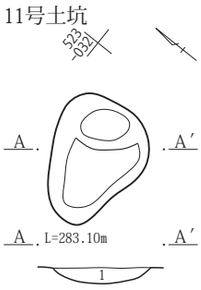
第３表　土坑・ピット一覧１

№.	遺構種	区	検出位置		形状等	主軸方位	規模	遺物	時期
4	土坑	1 北部	X＝64,529 ～ 64,531	Y＝-70,035 ～ -70,036	偏円形	N-40-W	0.51×0.46×0.06		古代以降
5	土坑	1 北部	X＝64,528 ～ 64,529	Y＝-70,035 ～ -70,036	偏円形	N-44-W	0.62×0.57×0.05		古代
6	土坑	1 北部	X＝64,526 ～ 64,528	Y＝-70,035 ～ -70,037	円形	N-43-E	0.55×0.52×0.07		古代以降
7	土坑	1 北部	X＝64,527 ～ 64,528	Y＝-70,034 ～ -70,036	円形	N-58-E	0.62×0.61×0.02		古代以降
8	土坑	1 北部	X＝64,525 ～ 64,527	Y＝-70,032 ～ -70,034	偏円形	N-66-E	0.60×0.50×0.11		古代以降
9	土坑	1 北部	X＝64,525 ～ 64,526	Y＝-70,033 ～ -70,034	偏円形	N-29-E	0.33×0.30×0.10		古代以降
10	土坑	1 北部	X＝64,521 ～ 64,523	Y＝-70,033 ～ -70,035	長円形	N-37-E	0.63×0.49×0.06	有	古代以降
11	土坑	1 北部	X＝64,522 ～ 64,523	Y＝-70,032 ～ -70,033	偏円形	N-58-E	0.76×0.56×0.21	有	古代以降
12	土坑	1 北部	X＝64,520 ～ 64,522	Y＝-70,031 ～ -70,033	不整形	N-61-W	0.90×0.48×0.14		古代以降
13	土坑	1 北部	X＝64,520 ～ 64,521	Y＝-70,032 ～ -70,034	長円形	N-42-W	0.67×0.45×0.12	有	古代以降
14	土坑	1 北部	X＝64,519 ～ 64,521	Y＝-70,029 ～ -70,031	偏円形	N-45-W	0.53×0.40×0.06	有	古代以降
15	土坑	1 北部	X＝64,518 ～ 64,520	Y＝-70,031 ～ -70,032	隅丸三角形	N-51-E	0.57×0.56×0.07	有	古代以降
16	土坑	1 北部	X＝64,517 ～ 64,519	Y＝-70,032 ～ -70,033	長円形	N-32-W	0.87×0.53×0.07	有	古代以降
17	土坑	1 北部	X＝64,518 ～ 64,520	Y＝-70,029 ～ -70,030	長円形	N-23-W	0.60×0.38×0.06	有	古代以降
18	土坑	1 北部	X＝64,517 ～ 64,518	Y＝-70,027 ～ -70,028	長円形	N-５-E	0.46×0.39×0.05		古墳時代以降
19	土坑	1 北部	X＝64,519 ～ 64,521	Y＝-70,025 ～ -70,027	長円形か	N-47-W	1.48×(0.61)×0.14		古代以降
20	土坑	1 北部	X＝64,544 ～ 64,546	Y＝-70,046 ～ -70,047	長円形	N-５-W	0.89×0.63×0.11	有	古墳時代以降
21	土坑	1 北部	X＝64,544 ～ 64,545	Y＝-70,045 ～ -70,046	円形	N-31-E	0.38×0.36×0.11		古墳時代以降
22	土坑	1 北部	X＝64,543 ～ 64,545	Y＝-70,043 ～ -70,045	偏円形か	N-66-E	(0.61)×0.60×0.06		古墳時代以降
23	土坑	1 北部	X＝64,541 ～ 64,543	Y＝-70,045 ～ -70,046	長円形	N-54-W	0.48×0.36×0.03		古代以降
24	土坑	1 北部	X＝64,541 ～ 64,542	Y＝-70,044 ～ -70,046	偏円形	N-26-E	0.34×0.25×0.06		古代以降
25	土坑	1 北部	X＝64,541 ～ 64,542	Y＝-70,046 ～ -70,047	偏円形	N-44-W	0.43×0.31×0.06		古代以降
26	土坑	1 北部	X＝64,542 ～ 64,543	Y＝-70,048 ～ -70,049	長円形	N-７-E	0.46×0.35×0.04		古墳時代以降
27	土坑	1 北部	X＝64,540 ～ 64,542	Y＝-70,043 ～ -70,045	偏円形	N-19-E	0.71×0.60×0.07		古代以降
28	土坑	1 北部	X＝64,539 ～ 64,540	Y＝-70,043 ～ -70,044	長円形	N-30-W	0.52×0.45×0.03		古代以降
29	土坑	1 北部	X＝64,539 ～ 64,541	Y＝-70,041 ～ -70,043	長円形か	N-35-W	0.66×(0.45)×0.06		古代以降
30	土坑	1 北部	X＝64,534 ～ 64,535	Y＝-70,043 ～ -70,044	長円形	N-41-W	0.65×0.59×0.10		古代以降
31	土坑	1 北部	X＝64,536 ～ 64,538	Y＝-70,041 ～ -70,042	長円形	N-26-W	1.15×0.85×0.11	有	古墳時代以降
32	土坑	1 北部	X＝64,536 ～ 64,537	Y＝-70,039 ～ -70,041	円形	N-70-W	0.60×0.57×0.09		古墳時代以降
33	土坑	1 北部	X＝64,533 ～ 64,534	Y＝-70,041 ～ -70,042	偏円形	N-11-W	0.49×0.44×0.09		古代以降
34	土坑	1 北部	X＝64,532 ～ 64,533	Y＝-70,041 ～ -70,042	長円形	N-８-W	0.49×0.33×0.04	有	古墳時代以降
35	土坑	1 北部	X＝64,533 ～ 64,534	Y＝-70,039 ～ -70,041	長円形	N-40-W	0.53×0.45×0.07		古代以降
36	土坑	1 北部	X＝64,531 ～ 64,532	Y＝-70,039 ～ -70,041	長円形	N-22-W	0.67×0.58×0.06		古代以降
37	土坑	1 北部	X＝64,532 ～ 64,533	Y＝-70,038 ～ -70,040	長方形	N-31-W	0.57×0.35×0.10	有	古代以降
38	土坑	1 北部	X＝64,532 ～ 64,534	Y＝-70,036 ～ -70,038	長円形	N-50-W	1.13×0.57×0.03	有	古代以降
39	土坑	1 北部	X＝64,529 ～ 64,530	Y＝-70,039 ～ -70,040	長円形	N-46-W	0.46×0.39×0.09		古代以降
40	土坑	1 北部	X＝64,530 ～ 64,531	Y＝-70,038 ～ -70,040	長円形	N-72-E	0.45×0.30×0.07	有	古代以降
41	土坑	1 北部	X＝64,530 ～ 64,531	Y＝-70,037 ～ -70,039	円形	N-50-E	0.63×0.57×0.06		古代以降
42	土坑	1 北部	X＝64,528 ～ 64,530	Y＝-70,037 ～ -70,039	偏円形	N-40-E	0.54×0.53×0.05		古代以降
43	土坑	1 北部	X＝64,526 ～ 64,528	Y＝-70,039 ～ -70,041	不明	N-32-W	1.28×(0.83)×0.11	有	古代以降
48	土坑	1 中部	X＝64,509 ～ 64,510	Y＝-70,025 ～ -70,027	長方形	N-90	0.81×0.47×0.13	有	古代以降
56	土坑	1 南部	X＝64,479 ～ 64,481	Y＝-69,978 ～ -69,980	長方形	N-60-W	1.06×0.42×0.11		古代以降
57	土坑	1 南部	X＝64,479 ～ 64,481	Y＝-69,979 ～ -69,981	隅丸長方形	N-59-W	1.20×0.39×0.11		古代以降
58	土坑	1 南部	X＝64,476 ～ 64,478	Y＝-69,977 ～ -69,979	偏円形	N-23-E	0.73×0.63×0.20		古代以降
74	土坑	2 南東端	X＝64,627 ～ 64,629	Y＝-70,003 ～ -70,005	不明	N-38-W	(1.16)×(0.36)×0.59		古墳時代
76	土坑	1 北端部	X＝64.562 ～ 64,564	Y＝-70,052 ～ -70,054	円形	N-55-E	0.88×0.83×0.10		古代以降
77	土坑	1 北端部	X＝64,562 ～ 64,564	Y＝-70,053 ～ -70,055	偏円形	N-59-E	0.87×0.71×0.12		古代以降
78	土坑	1 北端部	X＝64,561 ～ 64,563	Y＝-70,054 ～ -70,056	隅丸三角形	N-79-W	1.10×1.05×0.22	有	古代以降
79	土坑	1 北端部	X＝64,554 ～ 64,556	Y＝-70,050 ～ -70,052	偏円形	N-26-W	0.96×0.58×0.19		古墳時代
1	ピット	1 北部	X＝64,540 ～ 64,541	Y＝-70,047 ～ -70,048	長円形	N-５-W	0.23×0.19×0.05		古代以降

10号土坑



11号土坑

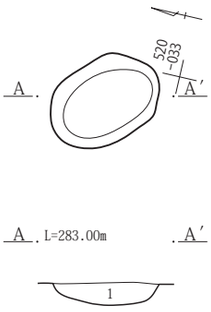


10・11号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　砂質。粘性あり。締まりややあり。
Hr-FP混入。黄色粒子、炭化物を少量含む。

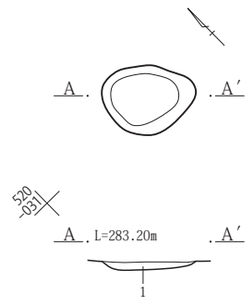
0　1:40　1m

第16図　土坑１

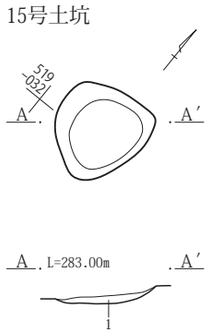
13号土坑



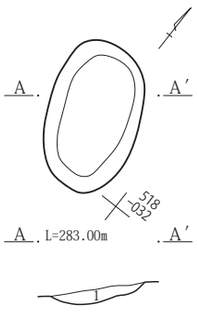
14号土坑



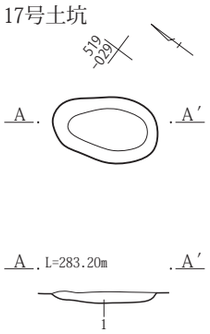
15号土坑



16号土坑



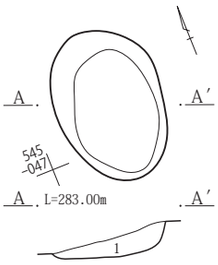
17号土坑



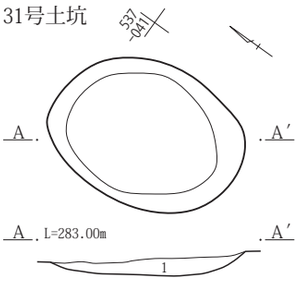
13～15号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　砂質。粘性あり。締まりややあり。Hr-FP微量混入。黄色粒子、炭化物を少量含む。

16・17号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　砂質。粘性ややあり。締まりあり。Hr-FPを少量含む。φ３～５㎜程の黄色粒子、炭化物を少量に含む。

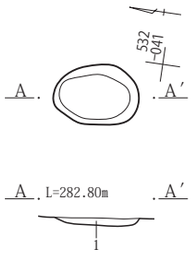
20号土坑



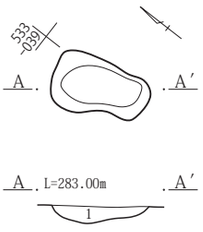
31号土坑



34号土坑



37号土坑



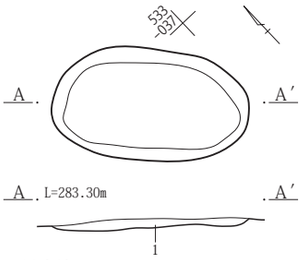
20号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　砂質。粘性ややあり。締まりあり。φ３～５㎜程の黄色粒子､炭化物を中量、褐色粒子を少量含む。

31号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　砂質。粘性あり。締まりあり。５㎜の炭化物を中量、φ３～５㎜の黄色粒子を少量含む。

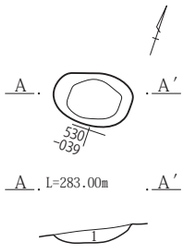
34号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　砂質。粘性あり。締まりあり。φ３～５㎜の黄色粒子と炭化物を少量含む。

35号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　砂質。粘性あり。締まりあり。Hr-FPを少量含み、φ３～５㎜の黄色粒子を少量含む。

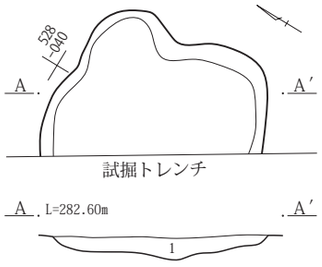
38号土坑



40号土坑



43号土坑

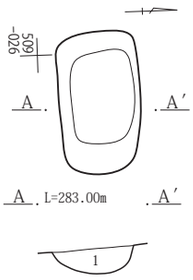


38号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　砂質。粘性あり。締まりあり。ローム質黄褐色土をブロック状に少量、Hr-FPを中量含み、φ３～５㎜の黄色粒子､褐色粒子と炭化物を少量含む。

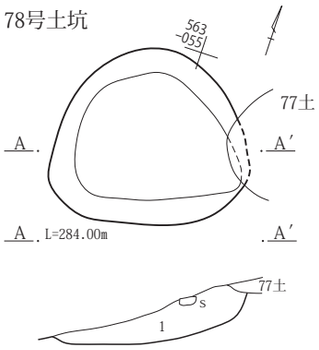
40号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　砂質。粘性あり。締まりあり。ローム質黄褐色土をブロック状に少量、Hr-FPを少量含み、φ３～５㎜の炭化物を少量含む。

43号土坑
1　褐色土(10YR3/1)　砂質。粘性あり。締まりややあり。ローム質黄褐色土をブロック状に少量、Hr-FPを少量含み、φ３～５㎜の褐色粒子、炭化物を少量含む。

48号土坑



78号土坑



48号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　砂質。粘性あり。締まりややあり。Hr-FPを少量含み、φ３～５㎜の黄色粒子を少量含む。

78号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　砂質。粘性あり。締まりややあり。黄色土をブロック状に少量、炭化物を微量含む。

0　1:40　1m

第17図　土坑２

第３節　縄文時代

第１項　検出された遺構

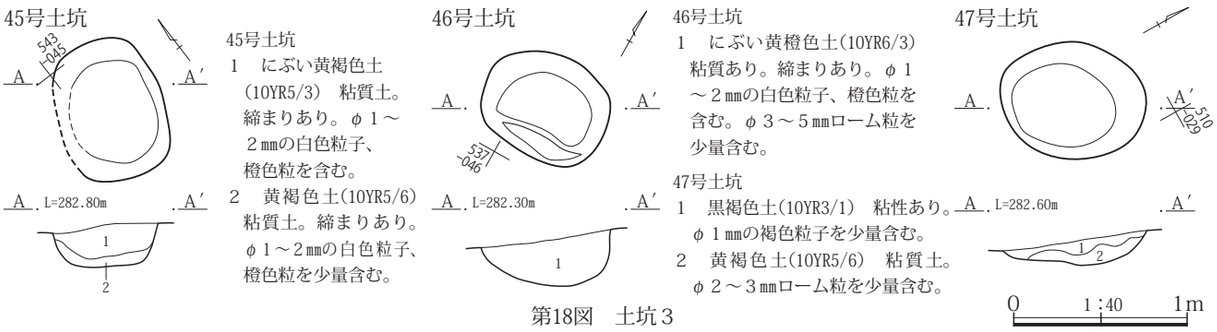
黒色土層下位の第２調査面からは、土坑19基、ピット３基、焼土遺構２基、遺物包含層１箇所が確認されている。このうち土坑１基とピット３基が２区からの検出であり、残りは１区南部から検出された焼土遺構を除き、１区の北半から検出されている。１区南部は中部から北端部にかけての範囲と比べると地表の傾斜度合が強いという地形の在り様が、１区の北側に遺構が集中する傾向に影響を与えたと推察されが、谷状の傾斜地である場所に焼土遺構のみが存在する理由は不明である。また１区北端部から出土した82号土坑は、その調査所見によれば埋没土の中位に焼土が堆積し、縄文時代中期後葉の土器も出土することから、袋状の廃棄土坑あるいは、単独の貯蔵穴の可能性が指摘されている。なお１区２面北部北辺から土器片や石器が集中して出土しており、遺構は確認されなかったが遺物包含層として取り上げた。

なお、各遺跡の位置や規模、時期等については表にまとめた。　（第18～22図、PL．４～６）

第４表　土坑・ピット一覧２

No.	遺構種	区	検出位置		形状等	主軸方位	規模	遺物	時期
44	土坑	1 北部	X＝64,542 ～ 64,543	Y＝-70,046 ～ -70,048	隅丸長方形	N-65-E	0.56×0.37×0.25		縄文時代
45	土坑	1 北部	X＝64,542 ～ 64,544	Y＝-70,044 ～ -70,046	隅丸長方形	N-20-E	0.82×0.59×0.20	有	縄文中期後葉
46	土坑	1 北部	X＝64,537 ～ 64,538	Y＝-70,045 ～ -70,047	偏円形	N-78-W	0.75×0.60×0.29	有	縄文中期後葉
47	土坑	1 中部	X＝64,509 ～ 64,510	Y＝-70,028 ～ -70,030	長円形	N-36-E	0.84×0.67×0.14	有	縄文時代
49	土坑	1 北部	X＝64,539 ～ 64,540	Y＝-70,047 ～ -70,049	隅丸長方形	N-85-W	0.51×0.32×0.29	有	縄文中期後葉
50	土坑	1 北部	X＝64,536 ～ 64,537	Y＝-70,044 ～ -70,046	長円形	N-5-E	0.78×0.53×0.36	有	加曽利Ｅ２期
51	土坑	1 北部	X＝64,535 ～ 64,536	Y＝-70,040 ～ -70,042	円形	N-79-W	0.55×0.48×0.40	有	縄文時代
52	土坑	1 北部	X＝64,518 ～ 64,520	Y＝-70,025 ～ -70,027	長円形	N-27-W	0.71×(0.60)×0.29	有	諸磯ａ期
53	土坑	1 中部	X＝64,505 ～ 64,507	Y＝-70,019 ～ -70,021	長円形	N-53-E	0.62×0.54×0.15	有	縄文前期中葉
54	土坑	1 中部	X＝64,504 ～ 64,506	Y＝-70,019 ～ -70,021	長円形	N-52-W	0.66×0.56×0.18	有	縄文時代
55	土坑	1 中部	X＝64,507 ～ 64,508	Y＝-70,018 ～ -70,020	長円形か	N-34-W	0.52×(0.38)×0.10		縄文時代
59	土坑	1 北部	X＝64,533 ～ 64,535	Y＝-70,039 ～ -70,041	円形	N-22-W	0.86×0.83×0.44	有	縄文時代
60	土坑	1 北部	X＝64,530 ～ 64,531	Y＝-70,039 ～ -70,041	円形	N-53-W	0.91×0.83×0.35	有	諸磯ａ期
61	土坑	1 中部	X＝64,508 ～ 64,510	Y＝-70,025 ～ -70,027	隅丸長方形	N-65-E	1.12×0.73×0.32	有	縄文時代
62	土坑	1 北部	X＝64,520 ～ 64,521	Y＝-70,036 ～ -70,037	長円形	N-18-W	0.88×0.78×0.52	有	諸磯ｃ期
63	土坑	1 北部	X＝64,525 ～ 64,527	Y＝-70,038 ～ -70,039	長円形	N-42-W	0.61×0.40×0.23	有	諸磯ａ期
64	土坑	1 北部	X＝64,631 ～ 64,533	Y＝-70,038 ～ -70,040	長円形	N-42-W	1.18×1.04×0.45	有	諸磯ａ期
65	土坑	1 北部	X＝64,538 ～ 64,539	Y＝-70,048 ～ -70,049	不明	N-33-W	0.68×(0.39)×0.30	有	加曽利Ｅ２期
66	土坑	1 北部	X＝64,537 ～ 64,539	Y＝-70,044 ～ -70,046	長円形	N-50-W	0.94×0.76×0.12		縄文時代
67	土坑	1 北部	X＝64,542 ～ 64,544	Y＝-70,049 ～ -70,051	円形	N-59-E	0.93×0.90×0.19	有	縄文時代
68	土坑	1 北部	X＝64,542 ～ 64,543	Y＝-70,051 ～ -70,053	偏円形	N-42-W	0.41×0.37×0.12		縄文時代
69	土坑	1 北部	X＝64,541 ～ 64,542	Y＝-70,050 ～ -70,051	偏円形	N-45-E	0.37×0.28×0.13		縄文時代
70	土坑	1 北部	X＝64,525 ～ 64,527	Y＝-70,036 ～ -70,038	円形	N-66-E	0.92×0.91×0.21	有	諸磯ａ期
71	土坑	1 北部	X＝64,531 ～ 64,534	Y＝-70,041 ～ -70,044	長円形	N-70-W	2.38×1.41×0.36	有	諸磯ａ期
72	土坑	1 北部	X＝64,536 ～ 64,537	Y＝-70,044 ～ -70,046	偏円形	N-64-W	0.88×0.73×0.13		縄文時代
73	土坑	1 北部	X＝64,540 ～ 64,541	Y＝-70,050 ～ -70,052	偏円形	N-79-W	1.61×1.47×0.99	有	加曽利Ｅ２期
75	土坑	2 北西端	X＝64,652 ～ 64,654	Y＝-70,038 ～ -70,040	長円形	N-6-E	1.46×1.13×0.23		縄文時代
80	土坑	1 北端部	X＝64,561 ～ 64,563	Y＝-70,055 ～ -70,057	長円形	N-24-W	0.98×0.87×0.22		縄文時代
81	土坑	1 北端部	X＝64,555 ～ 64,557	Y＝-70,053 ～ -70,054	長円形	N-66-W	0.82×0.74×0.24	有	加曽利Ｅ２期
82	土坑	1 北端部	X＝64,557 ～ 64,559	Y＝-70,055 ～ -70,057	円形	N-16-W	0.89×0.87×0.81	有	加曽利Ｅ２期
2	ピット	2 南東側	X＝64,636 ～ 64,637	Y＝-70,010 ～ -70,011	円形	N-21-W	0.28×0.27×0.37		縄文時代
3	ピット	2 南東側	X＝64,633 ～ 64,634	Y＝-70,014 ～ -70,015	偏円形	N-30-E	0.28×0.27×0.37		縄文時代
4	ピット	2 中央	X＝64,641 ～ 64,642	Y＝-70,020 ～ -70,021	長円形	N-9-E	0.35×0.28×0.19		縄文時代

※「時期」項目中の詳細時期区分は土器観察所見による。



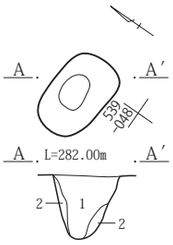
45号土坑
1　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　粘質土。締まりあり。φ１～２㎜の白色粒子、橙色粒を含む。
2　黄褐色土(10YR5/6)　粘質土。締まりあり。φ１～２㎜の白色粒子、橙色粒を少量含む。

46号土坑
1　にぶい黄橙色土(10YR6/3)　粘質あり。締まりあり。φ１～２㎜の白色粒子、橙色粒を含む。φ３～５㎜ローム粒を少量含む。

47号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　粘性あり。φ１㎜の褐色粒子を少量含む。
2　黄褐色土(10YR5/6)　粘質土。φ２～３㎜ローム粒を少量含む。

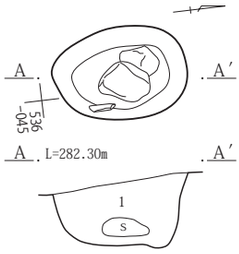
第18図　土坑３

49号土坑



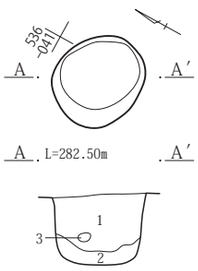
49号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘質土。締まりあり。φ１～２㎜の白色粒子、橙色粒を含む。
2　黄褐色土(10YR5/6)　粘質土。締まりあり。φ１～２㎜の白色粒子、橙色粒を含む。

50号土坑



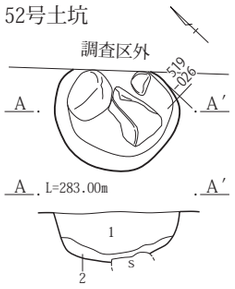
50号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　締まりあり。φ１～２㎜の白色粒子、橙色粒を含む。φ２～３㎜ロームブロックを少量含む。大型の礫が混在する。

51号土坑



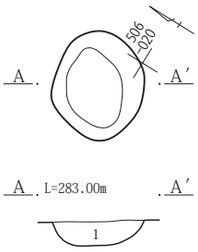
51号土坑
1　にぶい黄橙色土(10YR6/3)　粘質あり。締まりあり。φ１～２㎜の白色粒子、橙色粒、炭化粒を含む。ロームブロックを少量含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)　締まりあり。φ１～２㎜の白色粒子、橙色粒、炭化粒を少量含む。ロームブロックを少量含む。
3　黄橙色土(10YR8/8)　ロームブロック。

52号土坑



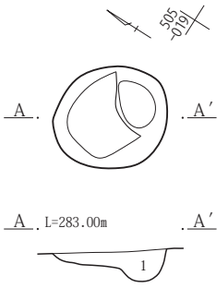
52号土坑
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　締まりあり。粘性あり。φ12㎜の白色粒子、橙色粒、炭化粒を含む。ローム粒を少量含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)　締まりあり。粘性あり。φ１～２㎜の白色粒子を少量含む。ロームブロックを含む。

53号土坑



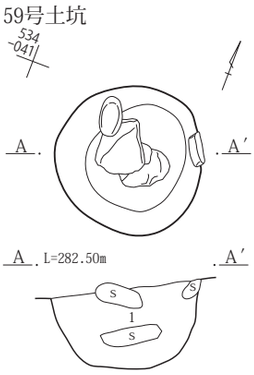
53号土坑
1　黄褐色土(10YR5/6)　締まりあり。φ１～３㎜の白色粒子、橙色粒を多量に含む。ロームブロックを含む。φ３～５㎝の礫が混在する。

54号土坑

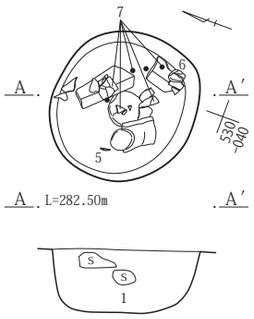


54号土坑
1　黄褐色土(10YR5/6)　締まりあり。φ３～５㎜の白色粒子を多量に含む。φ３～５㎝ロームブロックを含む。φ１～２㎜炭化粒を少量含む。

59号土坑

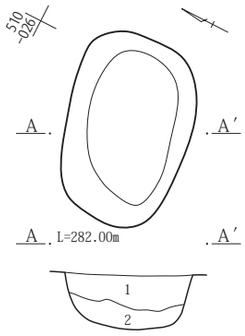


60号土坑



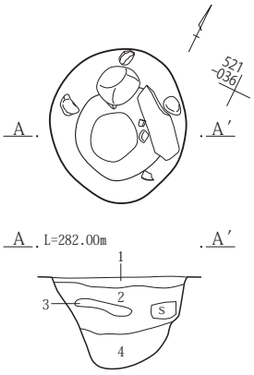
59・60号土坑
1　黄褐色土(10YR5/6)　締まりあり。φ１～３㎜の白色粒子、橙色粒を含む。ロームブロックを含む。大型の礫が混在する。

61号土坑



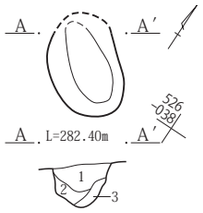
61号土坑
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性あり。φ１～２㎜の白色粒子､炭化粒を含む。褐色粘質土ブロックを含む。
2　褐色土(10YR4/4)　粘性あり。砂粒子を含む｡褐色粘質土ブロックを含む。

62号土坑



62号土坑
1　褐灰色土(10YR6/1)　砂粒子を含む。締まり弱い。φ１㎜の白色粒子、橙色粒を含む。
2　褐灰色土(10YR5/1)　砂粒子を含む。φ１㎜の白色粒子、橙色粒を含む。黒褐色粘質土ブロックを含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　黒褐色粘質土ブロックを多量に含む。
4　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり。φ１～２㎜の白色粒子を含む。ロームブロックを少量含む。

63号土坑

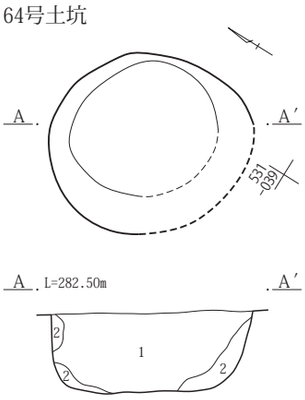


63号土坑
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　締まりあり。φ１～２㎜の白色粒子、橙色粒、ローム粒を含む。
2　黄褐色土(10YR5/6)　粘性あり。φ１～２㎜の橙色粒、ローム粒を含む。
3　浅黄橙色土(10YR8/3)　締まりあり。地山ローム主体。暗褐色土ブロックをッ少量含む。

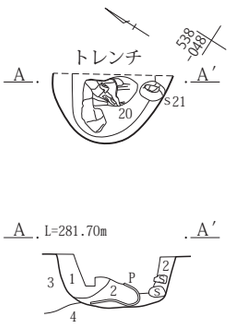
0　1:40　1m

第19図　土坑４

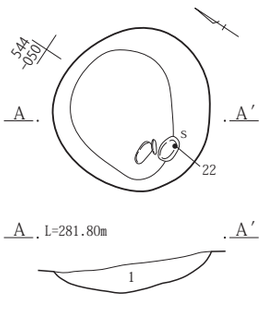
64号土坑



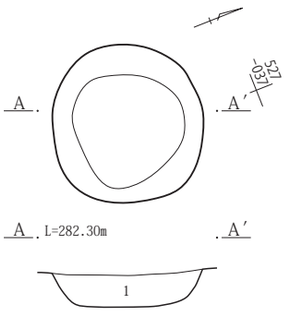
65号土坑



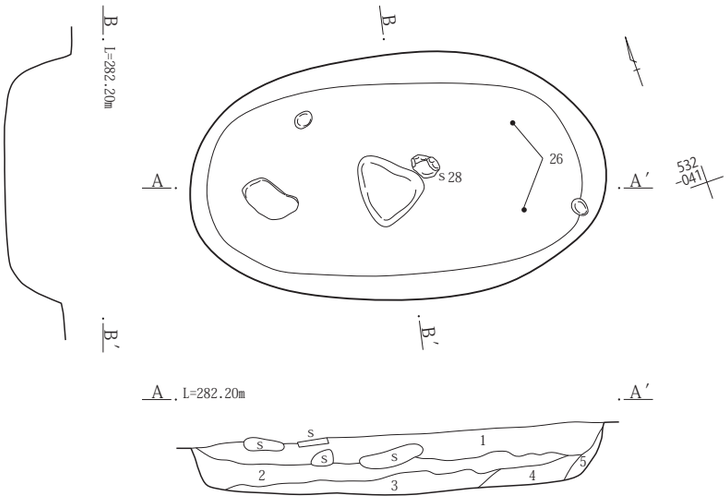
67号土坑



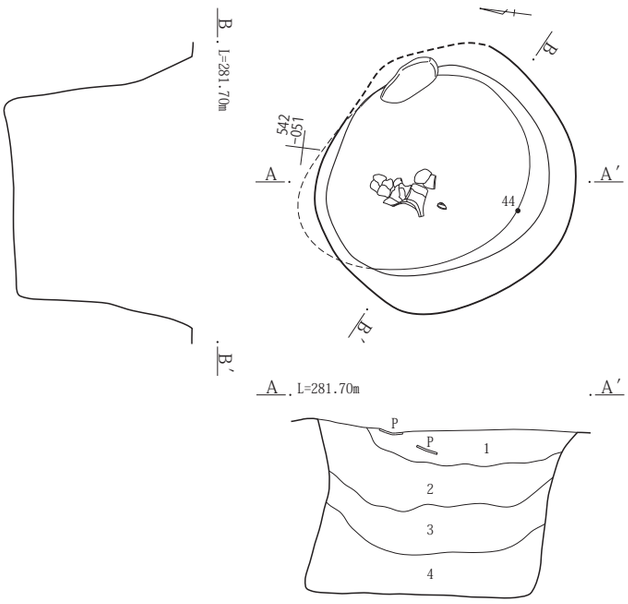
70号土坑



71号土坑



73号土坑



64号土坑
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　締まりあり。φ１～３㎜の白色粒子、橙色粒、ロームブロックを含む。角礫が混在する。
2　黄褐色土(10YR5/6)　粘性あり。φ１～２㎜の橙色粒、ローム粒を含む。

65号土坑
1　橙色土(10YR8/8)　砂質。粘性あり。締まりややあり。ローム混じり、黒色土。
2　褐色土(10YR4/4)　砂質。粘性あり。締まりややあり。１㎝程の礫混じり、橙色粒子を少量含む。
3　黄褐色土(10YR5/6)　砂質。粘性あり。締まりややあり。１㎝程の礫混じり、橙色粒子を少量含む。地山。
4　褐色土(10YR4/4)　砂質。粘性あり。締まりなし。１㎝程の礫混じり、橙色粒子を少量含む。地山。

67号土坑
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性あり。締まりあり。φ１～２㎜の白色粒子、炭化粒を含む。褐色粘質土ブロックを含む。

70号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　締まりあり。φ１～２㎜の白色粒子、橙色粒を含む。炭化粒を少量含む。

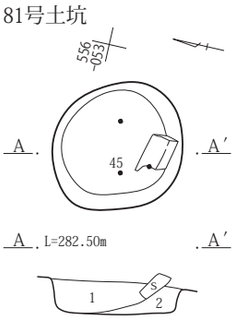
71号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　締まりあり。φ２～５㎜の白色粒子、橙色粒を多量に含む。ロームブロックを含む。礫が混在する。
2　黄褐色土(10YR5/6)　締まりあり。φ１～３㎜の白色粒子、橙色粒を含む。φ３～５㎝ロームブロックを含む。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　締まりややあり。φ１～２㎜の白色粒子、橙色粒を少量含む。φ３～６㎝ロームブロックを含む。
4　黄褐色土(10YR5/6)　φ１～３㎜の白色粒子、橙色粒を少量含む。褐色土ブロックを含む。
5　浅黄橙色土(10YR8/3)　地山ローム主体。壁崩落土。

73号土坑
1　灰黄褐色土(10YR6/2)　締まりあり。φ１～２㎜の白色粒、橙色粒を含む。土器片が混入する。
2　にぶい黄橙色土(10YR7/2)　締まりややあり。φ１～２㎜の白色粒子少量含む。φ２～３㎝ロームブロックを含む。
3　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり。φ１～２㎜の白色粒、橙色粒を少量含む。褐色粘質土ブロックを含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)　粘性あり。暗褐色粘質土ブロックを含む。

0　1:40　1m

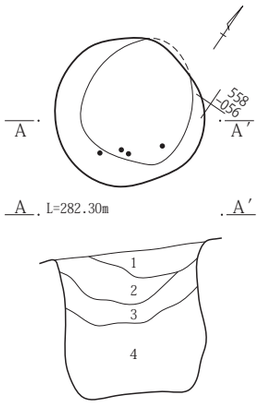
第20図　土坑５

81号土坑



81号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)　締まりややあり。粘性なし。５㎜の橙色粒子中量、ロームブロック少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　締まりややあり。粘性なし。ロームブロック混土。炭化物少量、土器を少量含む。

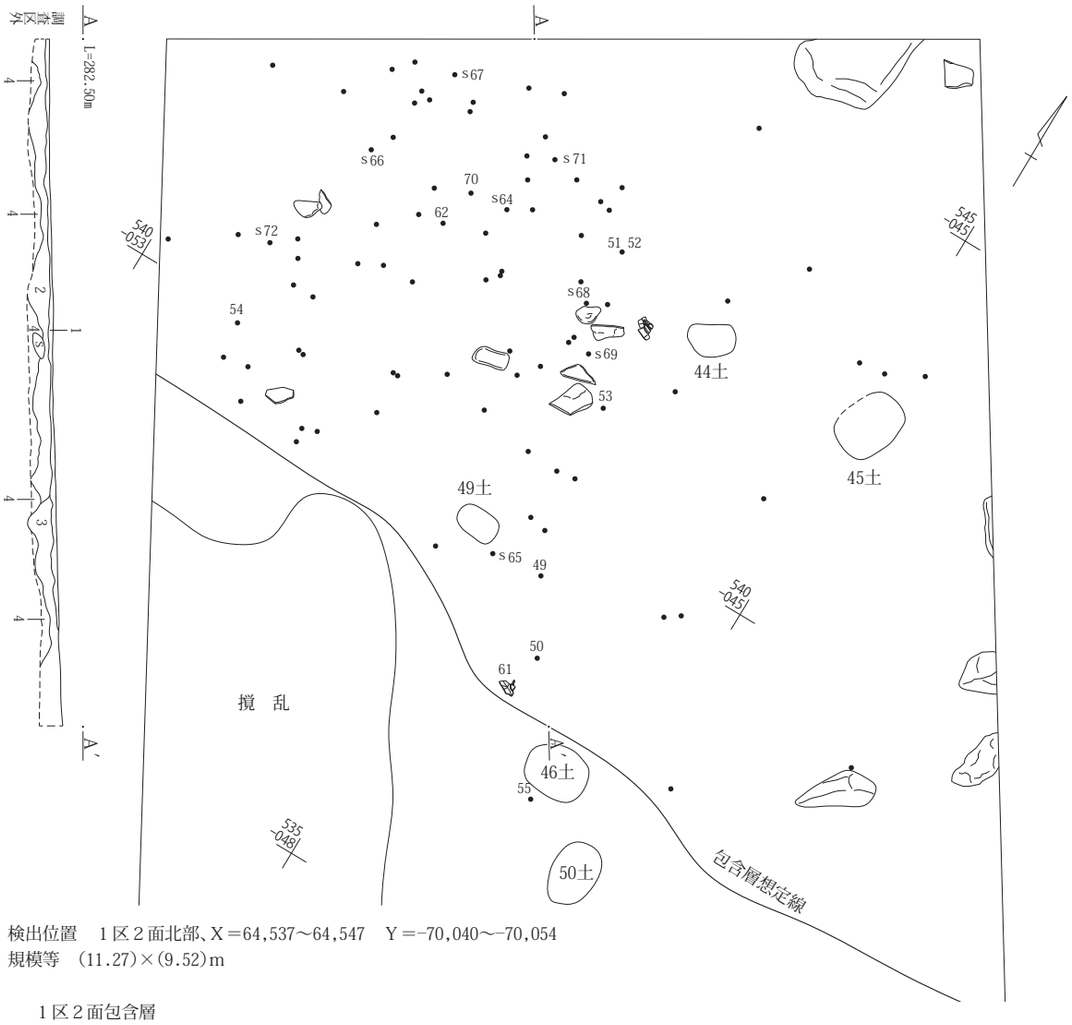
82号土坑



82号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　締まりなし。粘性ややあり。ロームブロック少量、焼土微量、橙色粒子少量、20㎝程度の礫を少量含む。
2　暗褐色土(7.5YR3/3)　締まりなし。粘性なし。ロームブロック中量を含むブロック状の焼土主体の土。灰、炭化物を少量含む。
3　暗褐色土(10YR3/3)　締まりなし。粘性ややあり。ロームブロック、炭化物中量含む。
4　黒褐色土(10YR3/2)　締まりなし。粘性ややあり。ローム混土。３層よりも多い。礫少量、炭化物中量含む。
※３～４層土器含む。

0　1:40　1m

第21図　土坑６



検出位置　１区２面北部、X＝64,537～64,547　Y＝-70,040～-70,054
規模等　(11.27)×(9.52)m

１区２面包含層
1　黒褐色土(10YR3/1)　粘性あり。φ１～３㎜程の白色粒、橙色粒を含む。黒褐色粘質土ブロック、褐色粘質土ブロックを少量含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり。φ２～３㎜程の白色粒、橙色粒を多量に含む。黄褐色土ブロック、黒褐色粘質土ブロック、褐色粘質土ブロックを含む。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性あり。締りあり。φ２～３㎜程の白色粒、橙色粒、黄褐色土ブロックを多量に含む。小礫が少量混入する。
4　黄褐色土(10YR5/8)　やや粘性あり。φ１～３㎜程の白色粒を少量含む。黄褐色土ブロックを含む。

0　1:80　2m

第22図　遺物包含層

第４節　出土遺物

表採や一括遺物として須恵器片や土師器片の他に近世の陶器片や煙管も出土し、また埋没土からは旧石器時代とされる石器も出土するが、遺構に伴う遺物は縄文前期中葉と縄文中期後葉を主体とする縄文前期から後期の土器や石器類に限られる。また出土した石器類は1,000点を越え、その中には黒曜石製の尖頭器、石鏃や石核、黒曜石原石等19点ほどが含まれるが、出土位置を特定範囲に限定できる黒曜石は半数程度にとどまる。出土位置に関しては土器も石器も同様でその多くは遺構に伴わず、また出土した遺物の大半は崩落等により本遺跡の東に展開する台地上の緩斜面からもたらされたと推測される。なお土器片はおよそ4,000点を数える。

古墳時代以降の遺構確認面である第１調査面で確認された遺構から出土した遺物はいずれも遺構埋没土から出土した縄文時代の土器や石器であり、遺構の帰属時期を特定できる資料は得られていない。

縄文時代の遺構確認面である第２調査面の遺物出土状況を以下に記す。　　（第18～43図、PL.４～26）

45号土坑埋没土から縄文中期後葉土器と黒色頁岩剥片が出土している。**46号土坑**埋没土から縄文中期後葉土器と黒色頁岩剥片、チャート剥片が出土している。**47号土坑**埋没土から縄文前期中葉土器とスクレイパーが出土している。**49号土坑**埋没土から縄文中期後葉加曽利Ｅ２式深鉢（１）が出土している。**50号土坑**埋没土から縄文中期後葉加曽利Ｅ２式深鉢（２）と珪質頁岩剥片が出土している。**51号土坑**埋没土から縄文土器が出土している。**52号土坑**埋没土から縄文前期中葉諸磯ａ式深鉢（３）と黒色頁岩剥片が出土している。**53号土坑**埋没土から縄文前期中葉諸磯ａ式深鉢（４）が出土している。**54号土坑**埋没土から縄文前期中葉土器とホルンフェルス剥片が出土している。**59号土坑**埋没土から縄文土器が出土している。**60号土坑**埋没土上半・黄褐色土中から縄文前期中葉諸磯ａ式深鉢（５，６）とスクレイパー（８）、打製石斧（９）、磨石(10)が出土している他、埋没土から縄文前期後葉深鉢（７）、黒色頁岩剥片が出土している。**61号土坑**埋没土から縄文土器と黒曜石剥片が出土している。**62号土坑**埋没土中層・褐灰色土中から縄文前期後葉深鉢(13)と石核(16)、下層･暗褐色土中から縄文前期後葉諸磯ｃ式土器、スクレイパー（14)、敲石(17)が出土している。この他に埋没土中から縄文前期後葉諸磯ｃ式深鉢(11,12)、打製石斧(15)や黒曜石剥片などが出土している。本遺構の帰属時期は縄文前期に比定される。**63号土坑**埋没土から縄文前期中葉諸磯ａ式深鉢(18)が出土している。**64号土坑**埋没土から縄文前期中葉諸磯ａ式深鉢(19)、石核が出土している。**65号土坑**底面から横倒しとなった縄文中期後葉加曽利Ｅ２式深鉢の下半(20)が出土しているほか、底面近くから台石(21)が出土しており、本遺構の帰属時期は縄文中期に比定される。**66号土坑**埋没土から敲石や黒色頁岩剥片が出土している。**67号土坑**埋没土から打製石斧(22)と磨石(23)、敲石が出土している。**70号土坑**埋没土から縄文前期中葉諸磯ａ式深鉢(24)と石匙(25)が出土している。**71号土坑**埋没土上層・暗褐色土中から縄文前期中葉諸磯ａ式深鉢(26,27)と石核(28)が出土した他、埋没土から磨石(29)、台石、黒曜石剥片が出土している。**73号土坑**埋没土上層・灰黄褐色土中から縄文中期後葉加曽利Ｅ２式深鉢(41～44)と打製石斧が出土している。この他埋没土から縄文前期中葉の黒浜式(30)や黒浜・有尾式(31)、有尾式(32)、諸磯ａ式(33)の深鉢、縄文前期後葉の諸磯ｃ式(34～36)や大木５式(37)の深鉢、縄文中期前葉五領ヶ台式深鉢(38,39)、縄文中期後葉加曽利Ｅ２式深鉢(40)や台石、黒色安山岩剥片、黒色頁岩剥片、黒曜石剥片などが出土している。なお、上述の41は遺物包含層出土片と接合しており、遺物包含層は本遺構より新しい。**81号土坑**底面から縄文中期後葉加曽利Ｅ２式深鉢(45)、黒褐色の崩落土の上面からも加曽利Ｅ２式土器が出土した他、埋没土から黒色頁岩剥片が出土している。本遺構の帰属時期は縄文中期に比定される。**82号土坑**埋没土から、焼土と共に縄文中期後葉加曽利Ｅ２式深鉢(46,47)、敲石、蛇紋岩剥片、珪質頁岩剥片、黒色頁岩剥片が出土している。調査所見により、本遺構の帰属時期は縄文中期に比定される。

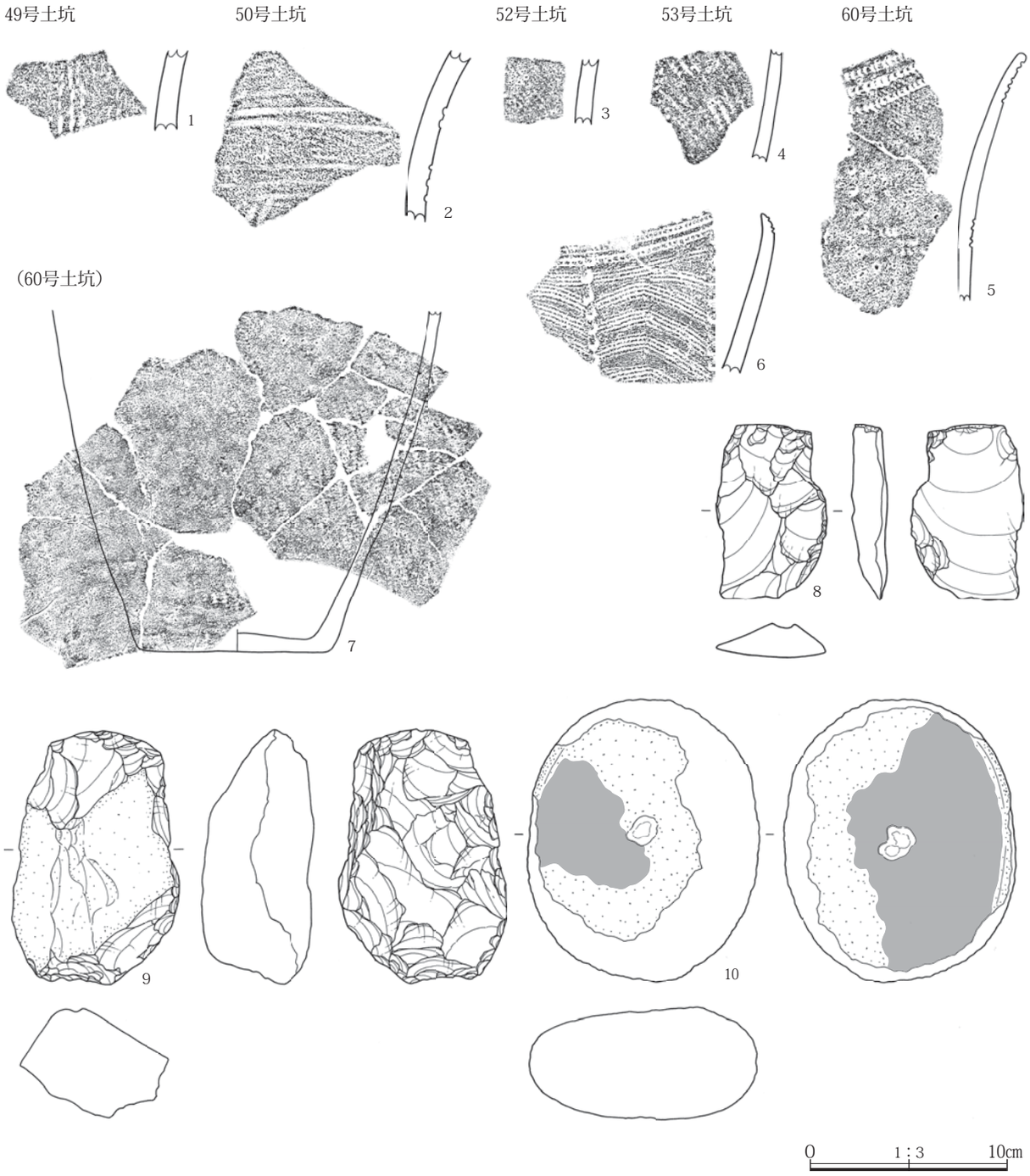
１区北部北辺に位置する**遺物包含層**とした一画からは縄文前期後葉諸磯ｂ式深鉢(48)、縄文中期後葉の加曽利Ｅ２式(49～62)や加曽利Ｅ３式又はＥ４式(63)の深鉢、スクレイパー（64)や打製石斧(65～68)、石核(69～71)、凹石(72)、敲石(73)など多様な遺物が出土している。

遺構外からは縄文前期中葉の黒浜式や有尾式、諸磯ａ

式の深鉢、縄文前期後葉の諸磯ｂ式や諸磯ｃ式、大木５式の深鉢、縄文中期前葉五領ヶ台式深鉢、縄文中期中葉の阿玉台式や加曽利Ｅ１式の深鉢、縄文中期後葉の加曽利Ｅ２式や加曽利Ｅ３式の深鉢、縄文後期前葉堀之内１式深鉢などが出土している。また黒曜石原石の他、黒曜石製の石鏃、尖頭器、石核が出土している。この他にも黒色頁岩などを用いた石槍、石匙、楔形石器、スクレイパー、打製石斧、磨製石斧、礫器、石核、凹石、磨石、敲石、石皿、台石、砥石など多様な遺物が出土している。

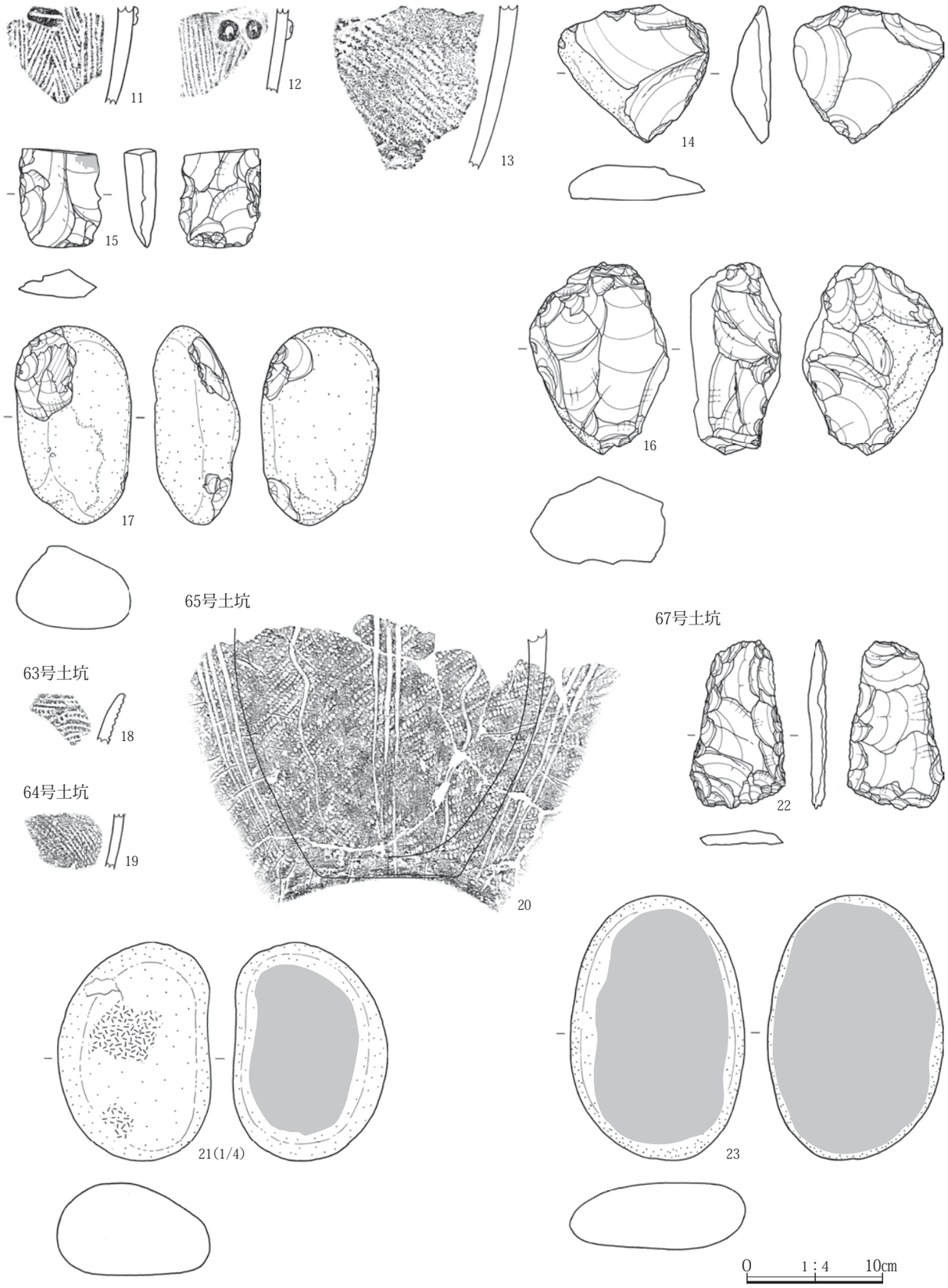
なお黒曜石製の尖頭器(170)は遺物包含層の下位から、石鏃(172)は70号土坑の上位から出土している。

出土石器の詳細は後掲(次章２節２項)する。



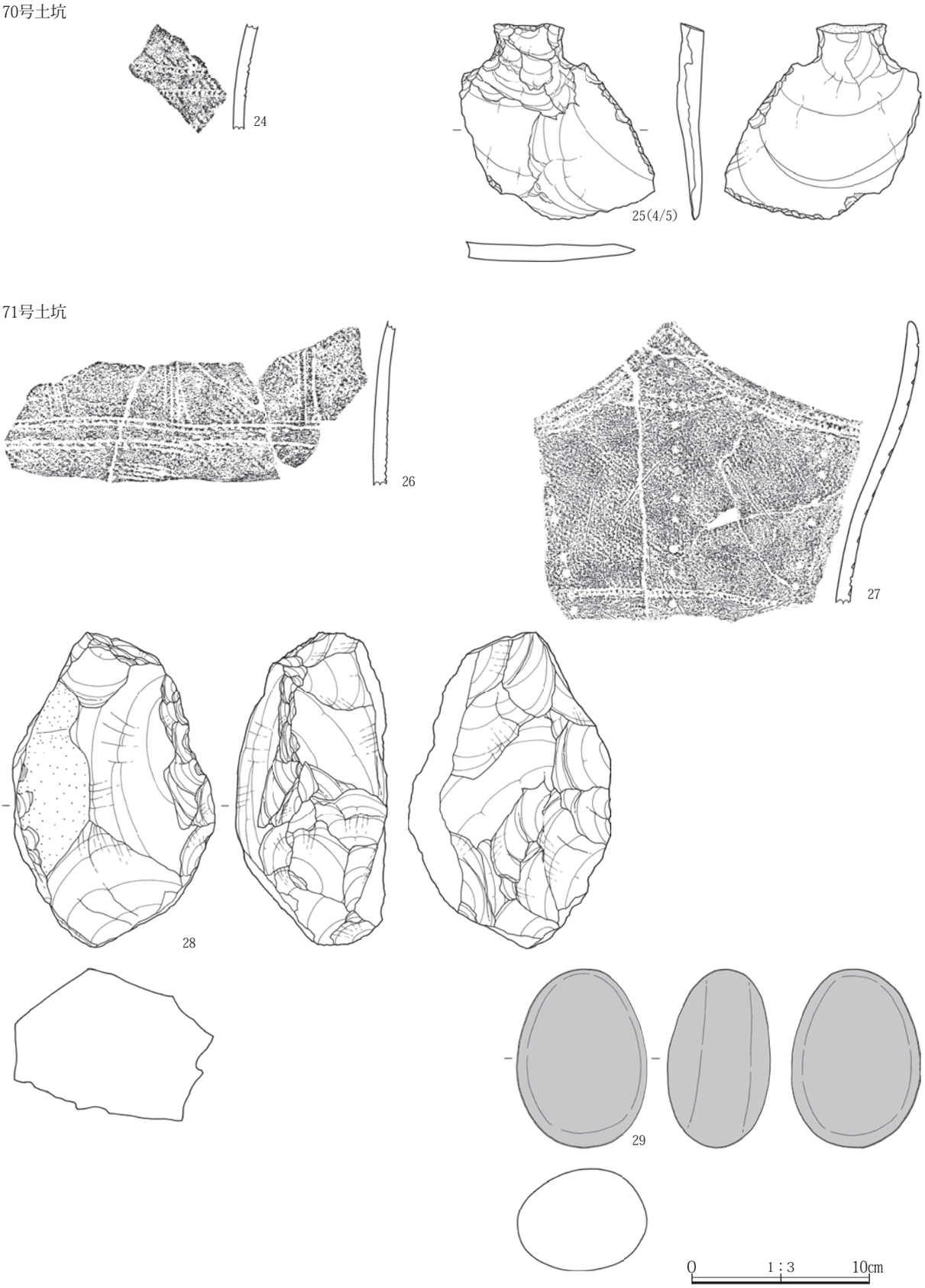
第23図　遺構出土遺物図１

62号土坑



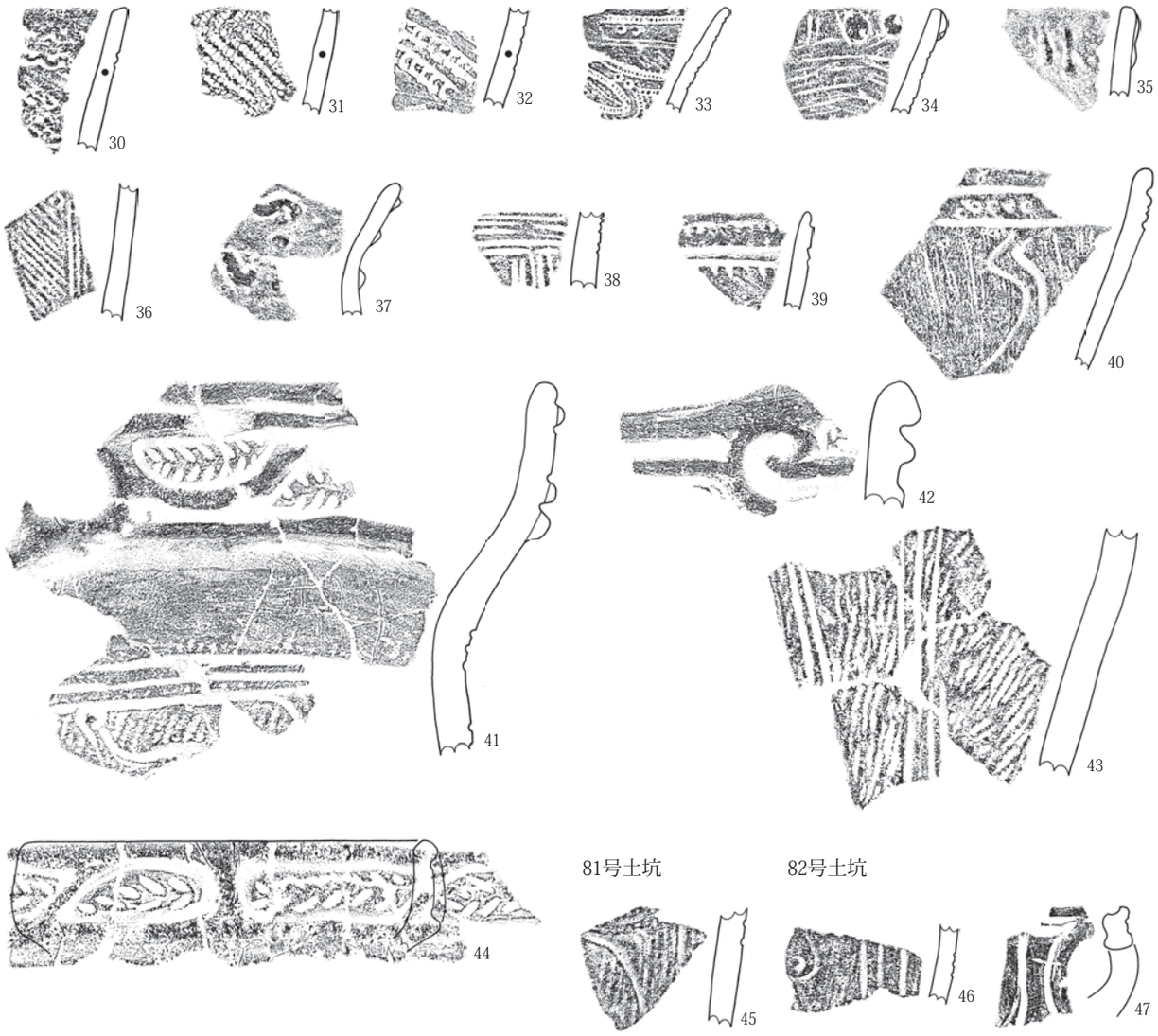
第24図　遺構出土遺物図２

70号土坑



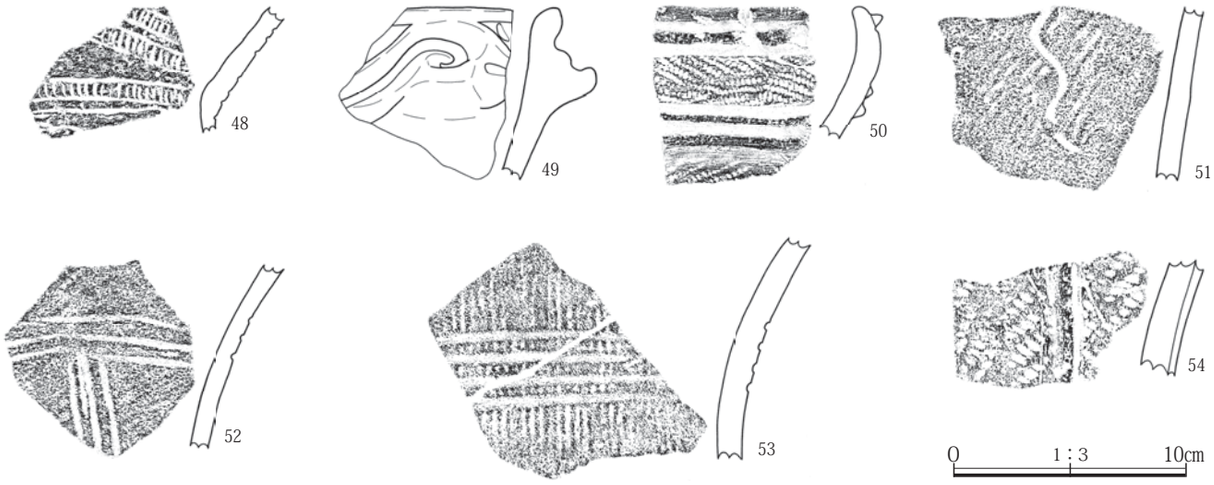
第25図　遺構出土遺物図３

73号土坑



81号土坑　82号土坑

１区北遺物包含層



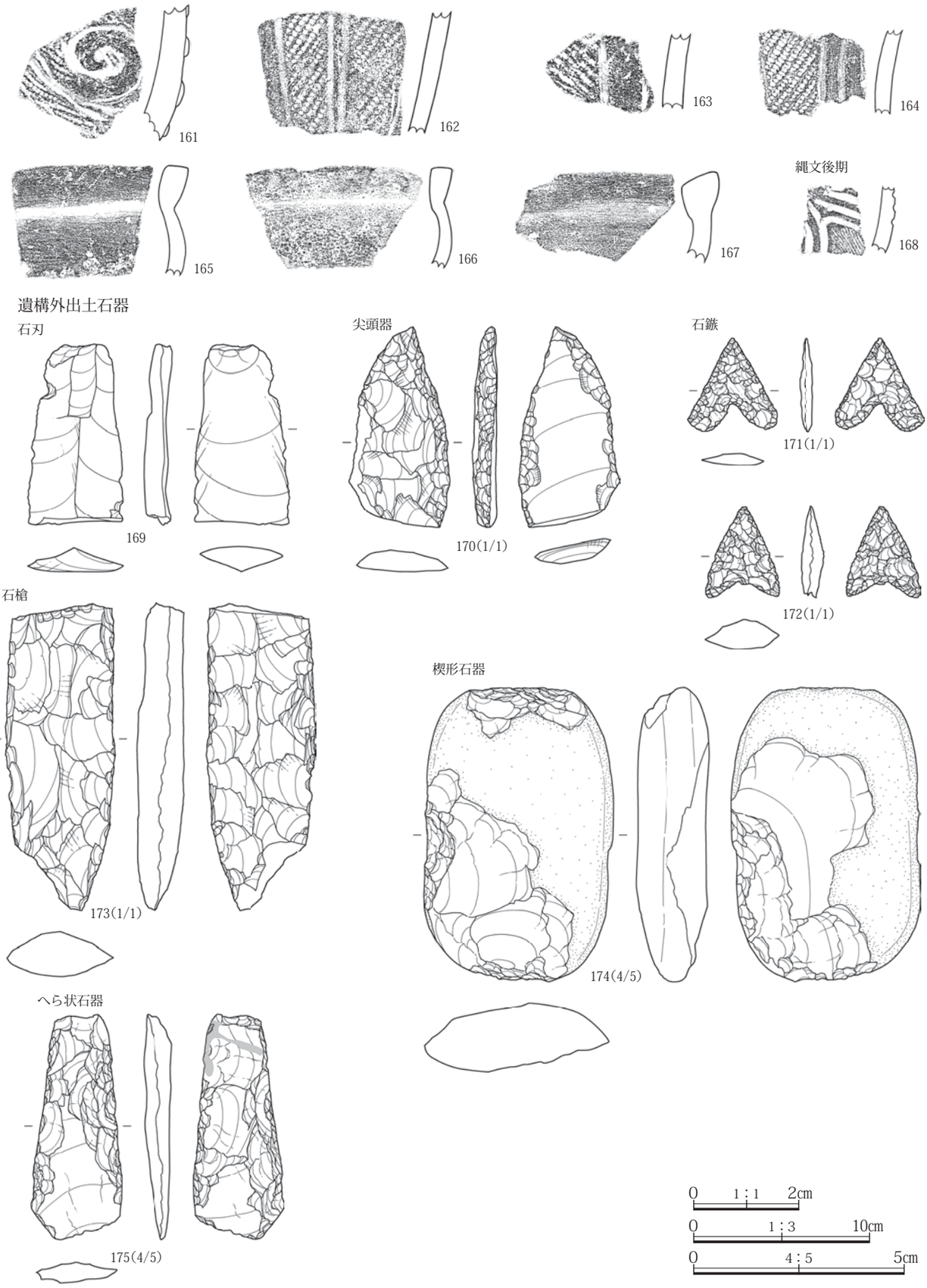
第26図　遺構出土遺物図４

第27図　遺構出土遺物図５

第28図　遺構出土遺物図６、遺構外出土土器図１

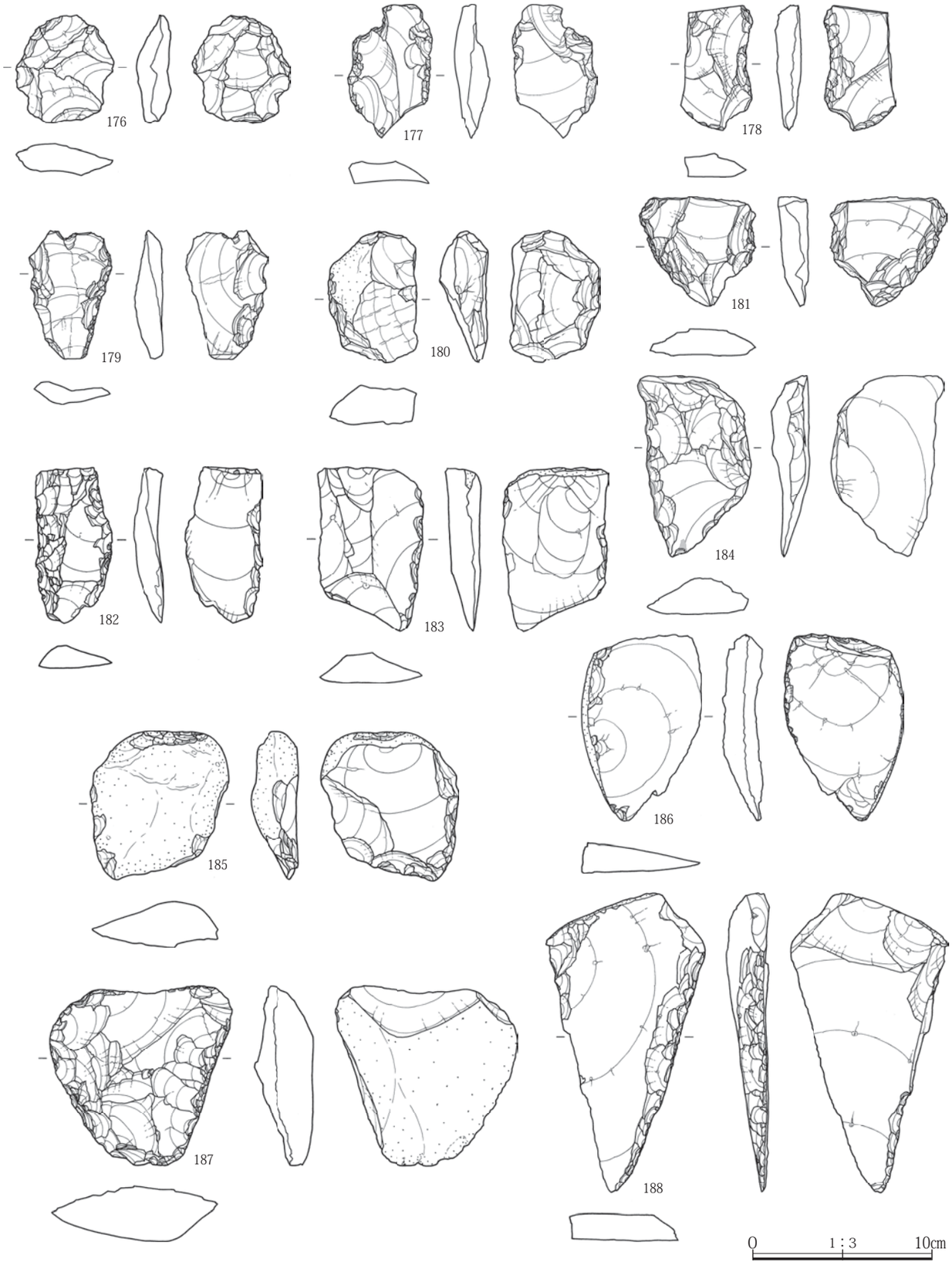
第29図　遺構外出土土器図２

第30図　遺構外出土土器図３



第31図　遺構外出土土器図４、遺構外出土石器図１

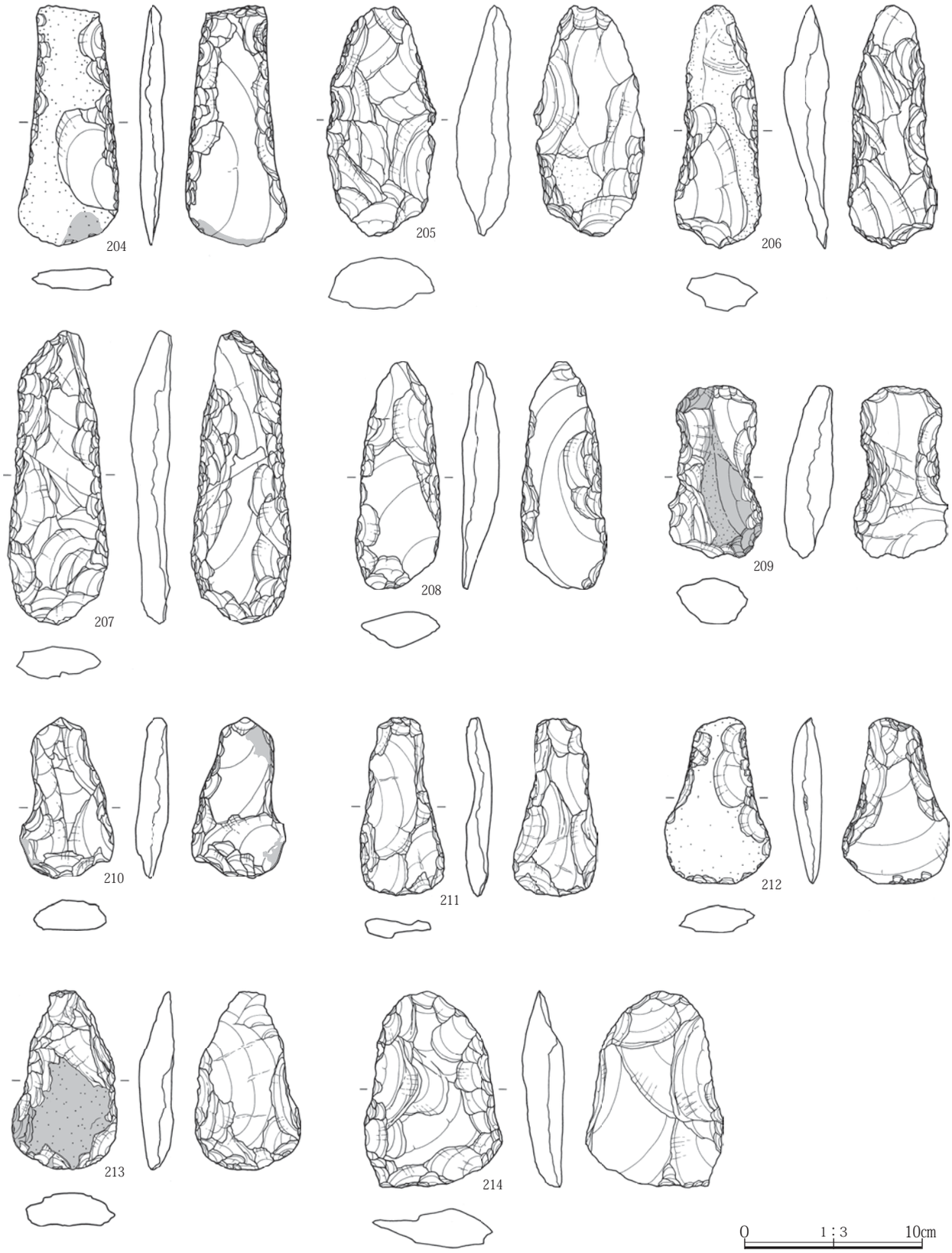
スクレイパー



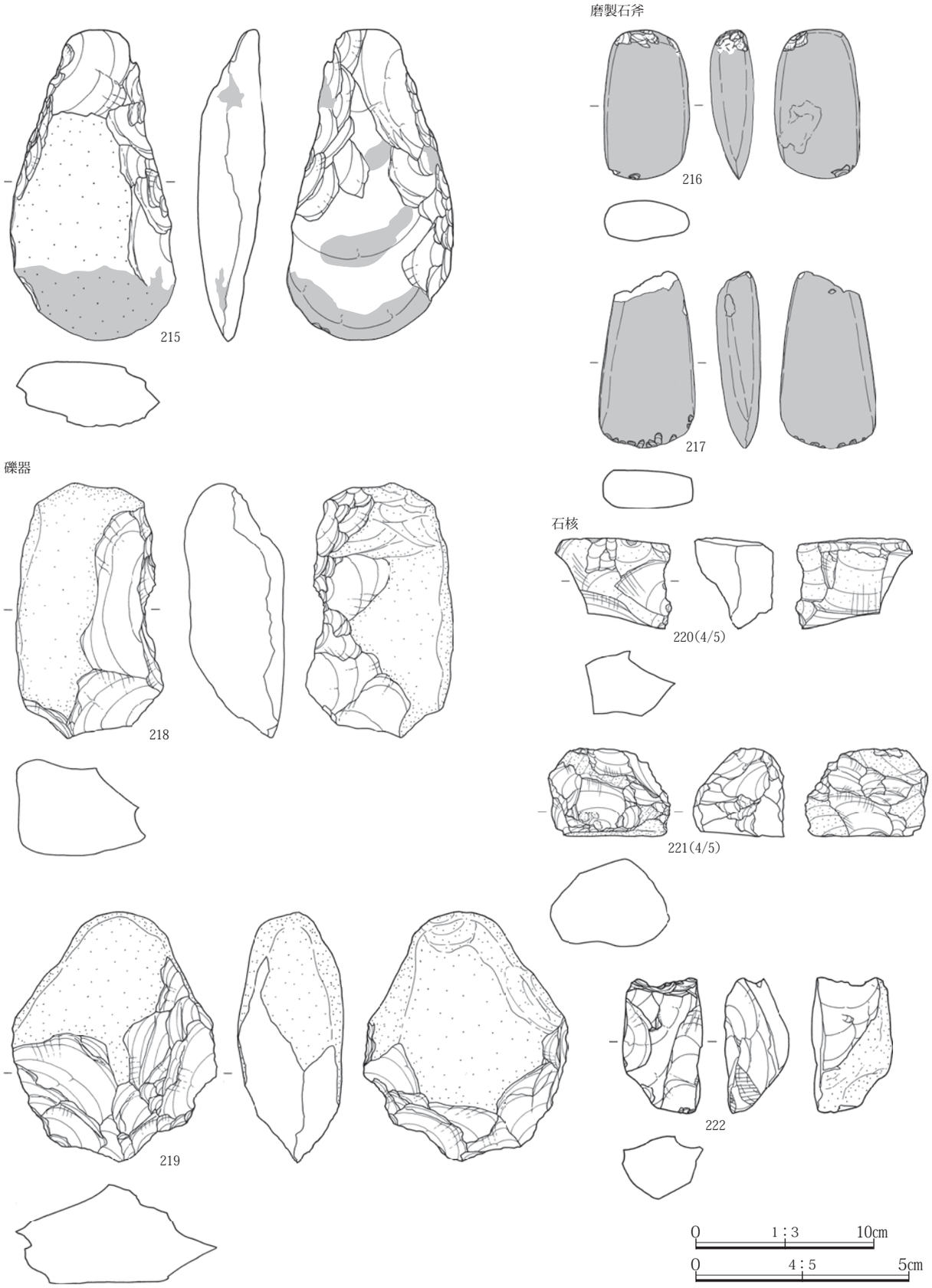
第32図　遺構外出土石器図２

打製石斧

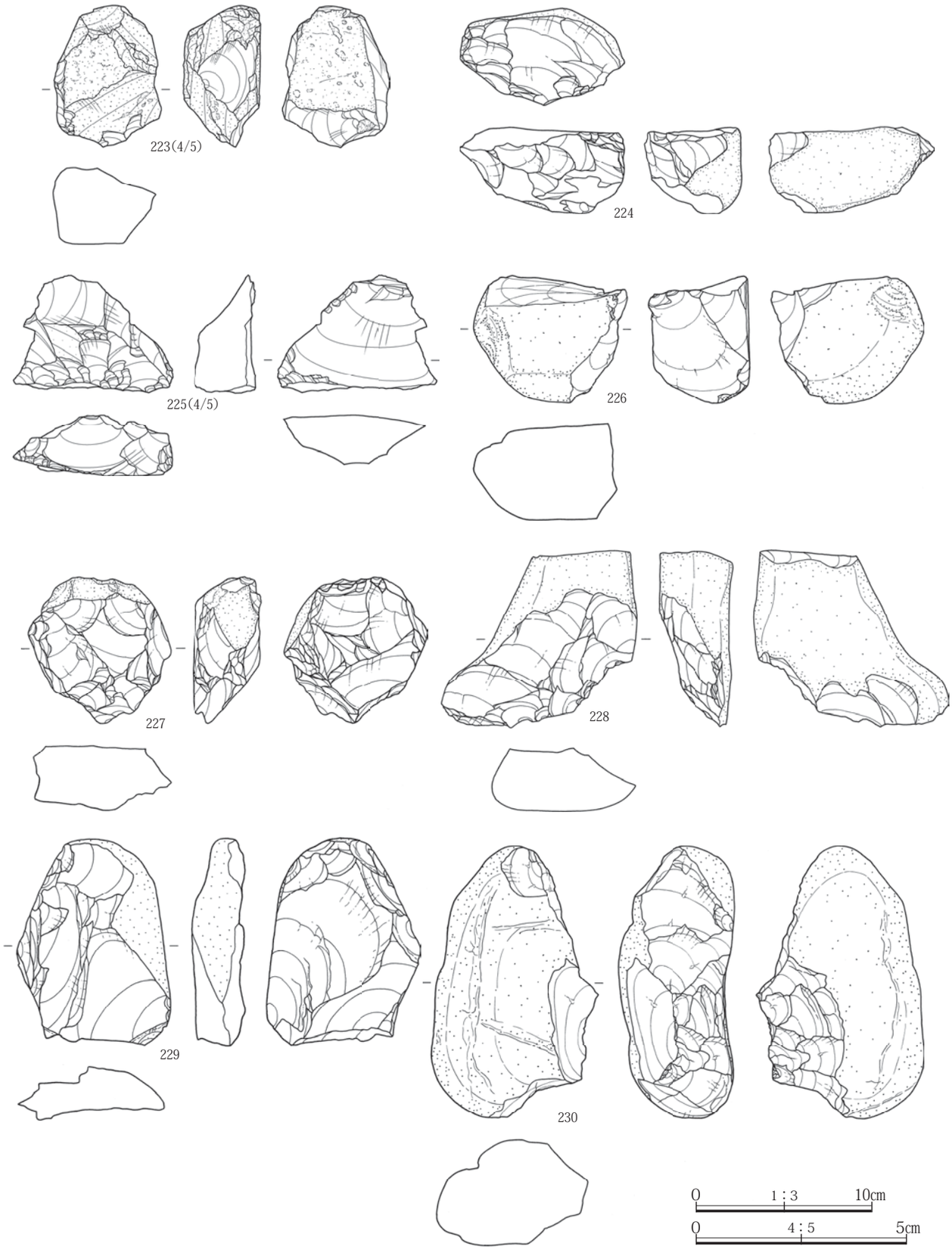
第33図　遺構外出土石器図３



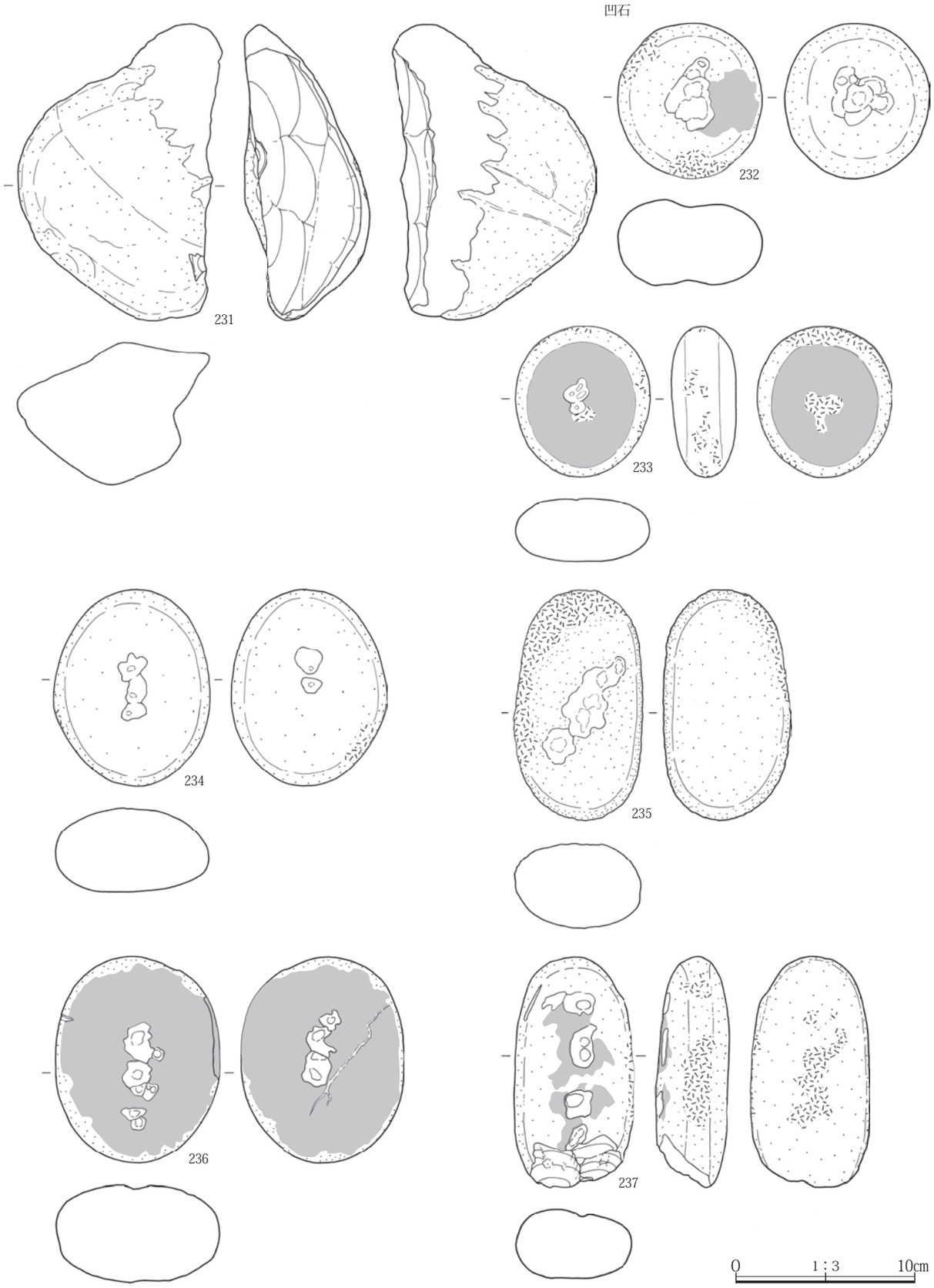
第34図　遺構外出土石器図４



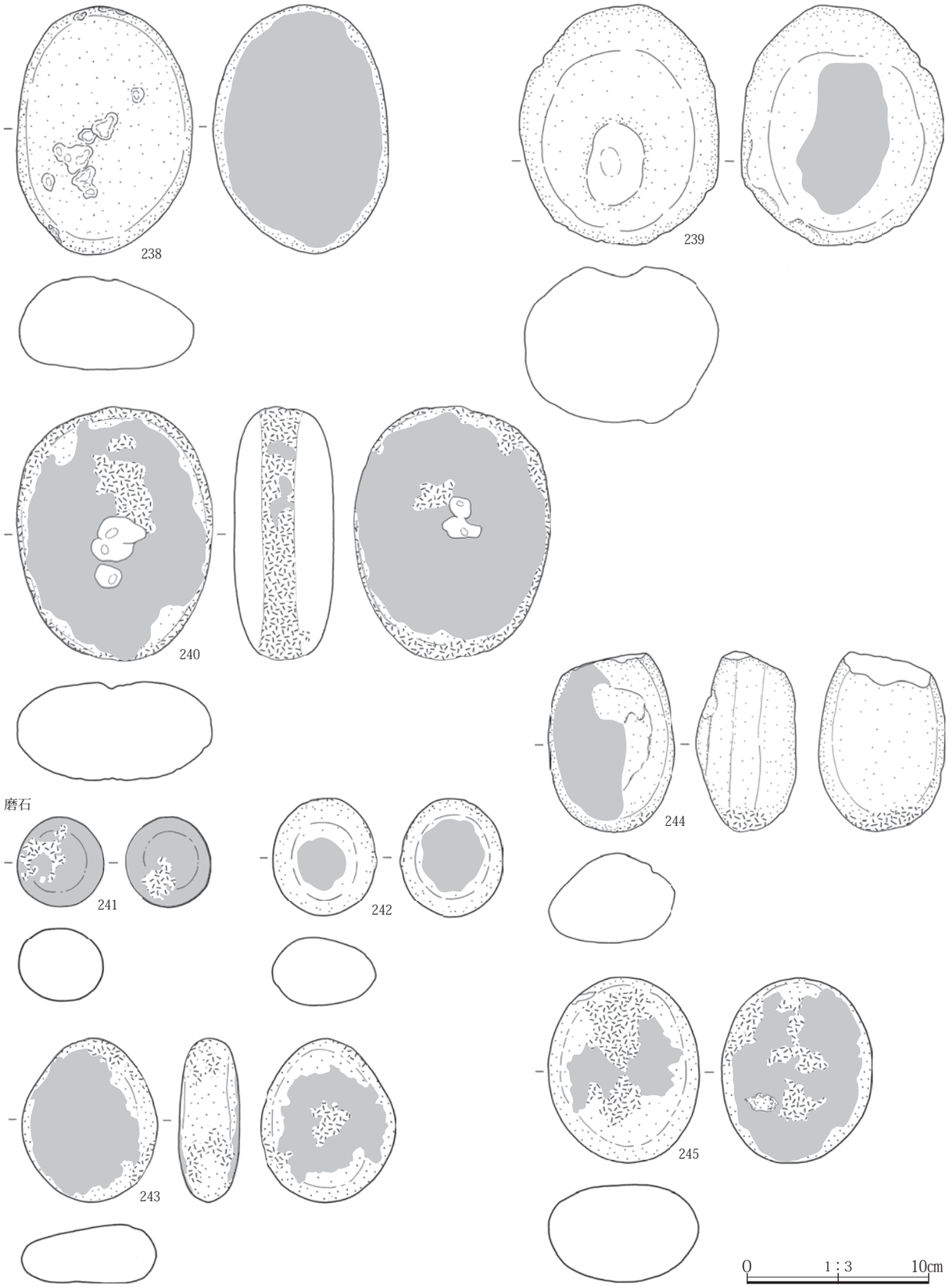
第35図　遺構外出土石器図５



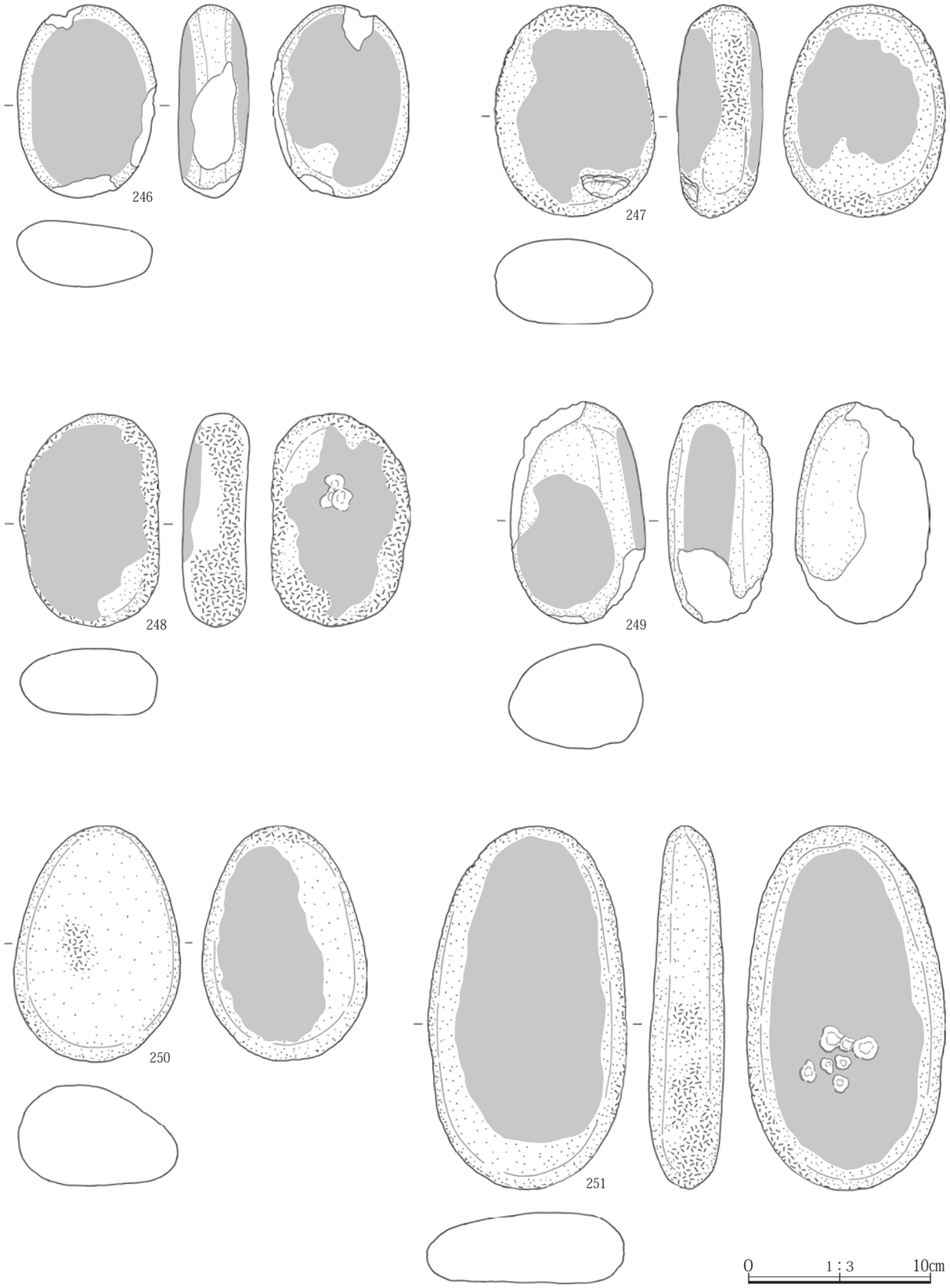
第36図　遺構外出土石器図６



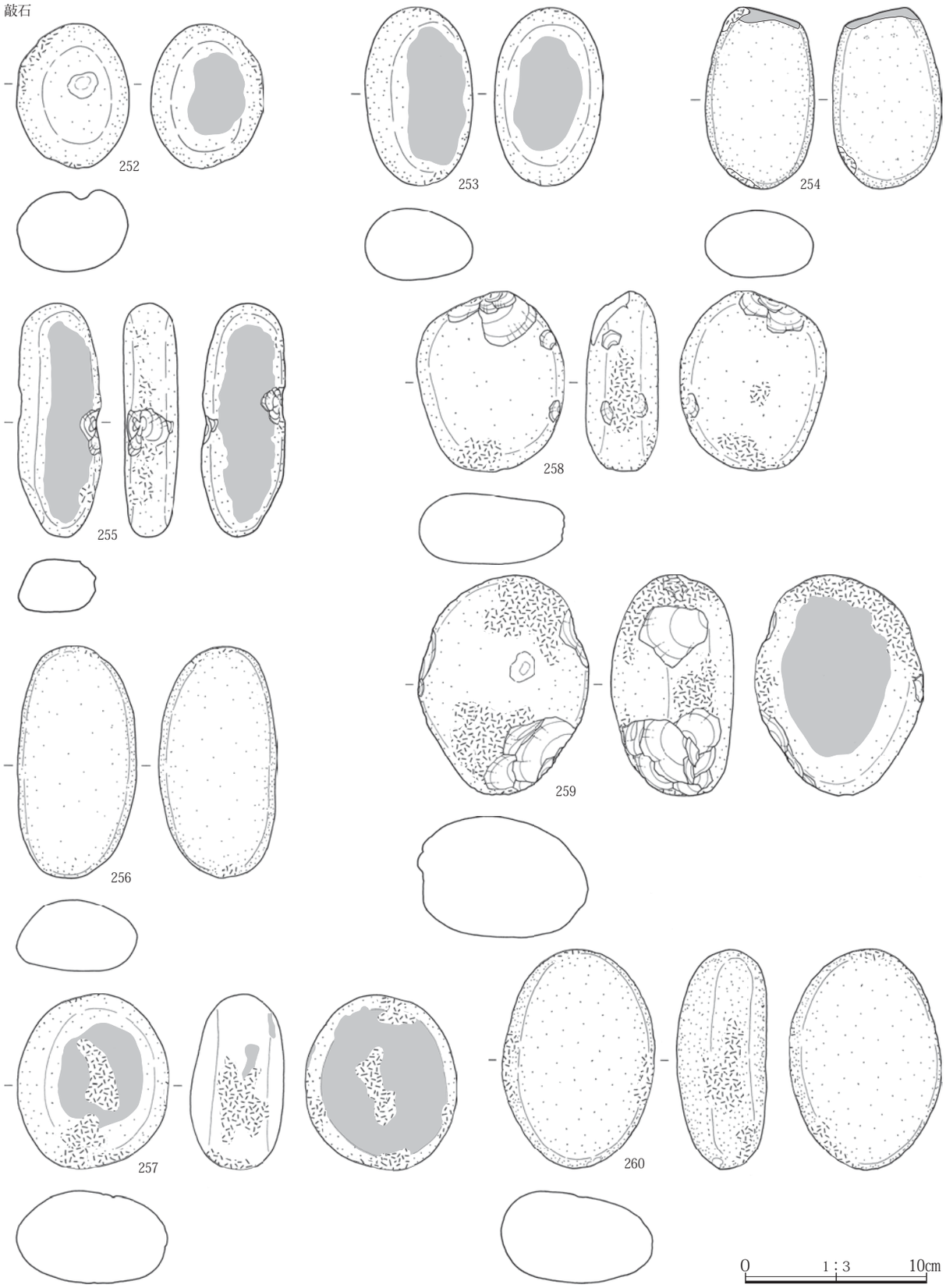
第37図　遺構外出土石器図７



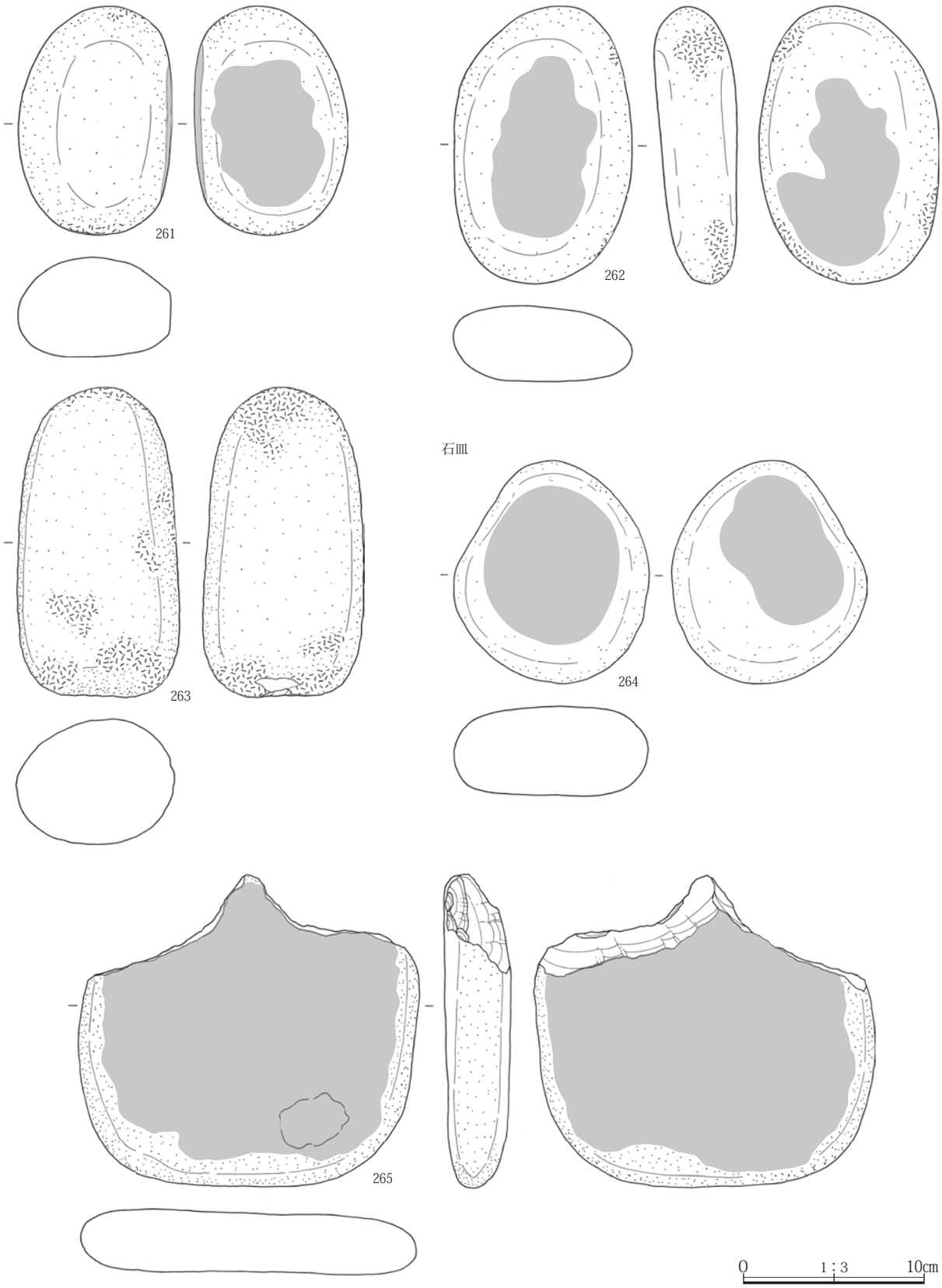
第38図　遺構外出土石器図８



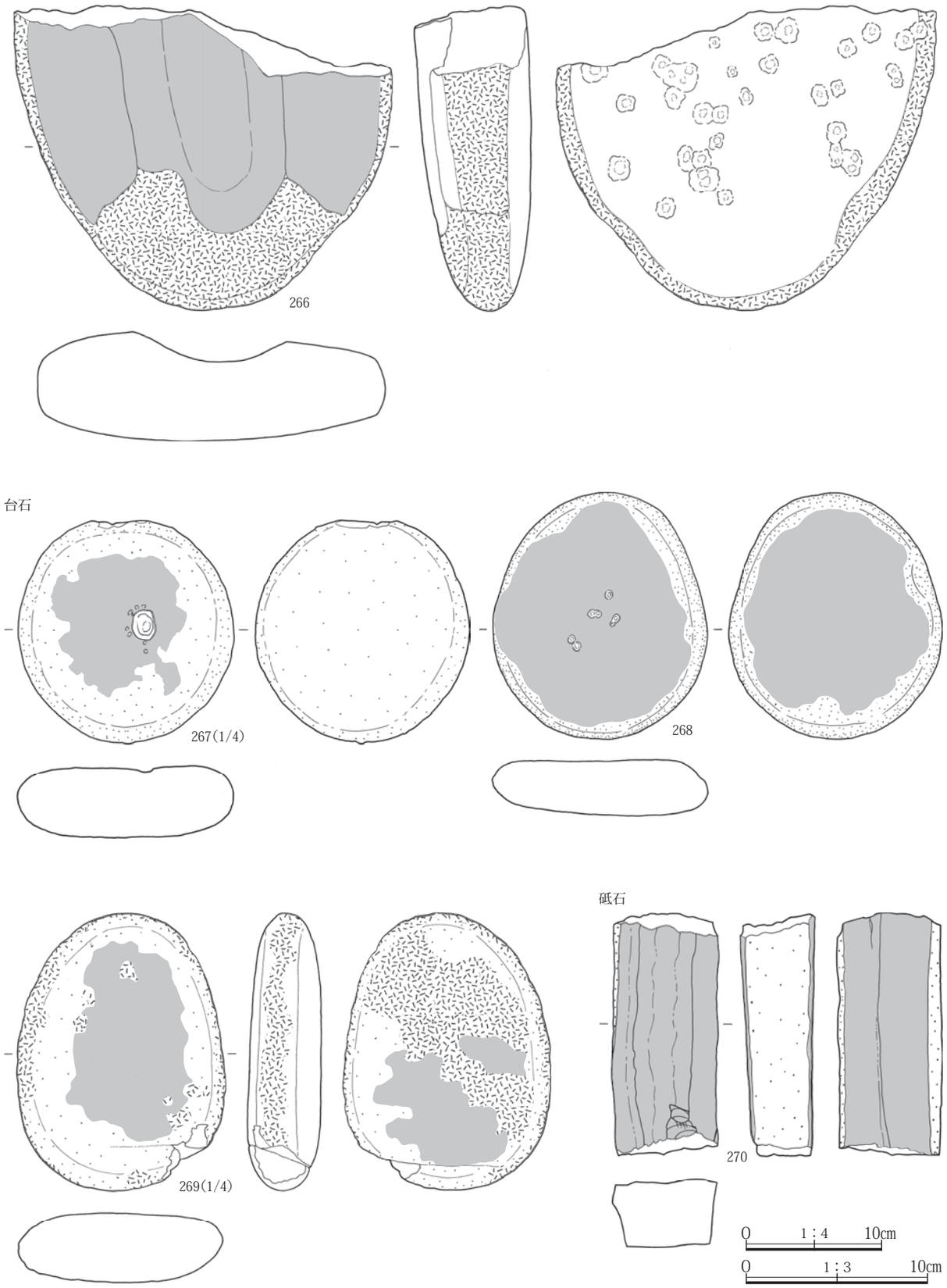
第39図　遺構外出土石器図９



第40図　遺構外出土石器図10

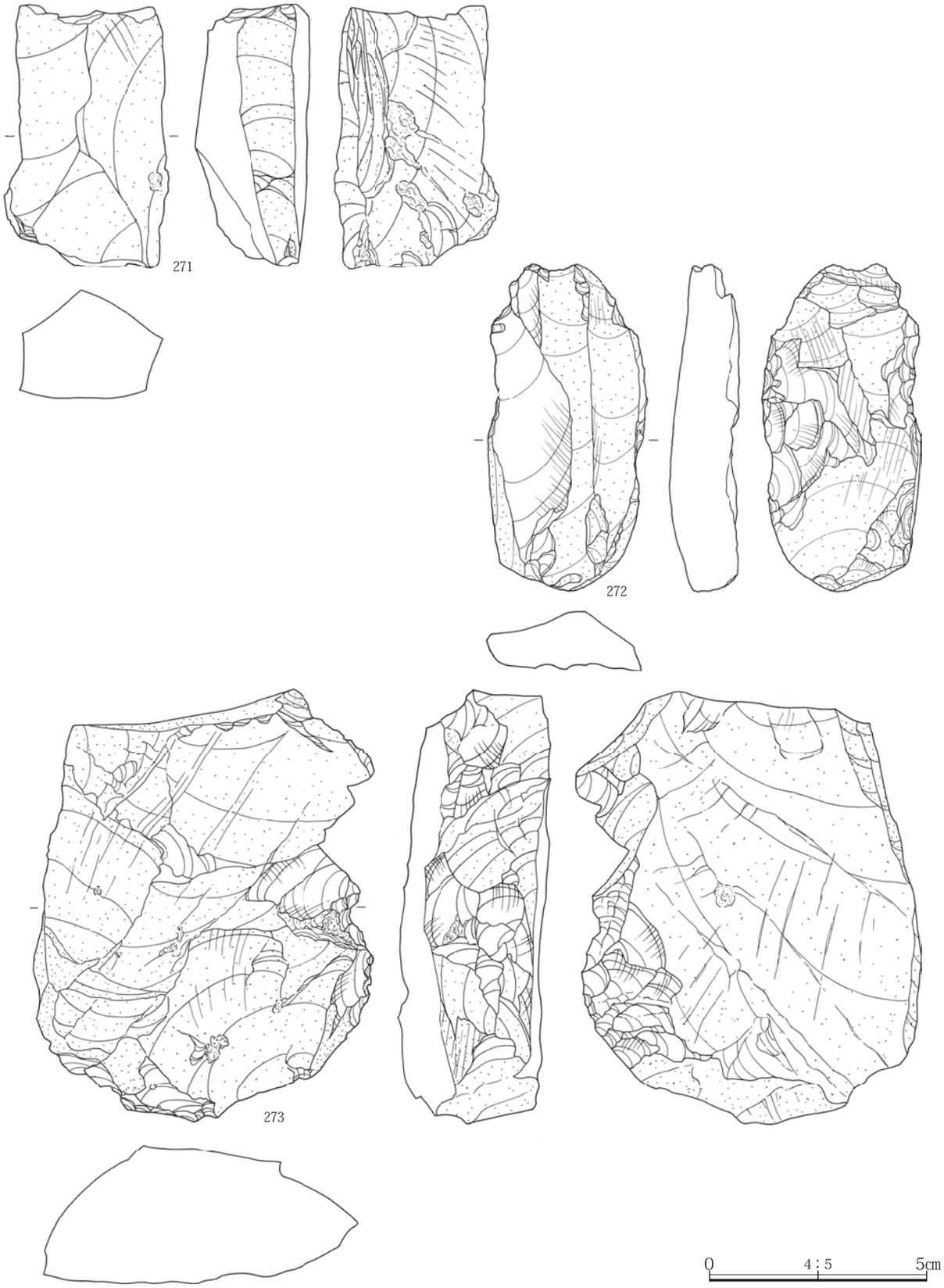


第41図　遺構外出土石器図11



第42図　遺構外出土石器図12

原石



第43図　遺構外出土石器図13

第５表　遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm、g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第23図 PL.８	1	縄文土器 深鉢	49土坑埋没土 胴部破片					粗砂、輝石/良好	撚糸文Ｌを縦位施文する。	加曽利Ｅ２式
第23図 PL.８	2	縄文土器 深鉢	50土坑埋没土 胴部破片					粗砂、輝石、石英/良好	横位３条の沈線を２段めぐらす。地文にRL縄文を横位施文。	加曽利Ｅ２式
第23図 PL.８	3	縄文土器 深鉢	52土坑埋没土 胴部破片					粗砂、輝石、石英/良好	RL縄文を横位施文する。	諸磯ａ式
第23図 PL.８	4	縄文土器 深鉢	53土坑埋没土 胴部破片					粗砂、輝石/良好	RL縄文を横位施文する。	諸磯ａ式
第23図 PL.８	5	縄文土器 深鉢	60土坑埋没土 口縁部破片					粗砂/良好	波状口縁。口縁に沿って３条、胴部に２条の連続爪形文をめぐらし､口縁部文様帯内に円形竹管刺突列を垂下させる。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯ａ式
第23図 PL.８	6	縄文土器 深鉢	60土坑埋没土 口縁部破片					粗砂、輝石、石英/良好	波状口縁。口縁に沿って２条の連続爪形文をめぐらし、円形竹管刺突列を垂下、肋骨文状に条線を施す。	諸磯ａ式
第23図 PL.８	7	縄文土器 深鉢	60土坑埋没土 胴下位～底部1/3	底	(9.5)			粗砂/良好	部分的にRL縄文を施す。	前期後葉
第23図 PL.８	8	剥片石器 スクレイパー	60土坑埋没土 完形	長 幅	8.8 5.6	厚 重	1.7 98.2	黒色頁岩	幅広縦長剥片を素材、表面右側縁とその裏面に刃部作出。	
第23図 PL.８	9	剥片石器 打製石斧	60土坑埋没土 完形	長 幅	12.8 8.4	厚 重	5.5 704.2	黒色頁岩	自然面付き石核を転用、先端刃部は分厚く未成品と考えられる。左右両側縁からの調整加工が施される。上下両端部は潰れている。	未成品
第23図 PL.８	10	礫石器 磨石	60土坑埋没土 完形	長 幅	14.2 11.5	厚 重	5.7 1262.9	花崗岩	偏平な楕円礫を素材、表裏面に摩耗痕とその中央部に対向する浅い凹みが認められる。残存状態が悪く剥落が進む。	
第24図 PL.８	11	縄文土器 深鉢	62土坑埋没土 胴部破片					粗砂、白色粒、輝石/良好	縦位、羽状の集合沈線を施し、沈線を伴う棒状貼付文を横位に付す。	諸磯ｃ式
第24図 PL.８	12	縄文土器 深鉢	62土坑埋没土 胴部破片						11と同一個体。縦位、羽状の集合沈線を施し、半截竹管内皮刺突を伴うボタン状貼付文を２個１組に付す。	諸磯ｃ式
第24図 PL.８	13	縄文土器 深鉢	62土坑埋没土 胴部破片					粗砂、細礫、輝石/良好	RL縄文を横位施文する。	前期後葉
第24図 PL.８	14	剥片石器 スクレイパー	62土坑４層 完形	長 幅	7.4 8.2	厚 重	2.1 113.0	黒色頁岩	横長剥片を素材、裏面上端部に粗い刃部作出。	
第24図 PL.８	15	剥片石器 打製石斧	62土坑埋没土 欠損	長 幅	5.4 4.4	厚 重	1.7 45.2	黒色頁岩	短冊形、上半部欠損。	
第24図 PL.８	16	剥片石器 石核	62土坑２層 完形	長 幅	10.5 7.7	厚 重	5.0 439.9	珪質頁岩	厚みある礫を素材、表裏両面と右側面で剥片剥離を行っている。	
第24図 PL.８	17	礫石器 敲石	62土坑４層 完形	長 幅	10.8 6.3	厚 重	4.6 394.1	黒色頁岩	やや厚みのある偏平な楕円礫を素材、上下両端部に剥離を伴う敲打痕が認められる。	
第24図 PL.８	18	縄文土器 深鉢	63土坑埋没土 口縁部破片					粗砂、輝石/良好	横位、弧状の連続爪形文を施す。	諸磯ａ式
第24図 PL.８	19	縄文土器 深鉢	64土坑埋没土 胴部破片					粗砂、輝石/良好	RL縄文を横位施文する。	諸磯ａ式
第24図 PL.９	20	縄文土器 深鉢	65土坑底面 胴中位～底部破片	底	7.5			粗砂、輝石/良好	地文にRL縄文を縦位施文し、３条沈線による懸垂文、単沈線による蛇行懸垂文を施す。	加曽利Ｅ２式
第24図 PL.９	21	礫石器 台石	65土坑+６cm 完形	長 幅	16.1 11.4	厚 重	6.7 1715.6	粗粒輝石安山岩	やや厚みのある楕円礫を素材、表面に敲打痕、裏面に摩耗痕が認められる。	
第24図 PL.９	22	剥片石器 打製石斧	67土坑埋没土 完形	長 幅	9.1 5.2	厚 重	1.0 46.1	黒色頁岩	撥形、表面にわずかな摩耗痕、先端の刃部再生が顕著である。	
第24図 PL.９	23	礫石器 磨石	67土坑埋没土 完形	長 幅	14.5 9.5	厚 重	3.6 804.8	粗粒輝石安山岩	やや薄手の偏平な楕円礫を素材、表裏面に摩耗痕が認められる。	
第25図 PL.９	24	縄文土器 深鉢	70土坑埋没土 胴部破片					粗砂、輝石/良好	地文にRL縄文を横位施文し、緩やかな対弧状の連続爪形文をめぐらす。	諸磯ａ式
第25図 PL.９	25	剥片石器 石匙	70土坑埋没土 完形	長 幅	4.6 4.7	厚 重	5.0 10.4	黒色頁岩	横長の石匙、幅広縦長剥片を素材。微細な調整加工で縁辺部に刃部を作出、上端部につまみを作出する。	
第25図 PL.９	26	縄文土器 深鉢	71土坑１層 胴部破片					粗砂、輝石、石英/良好	地文にRL縄文を横位施文し、２条の連続爪形文をめぐらして口縁部文様帯を区画、文様帯内を縦位２条の平行沈線により分割する。	諸磯ａ式
第25図 PL.９	27	縄文土器 深鉢	71土坑１層 口縁～胴上位破片					粗砂、輝石/良好	波状口縁で口縁が緩く内湾する。口縁に沿って２条、胴部に１条の連続爪形文をめぐらし、口縁部文様帯内に円形竹管刺突列を垂下させる。胴部の連続爪形文下にも刺突は続く。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯ａ式
第25図 PL.９	28	剥片石器 石核	71土坑１層 完形	長 幅	17.7 11.5	厚 重	8.5 2065.4	黒色頁岩	大型の礫を素材、右側面でチョッピングツール状、裏面で求心状の剥片剥離が行われている。	
第25図 PL.９	29	礫石器 磨石	71土坑埋没土 完形	長 幅	10.0 7.1	厚 重	5.7 582.8	粗粒輝石安山岩	厚みのある球状の楕円礫を素材、全体的に摩耗痕が認められる。	
第26図 PL.９	30	縄文土器 深鉢	73土坑埋没土 口縁部破片					細砂、細礫、繊維/ふつう	口縁下にコンパス文を２段めぐらし、以下、縄文を施す。	黒浜式
第26図 PL.９	31	縄文土器 深鉢	73土坑埋没土 胴部破片					細砂、繊維/ふつう	LR、RL縄文を羽状施文する。	黒浜・有尾式
第26図 PL.９	32	縄文土器 深鉢	73土坑埋没土 胴部破片					粗砂、繊維/ふつう	斜行する連続爪形文を複数条施す。	有尾式

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm、g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第26図 PL.9	33	縄文土器 深鉢	73土坑埋没土 ２面 口縁部破片					細砂/良好	連続爪形文による木葉文を施し、間隙に円形竹管刺突を施す。木葉文内のRL縄文は磨り消し。	諸磯ａ式
第26図 PL.9	34	縄文土器 深鉢	73土坑埋没土 口縁部破片					粗砂/良好	横位集合沈線をめぐらして幅狭な口縁部文様帯を区画、縦位、Ｖ字状の平行沈線を施し、端部に刺突を伴うボタン状貼付文を付す。	諸磯ｃ式
第26図 PL.9	35	縄文土器 深鉢	73土坑埋没土 口縁部破片					粗砂/良好	RL縄文を横位施文し、口縁下に棒状貼付文を２条縦位に付す。	諸磯ｃ式
第26図 PL.9	36	縄文土器 深鉢	73土坑埋没土 胴部破片					粗砂、細礫、輝石/良好	集合沈線により縦位区画し、斜位沈線を充填施文する。	諸磯ｃ式
第26図 PL.9	37	縄文土器 深鉢	73土坑埋没土 ３面 口縁部破片					粗砂/良好	小突起を付す波状口縁で、頸部が緩く外反する。波状素浮線、刺突を伴うボタン状貼付文を付す。	大木５式
第26図 PL.9	38	縄文土器 深鉢	73土坑埋没土 胴部破片					粗砂/良好	横位集合沈線をめぐらして区画、以下、集合沈線を垂下させる。	五領ヶ台式
第26図 PL.10	39	縄文土器 深鉢	73土坑埋没土 口縁部破片					粗砂/良好	横位沈線、交互刺突を施す。	五領ヶ台式
第26図 PL.10	40	縄文土器 深鉢	73土坑埋没土 口縁部破片					粗砂、輝石/良好	口縁下に円形竹管刺突文帯をめぐらし、以下、縦位条線、蛇行懸垂文を施す。	加曽利Ｅ２式
第26図 PL.10	41	縄文土器 深鉢	73土坑上層 包含層 口縁部破片					粗砂/良好	隆帯による口縁部区画、楕円状文、ワラビ手文を施し、矢羽根状短沈線を充填施文。胴部は地文にRL縄文を縦位施文し、頸部に３条沈線をめぐらして頸部無文帯を区画、以下、沈線によるクランク状の懸垂文を施す。交点に一部ワラビ手文を配す。	加曽利Ｅ２式
第26図 PL.10	42	縄文土器 深鉢	73土坑上層 口縁部破片						41と同一個体。	加曽利Ｅ２式
第26図 PL.10	43	縄文土器 深鉢	73土坑上層 胴部破片					粗砂/良好	RL縄文を縦位施文し、３条沈線による懸垂文を施す。	加曽利Ｅ２式
第26図 PL.10	44	縄文土器 深鉢	73土坑埋没土 ３面 口縁部破片	口	(18.0)			粗砂、輝石/良好	隆帯による口縁部楕円状区画を施し、矢羽根状短沈線を充填施文する。楕円を区画する隆帯は縦位と左下がりを交互に施すようだ。頸部は無文帯。	加曽利Ｅ２式
第26図 PL.10	45	縄文土器 深鉢	81土坑底面 胴部破片					粗砂、輝石/良好	地文に撚糸文Ｌを縦位施文し、縦位、弧状の沈線を施す。	加曽利Ｅ２式
第26図 PL.10	46	縄文土器 深鉢	82土坑埋没土 胴部破片					粗砂、輝石/ふつう	RL縄文を地文とし、沈線による懸垂文、渦巻文を施す。	加曽利Ｅ２式
第26図 PL.10	47	縄文土器 深鉢	82土坑埋没土 口縁部破片					細砂/良好	波頂部の環状突起。縁に沿って沈線を施す。	加曽利Ｅ２式
第26図 PL.10	48	縄文土器 深鉢	１区包含層 胴部破片					粗砂、赤色粒、チャート/ふつう	横位、斜行する連続爪形文を施す。	諸磯ｂ式
第26図 PL.10	49	縄文土器 深鉢	１区包含層 口縁部破片					粗砂、輝石、石英/良好	隆帯による口縁部区画、ワラビ手状文を施し、縦位沈線を充填施文する。	加曽利Ｅ２式
第26図 PL.10	50	縄文土器 深鉢	１区包含層 口縁部破片					細砂、輝石/良好	隆帯による口縁部区画を施す。地文にRL縄文を施文。	加曽利Ｅ２式
第26図 PL.10	51	縄文土器 深鉢	１区包含層 胴部破片					粗砂、輝石/良好	地文にRL縄文を縦位施文し、沈線による蛇行懸垂文を施す。	加曽利Ｅ２式
第26図 PL.10	52	縄文土器 深鉢	１区包含層 胴部破片					粗砂、輝石/良好	地文にRL縄文を縦位施文し、３条沈線による頸部区画、懸垂文を施す。	加曽利Ｅ２式
第26図 PL.10	53	縄文土器 深鉢	１区包含層 胴部破片					粗砂、輝石/良好	地文に撚糸文Ｌを縦位施文し、４条の沈線をめぐらす。	加曽利Ｅ２式
第26図 PL.10	54	縄文土器 深鉢	１区包含層 胴部破片					粗砂、輝石/良好	地文にRL縄文を縦位施文し、隆帯による懸垂文を施す。	加曽利Ｅ２式
第27図 PL.10	55	縄文土器 深鉢	１区包含層 胴中位～底部1/2	底	7.2			粗砂、細礫/良好	２条隆帯、３条沈線を２単位ずつ垂下させて縦に４分割し、区画内に横位３条沈線を間隔を空けて複数段施す。区画文の２条隆帯は間が広めになっているため、片方は区画内と同様に横位３条沈線を、片方は単沈線による蛇行懸垂文を施す。地文にRL縄文を施文。	加曽利Ｅ２式
第27図 PL.10	56	縄文土器 深鉢	１区包含層 口縁部破片					粗砂、輝石/良好	口縁下に連弧状の隆帯、頸部に横位沈線をめぐらす。地文に条線を施文。	加曽利Ｅ２式
第27図 PL.10	57	縄文土器 深鉢	１区包含層 口縁部破片					細砂、白色粒、輝石/良好	隆帯による口縁部区画内に沈線を伴う連弧状隆帯をめぐらす。	加曽利Ｅ２式
第27図 PL.10	58	縄文土器 深鉢	１区包含層 口縁部破片					粗砂、輝石/良好	隆帯による口縁部楕円状区画を施し、縦位短沈線を充填施文する。	加曽利Ｅ２式
第27図 PL.10	59	縄文土器 深鉢	１区包含層 胴部破片					粗砂、輝石/良好	地文にRL縄文を縦位施文し、３条沈線による懸垂文を施す。	加曽利Ｅ２式
第27図 PL.10	60	縄文土器 深鉢	１区包含層 胴部破片					粗砂、輝石/良好	地文にRL縄文を縦位施文し、３条沈線による懸垂文を施す。	加曽利Ｅ２式
第27図 PL.10	61	縄文土器 深鉢	１区包含層 口縁部破片					粗砂/良好	横位隆帯をめぐらして口縁部文様帯を区画、沈線を伴う隆帯によるワラビ手文、単隆帯による渦巻文を配し、縦位弧状の短沈線を充填施文する。文様帯下はRL縄文を施文。	加曽利Ｅ２式
第27図 PL.10	62	縄文土器 深鉢	１区包含層 埋没土 口縁部破片					粗砂/良好	隆帯による口縁部区画、弧状モチーフ、RL縄文を施す。文様帯下はRL縄文を縦位施文。	加曽利Ｅ２式
第27図 PL.10	63	縄文土器 深鉢	１区包含層 胴部破片					粗砂、チャート細礫、輝石/ふつう	沈線による胴部懸垂文を施し、RL縄文を縦位充填施文する。	加曽利Ｅ３式かＥ４式

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm、g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第27図 PL.10	64	剥片石器 スクレイパー	1区北2面 包含層 完形	長	8.5	厚	3.5	黒色頁岩	横長剥片を素材、表面下端部と裏面上端部に粗い刃部を作出している。	
				幅	6.9	重	220.7			
第27図 PL.10	65	剥片石器 打製石斧	1区包含層+2cm 欠損	長	9.3	厚	1.9	黒色頁岩	短冊形、上半部欠損、表裏両面に磨耗痕が認められる。	
				幅	5.2	重	126.2			
第27図 PL.10	66	剥片石器 打製石斧	1区包含層+6cm 完形	長	12.3	厚	2.1	黒色頁岩	短冊形、自然面付横長剥片を素材、表裏両面に左右両側縁からの調整加工が施される。	
				幅	4.8	重	116.0			
第27図 PL.10	67	剥片石器 打製石斧	1区包含層+8cm 完形	長	12.2	厚	2.3	黒色頁岩	短冊形、横長剥片を素材、表裏両面に左右両側縁からの調整加工、先端刃部に摩耗痕が認められる。	
				幅	5.8	重	158.4			
第27図 PL.10	68	剥片石器 打製石斧	1区包含層+3cm 完形	長	14.6	厚	2.1	珪質頁岩	自然面付きの横長剥片を素材、表裏両面で左右両側縁からの調整加工が施される。刃部に摩耗痕が認められる。	
				幅	5.8	重	184.9			
第28図 PL.10	69	剥片石器 石核	1区包含層+3cm 完形	長	6.9	厚	5.0	黒色頁岩	自然面付きの分厚い剥片を素材、表裏両面と右側面で剥片剥離している。	
				幅	8.5	重	286.7			
第28図 PL.10	70	剥片石器 石核	1区包含層+19cm 完形	長	8.9	厚	3.5	黒色頁岩	板状石核で表裏両面で求心状剥離が行われている。	
				幅	8.0	重	219.8			
第28図 PL.11	71	剥片石器 石核	1区包含層-3cm 完形	長	11.4	厚	6.2	黒色頁岩	自然面付きの石核で打面転移しながら剥片剥離している。	
				幅	8.1	重	396.9			
第28図 PL.11	72	礫石器 凹石	1区包含層+13cm 完形	長	11.6	厚	5.2	粗粒輝石安山岩	やや厚みのある偏平な楕円礫を素材、表裏両面に摩耗痕と凹み、上下両端部の広範囲に敲打痕、左右両側面に面取りされた顕著な摩耗痕が認められる。	
				幅	7.9	重	673.5			
第28図 PL.11	73	礫石器 敲石	1区包含層埋没土 完形	長	10.1	厚	3.5	粗粒輝石安山岩	偏平な長楕円礫を素材、上下両端部に敲打痕、表面上端部に摩耗痕が認められる。	
				幅	5.9	重	319.5			
第28図 PL.11	74	縄文土器 深鉢	1区撹乱 口縁部破片					粗砂、繊維/ふつう	LR、RL縄文を羽状施文する。	黒浜・有尾式
第28図 PL.11	75	縄文土器 深鉢	1区撹乱 胴部破片					細砂、輝石、繊維/ふつう	LR縄文を横位施文する。	黒浜・有尾式
第28図 PL.11	76	縄文土器 深鉢	1区北2面 胴部破片					細砂、輝石、繊維/ふつう	無節Lr、Rl縄文を羽状施文する。	黒浜・有尾式
第28図 PL.11	77	縄文土器 深鉢	1区北2面 胴部破片					粗砂、繊維/ふつう	LR縄文を横位施文する。	黒浜・有尾式
第28図 PL.11	78	縄文土器 深鉢	1区北2面 口縁部破片					細砂、赤色粒、繊維/ふつう	波状口縁。口縁に沿って櫛歯状刺突をめぐらして口縁部文様帯を区画、縦位の櫛歯状刺突を充填施文する。以下、斜行する櫛歯状刺突を複数条施す。	有尾式
第28図 PL.11	79	縄文土器 深鉢	1区北2面 口縁部破片						78と同一個体。	有尾式
第28図 PL.11	80	縄文土器 深鉢	1区北2面 口辺部破片						78と同一個体。複数条の櫛歯状刺突により菱形状モチーフを施す。	有尾式
第28図 PL.11	81	縄文土器 深鉢	1区北2面 口縁部破片					細砂、輝石、繊維/ふつう	口縁下に斜位沈線を施し、複数条の連続爪形文をめぐらす。	有尾式
第28図 PL.11	82	縄文土器 深鉢	1区北2面 胴部破片					細砂、チャート細礫、輝石、繊維/ふつう	横位、斜行する連続爪形文を施す。	有尾式
第28図 PL.11	83	縄文土器 深鉢	1区北2面 口縁部破片					粗砂、輝石/良好	波状口縁。口縁に沿って2条の連続爪形文をめぐらし、文様帯内は円形竹管刺突列を垂下させ、連続爪形文、平行沈線による米字文状のモチーフを施す。	諸磯a式
第28図 PL.11	84	縄文土器 浅鉢か	1区北2面 胴部破片					細砂/良好	連続爪形文による弧状モチーフを施す。内部のRL縄文は磨り消し。	諸磯a式
第28図 PL.11	85	縄文土器 深鉢	1区北2面 口縁部破片	口	(25.0)			粗砂、輝石/良好	口縁部に3条の連続爪形文をめぐらす。以下、RL縄文を横位施文する。	諸磯a式
第28図 PL.11	86	縄文土器 深鉢	1区北2面 胴部破片					粗砂、輝石/良好	横位条線をめぐらして口縁部文様帯を区画、波状の条線をめぐらす。文様帯下はRL縄文を横位施文する。	諸磯a式
第28図 PL.11	87	縄文土器 深鉢	1区北2面 胴部破片					粗砂/良好	地文にRL縄文を横位施文し、条線による波状文をめぐらす。	諸磯a式
第28図 PL.11	88	縄文土器 深鉢	1区北2面 胴部破片					細砂/良好	連続爪形文によるモチーフを施す。内部のRL縄文は磨り消し。	諸磯a式
第29図 PL.11	89	縄文土器 深鉢	1区北2面 胴部破片					細砂、輝石/良	RL縄文を横位施文する。	諸磯a式
第29図 PL.11	90	縄文土器 深鉢	1区北2面 胴部破片					細砂、チャート/良好	円形竹管刺突列を垂下させ、米字文状に斜行する集合沈線を施す。	諸磯a式
第29図 PL.11	91	縄文土器 深鉢	1区北2面 胴部破片					細砂、輝石/良好	横位連続爪形文をめぐらして口縁部文様帯を区画、連続爪形文による木葉文状モチーフを施す。間隙に円形竹管刺突を施文。文様帯下はRL縄文を横位施文する。	諸磯a式
第29図 PL.11	92	縄文土器 深鉢	1区北2面 底部破片					細砂、チャート/良好	RL縄文を横位施文する。底面に木葉痕。	諸磯a式
第29図 PL.11	93	縄文土器 深鉢	1区北3面 胴部破片					細砂、チャート/良好	円形竹管刺突列を垂下させ、米字文状に斜行する集合沈線を施す。	諸磯a式
第29図 PL.11	94	縄文土器 深鉢	1区北撹乱 胴部破片					細砂/良好	横位連続爪形文をめぐらして口縁部文様帯を区画、連続爪形文による木葉文状モチーフを施す。間隙に円形竹管刺突を施文。文様帯下はRL縄文を横位施文する。	諸磯a式
第29図 PL.11	95	縄文土器 深鉢	1区北遺構外 胴部破片					粗砂、チャート、輝石/良好	連続爪形文による木葉文状のモチーフを施す。内部のRL縄文は磨り消し。	諸磯a式
第29図 PL.11	96	縄文土器 深鉢	1区中2面 口縁部破片					粗砂、輝石/良好	横位条線を複数段めぐらし、円形竹管刺突列を垂下させる。	諸磯a式

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm、g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第29図 PL.11	97	縄文土器 深鉢	1区中2面 口縁部破片					粗砂/良好	口縁が緩く外反する。RL縄文を横位施文する。	諸磯a式
第29図 PL.11	98	縄文土器 深鉢	1区中2面 口縁部破片					粗砂、輝石、片岩/ふつう	横位、波状の条線を複数段めぐらす。	諸磯a式
第29図 PL.11	99	縄文土器 深鉢	1区中2面 口縁部破片					細砂/良好	緩やかな波状口縁。RL縄文を横位施文する。	諸磯a式
第29図 PL.11	100	縄文土器 深鉢	1区中2面 胴部破片					細砂/良好	連続爪形文による木葉文を施し、間隙に円形竹管刺突を施す。木葉文内のRL縄文は磨り消し。	諸磯a式
第29図 PL.11	101	縄文土器 浅鉢か	1区中2面 口縁部破片					粗砂、片岩/良好	地文にRL縄文を横位施文し、口縁部に3条の連続爪形文をめぐらす。	諸磯a式
第29図 PL.11	102	縄文土器 深鉢	1区北2面 胴部破片					細砂、輝石/良好	連続爪形文による弧状モチーフを施し、爪形文間に竹管外皮による刺突を付す。	諸磯b式
第29図 PL.11	103	縄文土器 深鉢	1区中2面 口縁部破片					粗砂、輝石、石英/良好	波状口縁。口縁に沿って5条の連続爪形文を施し、下位区画に鋸歯状文、円形竹管刺突を施す。せり上がった爪形文間に斜位刻みを付す。	諸磯b式
第29図 PL.11	104	縄文土器 深鉢	1区中2面 胴部破片					粗砂、輝石/良好	弧状の連続爪形文を複数段施す。爪形文間に斜位刻みを付す。	諸磯b式
第29図 PL.11	105	縄文土器 浅鉢	1区中2面 口縁部破片					粗砂/良好	口縁部に3条の連続爪形文をめぐらし、爪形文間に斜位刻みを付す。口縁下に円孔を穿つ。	諸磯b式
第29図 PL.11	106	縄文土器 深鉢	1区中2面 胴部破片					粗砂、チャート、輝石/良好	横位の連続爪形文を多段にめぐらす。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯b式
第29図 PL.11	107	縄文土器 深鉢	1区中2面 口縁部破片					粗砂、輝石/良好	波状口縁で口縁が強く内屈する。平行沈線を多段にめぐらす。	諸磯b式
第29図 PL.11	108	縄文土器 深鉢	1区中2面 口縁部破片					細砂、輝石/良好	口縁部に集合沈線をめぐらす。地文にRL縄文を横位施文。口唇部に浮線を付す。	諸磯b式
第29図 PL.11	109	縄文土器 深鉢	1区北2面 口縁部破片					粗砂、赤色粒、輝石/良好	口縁が緩く外反する。平行沈線による木葉文状のモチーフを施し、間隙に円形竹管刺突を施す。	諸磯b式
第29図 PL.11	110	縄文土器 深鉢	1区北2面 胴部破片						109と同一個体。横位集合沈線をめぐらして口縁部文様帯を区画し、以下、RL縄文を横位施文する。	諸磯b式
第29図 PL.11	111	縄文土器 深鉢	1区北2面 口縁部破片						103と同一個体。	諸磯b式
第29図 PL.11	112	縄文土器 深鉢	1区北2面 口縁部破片						103と同一個体。	諸磯b式
第29図 PL.11	113	縄文土器 深鉢	1区北2面 胴部破片					粗砂、輝石/良好	連続爪形文による弧状モチーフを施す。	諸磯b式
第29図 PL.11	114	縄文土器 深鉢	1区北2面 胴部破片					粗砂、チャート細礫/ふつう	横位浮線をめぐらすが、浮線は一部素浮線になる。浮線間に斜位刻みを付す。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯b式
第29図 PL.11	115	縄文土器 深鉢	1区北2面 胴部破片					粗砂、白色粒、輝石/良好	横位、斜位、弧状の平行沈線を施す。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯b式
第29図 PL.11	116	縄文土器 深鉢	1区北2面 胴部破片					粗砂、白色粒、輝石/良好	平行沈線による弧状、菱形状モチーフを施す。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯b式
第29図 PL.11	117	縄文土器 深鉢	1区南2面 口縁部破片					粗砂/良好	波状口縁。口縁に沿って2帯の集合沈線を施し、さらに横位集合沈線を施す。波頂部下に瘤状の貼付文を付す。地文にLR縄文を施文。	諸磯b式
第29図 PL.11	118	縄文土器 深鉢	1区北2面 口縁部破片					粗砂、輝石/良好	口縁が緩く内湾。横位集合沈線を施し、耳状、ボタン状貼付文を付す。	諸磯c式
第29図 PL.11	119	縄文土器 深鉢	1区北2面 胴部破片					粗砂、輝石/良好	LR、RL縄文を羽状施文し、棒状の貼付文を付す。	諸磯c式
第29図 PL.11	120	縄文土器 深鉢	1区北2面 口辺部破片					粗砂、輝石/良好	頸部に横位集合沈線をめぐらして口縁部文様帯を区画、羽状の集合沈線を施し、耳状、刺突を伴うボタン状貼付文を付す。	諸磯c式
第29図 PL.11	121	縄文土器 深鉢	1区北2面 胴部破片					粗砂/良好	LR、RL縄文を羽状施文し、2個1組の棒状貼付文、ボタン状貼付文を付す。	諸磯c式
第29図 PL.11	122	縄文土器 深鉢	1区北2面 口縁部破片					細砂、輝石/良好	LR、RL縄文を羽状施文し、ボタン状貼付文を付す。	諸磯c式
第29図 PL.11	123	縄文土器 深鉢	1区北2面 胴部破片					粗砂、白色粒、輝石/良好	集合沈線によるレンズ状文内に鋸歯状の平行沈線を施す。	諸磯c式
第29図 PL.11	124	縄文土器 深鉢	1区北2面 胴部破片					粗砂/良好	RL縄文を横位施文し、ボタン状貼付文を付す。	諸磯c式
第29図 PL.11	125	縄文土器 深鉢	1区北2面 胴部破片					粗砂、白色粒、輝石/良好	縦位、羽状の集合沈線を施し、棒状貼付文を縦横に付す。横位貼付文上には沈線を施文。	諸磯c式
第29図 PL.11	126	縄文土器 深鉢	1区北2面 胴部破片					粗砂、白色粒、輝石/良好	縦位、斜位の集合沈線を施し、刺突を伴うボタン状貼付文を付す。	諸磯c式
第29図 PL.11	127	縄文土器 深鉢	1区北2面 口縁部破片					細砂/良好	口縁が緩く内湾。口端部に粘土がめくれ上がる刻みを付す。縦位鋸歯状に集合沈線を施し、耳状貼付文、刺突を伴うボタン状貼付文を交互に狭い間隔で付す。	諸磯c式
第29図 PL.11	128	縄文土器 深鉢	1区北2面 口縁部破片					粗砂/良好	頸部で外反する。波状素浮線、刺突を伴うボタン状貼付文を付す。	大木5式
第29図 PL.12	129	縄文土器 深鉢	1区北2面 胴部破片						128と同一個体。	大木5式
第29図 PL.12	130	縄文土器 浅鉢	1区北2面 口縁部破片					細砂、輝石/良好	口縁部に幅広の凹線をめぐらし、円孔を穿つ。	前期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm、g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第29図 PL.12	131	縄文土器 深鉢	１区北２面 胴部破片					粗砂/良好	結節沈線によるモチーフ、印刻を施す。	前期末葉～中期初頭
第29図 PL.12	132	縄文土器 深鉢	１区北２面 口縁部破片					粗砂、チャート、輝石/良好	キャリパー状器形の口縁部。口縁下に２条の三角押文、頸部に隆線をめぐらして口縁部文様帯を区画、２条の三角押文による連弧状文を施す。地文にRL縄文を施文。口縁内面肥厚。	五領ヶ台式
第30図 PL.12	133	縄文土器 深鉢	１区北２面 口縁部破片					粗砂/良好	３尖突起をもつ波状口縁。口縁に沿って２条の角押文をめぐらす。波頂部から左側の口唇部のみ刻みを付す。	五領ヶ台式
第30図 PL.12	134	縄文土器 深鉢	１区北２面 口縁部破片					粗砂、チャート/良好	凹線をめぐらして幅狭な口縁部文様帯を区画、三角押文による縦位、三角形状モチーフを施し、三角印刻を施す。口縁内面に１条の沈線をめぐらす。	五領ヶ台式
第30図 PL.12	135	縄文土器 深鉢	１区北２面 胴部破片					粗砂、チャート/良好	隆帯によるモチーフを施し、角押文を沿わせる。	五領ヶ台式
第30図 PL.12	136	縄文土器 深鉢	１区北２面 胴部破片					粗砂、チャート/良好	横位角押文を多段にめぐらし、隆帯による蛇行懸垂文を施す。	五領ヶ台式
第30図 PL.12	137	縄文土器 深鉢	１区北２面 胴部破片					粗砂、輝石/良好	横位、縦位の隆帯を施して角押文を沿わせ、区画内に角押文による逆U字状モチーフを施す。地文にLR縄文を施文。	五領ヶ台式
第30図 PL.12	138	縄文土器 深鉢	１区北２面 口縁部破片					粗砂、チャート、雲母/良好	縦位隆帯を付し、三角押文による口縁部枠状文を施す。	阿玉台式
第30図 PL.12	139	縄文土器 深鉢	１区北２面 口縁部破片					粗砂、チャート、雲母/良好	口縁部に横位、連弧状の角押文をめぐらす。	阿玉台式
第30図 PL.12	140	縄文土器 深鉢	１区北２面 胴部破片						142と同一個体。	加曽利E１式
第30図 PL.12	141	縄文土器 深鉢	１区北２面 胴部破片						142と同一個体。	加曽利E１式
第30図 PL.12	142	縄文土器 深鉢	１区北２面 胴部破片					粗砂、チャート、輝石/良好/	半隆起状の集合沈線によるクランク状の懸垂文を施す。地文にRL縄文を施文。	加曽利E１式
第30図 PL.12	143	縄文土器 深鉢	１区北端２面 口縁部破片					粗砂、輝石/良好	隆帯による口縁部区画内に連弧状、ワラビ手状隆帯を施す。地文にRL縄文を横位施文。	加曽利E２式
第30図 PL.12	144	縄文土器 深鉢	１区北端２面 口辺部破片					粗砂、輝石/良好	隆帯による口縁部区画、ワラビ手文、RL縄文を施す。区画隆帯上にワラビ手状沈線をめぐらす。	加曽利E２式
第30図 PL.12	145	縄文土器 深鉢	１区北端２面 胴部破片					粗砂、輝石/良好	地文にRL縄文を縦位施文し、沈線による懸垂文、弧状モチーフを施す。	加曽利E２式
第30図 PL.12	146	縄文土器 深鉢	１区北端２面 口縁部破片					細砂、輝石/良好	縦位２条の隆帯を付す。	加曽利E２式
第30図 PL.12	147	縄文土器 深鉢	１区北端２面 胴部破片					粗砂、輝石/良好	地文にRL縄文を縦位施文し、沈線による懸垂文、蛇行懸垂文を施す。	加曽利E２式
第30図 PL.12	148	縄文土器 深鉢	１区北２面 胴部破片					粗砂、輝石/良好	横位沈線をめぐらして区画、以下、クランク状の懸垂文を施す。交点に一部ワラビ手文を配す。地文に撚糸文Ｌを縦位施文。	加曽利E２式
第30図 PL.12	149	縄文土器 深鉢	１区北２面 口縁部破片					粗砂、輝石/良好	横位隆帯をめぐらして口縁部文様帯を区画、沈線を伴う隆帯によるワラビ手文を配し、横位隆帯で連結、間隙に縦位短沈線を充填施文する。頸部は無文帯。	加曽利E２式
第30図 PL.12	150	縄文土器 深鉢	１区北２面 口縁部破片					粗砂、チャート/良好	隆帯による口縁部区画、ワラビ手文を施し、刺突、斜位の短沈線を充填施文する。	加曽利E２式
第30図 PL.12	151	縄文土器 深鉢	１区北２面 口縁部破片					粗砂/良好	波頂部の突起。波頂部を凹まし、弧状隆帯を付す。口縁に沿って２条沈線を２段施す。	加曽利E２式
第30図 PL.12	152	縄文土器 深鉢	１区北２面 口縁部破片					粗砂、輝石/良好	横位隆帯をめぐらして口縁部文様帯を区画、ワラビ手状沈線を伴う隆帯を斜位に配し、縦位弧状の短沈線を充填施文する。	加曽利E２式
第30図 PL.12	153	縄文土器 深鉢	１区北２面 口縁部破片					粗砂、輝石/良好	隆帯による口縁部区画、縦位、ワラビ手状の沈線を施す。口唇部にも沈線を施文。	加曽利E２式
第30図 PL.12	154	縄文土器 深鉢	１区北２面 口縁部破片					粗砂、輝石/良好	横位隆帯をめぐらして口縁部文様帯を区画、さらにU字状隆帯を貼付して横長楕円状に区画する。地文にRL縄文を施文。	加曽利E２式
第30図 PL.12	155	縄文土器 深鉢	１区北２面 胴部破片					粗砂、輝石/良好	横位隆帯をめぐらして頸部無文帯を区画、以下、RL縄文を縦位施文し、３条沈線による懸垂文、単沈線による蛇行懸垂文を施す。	加曽利E２式
第30図 PL.12	156	縄文土器 深鉢	１区北２面 口辺部破片					粗砂、輝石/良好	隆帯による口縁部区画、ワラビ手文を施し、矢羽根状短沈線を充填施文、以下、RL縄文を地文とし、沈線による蛇行懸垂文を施す。	加曽利E２式
第30図 PL.12	157	縄文土器 深鉢	１区北２面 胴部破片					細砂、輝石、石英/良好	地文にRL縄文を縦位施文し、ワラビ手文を伴う帯状沈線を弧状に施す。	加曽利E２式
第30図 PL.12	158	縄文土器 深鉢	１区北２面 胴部破片					粗砂、輝石/良好	地文に撚糸文Ｌを縦位施文し、横位３条沈線による頸部区画、単沈線による蛇行懸垂文を施す。	加曽利E２式
第30図 PL.12	159	縄文土器 深鉢	１区北２面 口縁部破片					粗砂、輝石/良好	沈線を伴うワラビ手状隆帯を施す。	加曽利E２式
第30図 PL.12	160	縄文土器 深鉢	１区南２面 口縁部破片					粗砂、輝石/良好	隆帯による口縁部区画、楕円状文を施す。地文に撚糸文Ｌを斜位施文。	加曽利E２式
第31図 PL.12	161	縄文土器 深鉢	２区３層 胴部破片					粗砂、輝石/良好	隆帯によるワラビ手文を施す。地文、隆帯上にLR縄文を施文。	加曽利E２式
第31図 PL.12	162	縄文土器 深鉢	１区北２面 胴部破片					粗砂、赤色粒/良好	沈線による胴部懸垂文を施し、RL縄文を縦位充填施文する。	加曽利E３式

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm、g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第31図 PL.12	163	縄文土器 深鉢	1区北2面 胴部破片					粗砂、赤色粒/良好	沈線による胴部懸垂文を施し、LR縄文を縦位充填施文する。	加曽利E3式
第31図 PL.12	164	縄文土器 深鉢	1区北2面 胴部破片					粗砂、チャート細礫、輝石/良好	沈線による胴部懸垂文を施し、RL縄文を縦位充填施文する。	加曽利E3式
第31図 PL.12	165	縄文土器 浅鉢	1区北2面 口縁部破片					粗砂、輝石/ふつう	口縁部肥厚。胴部が膨らみ、口縁部がくの字状に短く外屈する。	中期後葉
第31図 PL.12	166	縄文土器 浅鉢	1区北2面 口縁部破片					粗砂、チャート/良好	口縁部肥厚。胴部が膨らみ、口縁部がくの字状に短く外屈する。	中期後葉
第31図 PL.12	167	縄文土器 浅鉢	1区北2面 口縁部破片					粗砂、赤色粒、チャート細礫/良好	口縁部肥厚。胴部が膨らみ、口縁部がくの字状に短く外屈する。	中期後葉
第31図 PL.12	168	縄文土器 深鉢	1区北端2面 胴部破片					細砂/ふつう	斜位、弧状の集合沈線を施す。地文にRL縄文を施文。	堀之内1式
第31図 PL.12	169	剥片石器 石刃	1区中2面 完形	長 幅	4.3 2.2	厚 重	5.0 5.4	黒色頁岩	背面は中央稜線を持つ同一加撃方向の石刃の剥離面で構成される。旧石器時代の石刃の可能性がある。	旧石器
第31図 PL.12	170	剥片石器 尖頭器	1区北3面 包含層下 完形	長 幅	3.8 1.9	厚 重	4.0 3.6	黒曜石	半両面調整尖頭器、縦長剥片を素材、背面全体と裏面縁辺部に丁寧な平坦調整加工が施される。背面右側縁はやや急斜度の調整加工。旧石器の可能性が高い。	分析試料1・西餅屋、旧石器
第31図 PL.12	171	剥片石器 石鏃	1区北2面 完形	長 幅	1.7 1.7	厚 重	2.0 0.4	黒曜石	凹基無茎鏃、平面形状は長幅比1：1の正三角形状で、脚部が幅広の鍬形鏃を呈する。	分析試料5・鷹山or小深沢
第31図 PL.12	172	剥片石器 石鏃	1区遺構外 完形	長 幅	1.8 1.4	厚 重	4.0 0.6	黒曜石	凹基無茎鏃、表裏両面とも丁寧な調整加工により整形されている。	分析試料10・小深沢
第31図 PL.12	173	剥片石器 石槍	1区北2面 欠損	長 幅	5.8 2.1	厚 重	9.0 11.9	珪質頁岩	細身柳葉形尖頭器の下半部で下端部を一部欠損。表裏両面を丁寧に調整加工、完形の長さは100mm超と推定。縄文草創期の可能性あり。	
第31図 PL.13	174	剥片石器 楔形石器	1区北2面 完形	長 幅	7.0 4.5	厚 重	1.7 79.3	黒色頁岩	隅丸長方形の薄手の礫を素材とし、上下と左右の端部に両極剥離痕を持つ。	
第31図 PL.13	175	剥片石器 へら状石器	1区北2面 完形	長 幅	5.3 2.2	厚 重	6.0 8.1	黒色頁岩	表裏両面に左右両側縁からの平坦な調整加工、裏面に一部摩耗痕。短冊形の打製石斧と同一形態であるが、小型のためへら状石器とした。	
第32図 PL.13	176	剥片石器 スクレイパー	1区北2面 完形	長 幅	5.9 5.5	厚 重	1.9 54.6	黒色安山岩	求心状剥離痕を持つ板状石核を転用、縁辺部に平坦な刃部が作出される。	
第32図 PL.13	177	剥片石器 スクレイパー	1区北2面 完形	長 幅	7.6 4.5	厚 重	1.7 45.1	赤碧玉	幅広縦長剥片を素材、表面右側縁に微細な調整加工により刃部を作出している。	
第32図 PL.13	178	剥片石器 スクレイパー	1区北3面 完形	長 幅	6.9 4.0	厚 重	1.4 45.0	黒色安山岩	表面右側縁とその裏面に平坦な調整により緩やかな抉入状の刃部が作出される。	
第32図 PL.13	179	剥片石器 スクレイパー	1区北3面 完形	長 幅	7.0 4.6	厚 重	1.5 40.1	珪質頁岩	横長剥片を素材、表面右側縁と裏面左側縁に刃部が作出される。裏面は粗い加工である。	
第32図 PL.13	180	剥片石器 スクレイパー	1区2面 完形	長 幅	7.3 5.0	厚 重	2.7 98.5	ホルンフェルス	裏面に求心状剥離痕を持つ石核を転用、表面左側縁とその裏側側縁に刃部を作出している。	
第32図 PL.13	181	剥片石器 スクレイパー	1区北3面 完形	長 幅	6.0 6.5	厚 重	1.6 67.9	黒色安山岩	上半部欠損、表裏両面の縁辺部に平坦な調整加工により刃部が作出される。	
第32図 PL.13	182	剥片石器 スクレイパー	1区北2面 完形	長 幅	8.6 4.3	厚 重	1.6 55.0	黒色頁岩	幅広縦長剥片を素材、表面左右両側縁と裏面右側縁に平坦な刃部が作出される。	
第32図 PL.13	183	剥片石器 スクレイパー	1区北3面 完形	長 幅	8.9 6.0	厚 重	2.0 107.1	黒色安山岩	幅広縦長剥片を素材、表面右側縁を裏面右側縁に刃部が作出される。	
第32図 PL.13	184	剥片石器 スクレイパー	1区北2面 完形	長 幅	7.3 9.9	厚 重	2.0 123.6	黒色頁岩	横長剥片を素材、左側縁にやや粗い刃部を作出する。	
第32図 PL.13	185	剥片石器 スクレイパー	1区北2面 完形	長 幅	8.2 7.7	厚 重	2.7 193.6	黒色頁岩	自然面付きの大型幅広縦長剥片を素材、裏面に刃部が作出される。	
第32図 PL.13	186	剥片石器 スクレイパー	1区北3面 完形	長 幅	10.4 6.5	厚 重	2.1 133.3	黒色安山岩	幅広縦長剥片を素材、裏面左側縁に刃部を作出、表面はポジ面。	
第32図 PL.13	187	剥片石器 スクレイパー	1区遺構外 完形	長 幅	10.0 10.1	厚 重	3.4 296.1	黒色頁岩	自然面付き大型剥片を素材、主要剥離面側は求心状剥離が覆う。左右両側縁に刃部が作出される。	
第32図 PL.13	188	剥片石器 スクレイパー	1区北2面 完形	長 幅	16.7 7.7	厚 重	2.5 265.2	黒色安山岩	大型の横長剥片を素材、右側縁に刃部を作出する。	
第33図 PL.13	189	剥片石器 打製石斧	1区北2面 欠損	長 幅	5.5 3.6	厚 重	1.5 38.2	黒色頁岩	短冊形、上半部欠損。	
第33図 PL.13	190	剥片石器 打製石斧	1区北端1面 完形	長 幅	7.3 4.3	厚 重	2.1 74.5	黒色頁岩	短冊形、刃部再生が進むため寸詰まりの形状を呈する。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm、g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第33図 PL.13	191	剥片石器 打製石斧	1区北3面 完形	長	9.4	厚	1.0	珪質頁岩	短冊形、自然面付き横長剥片を素材、表裏面に左右両側縁から調整加工を施している。	
				幅	4.0	重	34.9			
第33図 PL.13	192	剥片石器 打製石斧	1区遺構外 完形	長	9.1	厚	1.9	黒色頁岩	短冊形、自然面付きの横長剥片を素材、左右両側縁で平坦な調整加工が施される。	
				幅	5.2	重	101.1			
第33図 PL.13	193	剥片石器 打製石斧	1区2面 完形	長	9.4	厚	1.6	黒色頁岩	短冊形、表裏両面で左右両両側縁から調整加工が施される。刃部は破損が進み、裏面に摩耗痕が一部残る。	
				幅	3.8	重	67.9			
第33図 PL.14	194	剥片石器 打製石斧	1区北3面 完形	長	9.8	厚	1.9	黒色頁岩	短冊形、表裏両面に左右両側縁からの調整加工、再加工が進み小型化していると推定される。	
				幅	3.5	重	71.3			
第33図 PL.14	195	剥片石器 打製石斧	1区2面 完形	長	11.0	厚	1.6	珪質頁岩	短冊形、刃部と裏面右側縁に摩耗痕が認められる。	
				幅	4.4	重	78.0			
第33図 PL.14	196	剥片石器 打製石斧	1区北2面 完形	長	10.6	厚	2.5	黒色頁岩	短冊形、表裏両面に左右両側縁から調整加工を施して整形している。	
				幅	4.7	重	117.8			
第33図 PL.14	197	剥片石器 打製石斧	1区遺構外 完形	長	11.0	厚	1.8	黒色頁岩	短冊形、表裏両面に左右両側縁からの調整加工が施される。	
				幅	4.4	重	83.2			
第33図 PL.14	198	剥片石器 打製石斧	1区北2面 完形	長	11.2	厚	1.7	珪質頁岩	短冊形、表裏両面の左右両側縁で平坦な調整加工が施される。	
				幅	4.9	重	98.8			
第33図 PL.14	199	剥片石器 打製石斧	1区遺構外 完形	長	11.0	厚	1.9	黒色頁岩	短冊形、表裏両面に左右両側縁からの微細は調整加工、先端は刃部再生が進む。	
				幅	5.8	重	131.1			
第33図 PL.14	200	剥片石器 打製石斧	1区遺構外 完形	長	11.9	厚	1.7	黒色頁岩	短冊形、横長剥片を素材とし表裏両面の左右両側縁で調整加工が施される。先端刃部に部分的な摩耗痕。	
				幅	5.5	重	107.4			
第33図 PL.14	201	剥片石器 打製石斧	1区遺構外 完形	長	12.6	厚	2.2	ホルンフェルス	短冊形、自然面付きの剥片を素材、表裏面に左右両側縁からの調整加工が施される、表面刃部に摩耗痕、左右両側縁に着柄の摩耗痕が認められる。	
				幅	4.9	重	175.6			
第33図 PL.14	202	剥片石器 打製石斧	1区北2面 完形	長	13.0	厚	2.7	珪質頁岩	短冊形、表裏両面に左右両側縁からの調整加工が施される。	
				幅	4.9	重	150.8			
第33図 PL.14	203	剥片石器 打製石斧	1区北端2面 完形	長	12.8	厚	2.0	黒色頁岩	短冊形、表裏両面に平坦な調整加工、左右両側縁に微細な調整加工が施される。刃部は破損が進む。	
				幅	5.5	重	123.8			
第34図 PL.14	204	剥片石器 打製石斧	1区2面 完形	長	13.5	厚	1.4	ホルンフェルス	短冊形、横長剥片を素材、表裏面の左右両側縁で平坦な調整加工が施される。先端刃部に摩耗痕が部分的に認められる。	
				幅	5.6	重	118.8			
第34図 PL.14	205	剥片石器 打製石斧	1区北2面 完形	長	12.9	厚	2.9	黒色頁岩	短冊形、表裏両面に左右両側縁からの調整加工が施される。	
				幅	6.2	重	255.6			
第34図 PL.14	206	剥片石器 打製石斧	1区遺構外 完形	長	13.7	厚	2.5	黒色頁岩	短冊形、自然面付き横長剥片を素材、表裏両面で左右両側縁からの調整加工が施される。	
				幅	4.9	重	127.9			
第34図 PL.14	207	剥片石器 打製石斧	1区北端1面 完形	長	16.4	厚	2.2	黒色頁岩	短冊形、横長剥片を素材、表裏両面で左右両側縁からの調整加工が施される。長さ150mm超の大型品である。	
				幅	5.6	重	189.3			
第34図 PL.14	208	剥片石器 打製石斧	1区遺構外 完形	長	12.7	厚	2.2	黒色頁岩	横長剥片を素材、表裏両面で左右両側縁からの調整加工が施される。	
				幅	4.7	重	119.3			
第34図 PL.14	209	剥片石器 打製石斧	1区遺構外 完形	長	9.5	厚	2.5	黒色頁岩	分銅形、左右両側縁中央部に抉入状の調整加工、表面には広範囲の摩耗痕が認められる。	
				幅	5.2	重	128.0			
第34図 PL.14	210	剥片石器 打製石斧	1区遺構外 完形	長	8.8	厚	1.8	黒色頁岩	撥形、横長剥片を素材、表裏両面に部分的な摩耗痕が認められる。	
				幅	5.3	重	87.7			
第34図 PL.14	211	剥片石器 打製石斧	1区北3面 完形	長	9.9	厚	1.5	黒色頁岩	撥形、表裏両面で左右両側縁からの調整加工が施される。	
				幅	4.7	重	62.4			
第34図 PL.14	212	剥片石器 打製石斧	1区遺構外 完形	長	9.2	厚	1.5	黒色頁岩	撥形、自然面付き縦長剥片を素材、表裏両面の上半部に調整加工を施し、先端刃部は素材形状を保持する。	
				幅	5.9	重	83.7			
第34図 PL.14	213	剥片石器 打製石斧	1区北3面 完形	長	9.9	厚	1.9	黒色頁岩	刃部再生が進んだ撥形を呈する。自然面付きの横長剥片を素材、表面に摩耗痕が認められる。	
				幅	5.9	重	119.0			
第34図 PL.14	214	剥片石器 打製石斧	1区北2面 完形	長	11.0	厚	2.3	黒色頁岩	撥形、幅広で先端刃部は表面にやや急斜度の調整加工のため、へら状石器の可能性もある。	
				幅	7.7	重	186.8			
第35図 PL.15	215	剥片石器 打製石斧	1区遺構外 完形	長	17.4	厚	4.0	細粒輝石安山岩	撥形、自然面付きの大型縦長剥片を素材、撥形を呈する。刃部は円刃で摩耗痕が認められる。	
				幅	9.2	重	603.9			
第35図 PL.15	216	剥片石器 磨製石斧	1区遺構外 完形	長	8.3	厚	2.5	蛇紋岩	隅丸長方形を呈する定角式磨製石斧、全面をよく研磨している。	
				幅	4.8	重	162.0			
第35図 PL.15	217	剥片石器 磨製石斧	1区遺構外 欠損	長	9.9	厚	2.4	蛇紋岩	先端刃部に最大幅を持つ撥形の定角式磨製石斧、上半部を欠損。全面をよく研磨している。	
				幅	5.3	重	202.1			
第35図 PL.15	218	礫石器 礫器	1区遺構外 完形	長	14.4	厚	5.7	ホルンフェルス	偏平な隅丸長方形の礫を素材、右側縁でチョッピングツール状の剥離により粗い刃部を作出している。	
				幅	8.2	重	861.0			
第35図 PL.15	219	礫石器 礫器	1区遺構外 完形	長	14.2	厚	5.9	ホルンフェルス	偏平な大型礫を素材、表裏両面でチョッピングツール状の剥離によって粗い刃部を作出している。	
				幅	11.6	重	1002.5			
第35図 PL.15	220	剥片石器 石核	1区北2面 完形	長	2.1	厚	1.8	黒曜石	賽子状の小型原石を素材とし、打面転移しながら小型剥片を剥離している。	分析試料9・星ヶ台
				幅	2.6	重	8.1			
第35図 PL.15	221	剥片石器 石核	1区北2面 完形	長	2.0	厚	1.8	黒曜石	賽子状の小型原石を素材とし、打面転移しながら小型剥片を剥離している。	分析試料8・星ヶ台
				幅	2.8	重	13.6			
第35図 PL.15	222	剥片石器 石核	1区北端1面 完形	長	7.5	厚	3.6	黒色頁岩	厚手の剥片を素材、表面で剥片剥離している。	
				幅	4.5	重	138.2			
第36図 PL.15	223	剥片石器 石核	1区北2面 完形	長	3.2	厚	1.8	黒曜石	賽子状の小型原石を素材とし、一部分で小型剥片を剥離している。	分析試料6・星ヶ台
				幅	2.3	重	16.5			
第36図 PL.15	224	剥片石器 石核	1区北2面 完形	長	5.2	厚	5.5	黒色頁岩	自然面付きの石核、主に表面と上面で剥片剥離が行われる。被熱による火はねと赤化の痕跡が認められる。	
				幅	9.4	重	303.8			
第36図 PL.15	225	剥片石器 石核	1区北2面 完形	長	2.7	厚	1.3	黒曜石	厚手の横長剥片を素材とし、背面と端部で小型剥片を剥離している。	分析試料7・星ヶ台
				幅	3.6	重	10.2			

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm、g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第36図 PL.15	226	剥片石器 石核	1区北3面 完形	長	7.2	厚	5.7	黒色頁岩	厚みのある礫を素材、上半部を分割し右側面で剥片剥離を行っている。	
				幅	8.9	重	439.2			
第36図 PL.15	227	剥片石器 石核	1区北2面 完形	長	8.2	厚	4.8	黒色頁岩	自然面付きの円盤状石核で、表裏両面で求心状剥離が行われている。	
				幅	8.2	重	286.7			
第36図 PL.15	228	剥片石器 石核	1区北端1面 完形	長	13.5	厚	4.2	黒色頁岩	偏平な棒状礫を素材、主に表面でチョッパー状の剥片剥離が行われている。	
				幅	8.1	重	423.1			
第36図 PL.15	229	剥片石器 石核	1区北2面 完形	長	11.6	厚	3.0	細粒輝石安山岩	裏面を中心に剥片剥離が行われている。	
				幅	9.0	重	350.5			
第36図 PL.16	230	剥片石器 石核	1区北3面 完形	長	15.4	厚	6.6	黒色安山岩	偏平な大型礫の楕円礫を素材、右側面でチョッピングツール状の剥片剥離が行われている。	
				幅	9.5	重	1145.1			
第37図 PL.16	231	剥片石器 石核	1区北端1面 完形	長	16.5	厚	7.0	黒色頁岩	偏平な大型礫を素材、半割した石核素材と推定される。	
				幅	11.4	重	1329.2			
第37図 PL.16	232	礫石器 凹石	1区北2面 完形	長	8.7	厚	4.7	粗粒輝石安山岩	やや厚みのある円盤状の礫を素材､表面に敲打痕と摩耗痕、表裏両面の中央部に浅い凹みが認められる。	
				幅	8.1	重	495.5			
第37図 PL.16	233	礫石器 凹石	1区北2面 完形	長	8.1	厚	3.4	花崗岩	偏平な円礫を素材、表裏両面に磨耗痕、表面に凹みが認められる。	
				幅	7.4	重	358.6			
第37図 PL.16	234	礫石器 凹石	1区北2面 完形	長	11.0	厚	4.7	粗粒輝石安山岩	偏平な楕円礫を素材、表裏両面に浅い凹み、左側面に部分的な敲打痕が認められる。	
				幅	8.7	重	627.8			
第37図 PL.16	235	礫石器 凹石	1区中2面 完形	長	12.8	厚	5.0	粗粒輝石安山岩	偏平な楕円礫を素材、表面に浅い凹み、左側面に敲打痕が認められる。	
				幅	7.1	重	661.3			
第37図 PL.16	236	礫石器 凹石	1区中2面 完形	長	11.6	厚	5.4	石英閃緑岩	やや厚みのある円盤状の礫を素材、表裏両面に顕著な摩耗痕、中央部に浅い凹みが認められる。	
				幅	9.2	重	878.8			
第37図 PL.16	237	礫石器 凹石	1区中2面 完形	長	12.9	厚	4.0	粗粒輝石安山岩	偏平な長楕円礫を素材、表面に磨耗痕とそれを切る凹み、裏面に弱い敲打痕、右側面に面取りされた敲打痕、下端部に剥離痕が認められる。	
				幅	6.7	重	489.7			
第38図 PL.16	238	礫石器 凹石	1区1面 完形	長	13.8	厚	5.2	粗粒輝石安山岩	偏平な楕円礫を素材、表面に浅い複数の凹み、裏面に摩耗痕が認められる。	
				幅	9.6	重	1018.4			
第38図 PL.16	239	礫石器 凹石	1区北端1面 完形	長	13.2	厚	9.0	粗粒輝石安山岩	厚みのある円礫を素材、表面に凹み、裏面に摩耗痕が認められる。	
				幅	11.0	重	1740.8			
第38図 PL.17	240	礫石器 凹石	1区北2面 完形	長	18.9	厚	5.4	粗粒輝石安山岩	偏平な楕円礫を素材、表裏両面に磨耗痕と浅い凹み、側面に敲打痕が認められる。	
				幅	10.6	重	1206.8			
第38図 PL.17	241	礫石器 磨石	1区北2面 完形	長	5.0	厚	4.0	粗粒輝石安山岩	球状の礫を素材、全体的な弱い摩耗痕と部分的な敲打痕が認められる。	
				幅	4.8	重	118.4			
第38図 PL.17	242	礫石器 磨石	1区北3面 完形	長	6.5	厚	3.7	粗粒輝石安山岩	円盤状の礫を素材、表裏両面に摩耗痕、側面に部分的な敲打痕が認められる。	
				幅	5.7	重	169.0			
第38図 PL.17	243	礫石器 磨石	1区北2面 完形	長	9.0	厚	3.3	石英閃緑岩	円盤状の礫を素材、表裏両面と右側面に摩耗痕と敲打痕が認められる。	
				幅	7.5	重	304.4			
第38図 PL.17	244	礫石器 磨石	1区北2面 欠損	長	9.9	厚	5.5	石英閃緑岩	やや厚みのある楕円礫を素材、表面に磨耗痕、下端部に敲打痕が認められる。	
				幅	6.9	重	464.3			
第38図 PL.17	245	礫石器 磨石	1区北3面 完形	長	10.1	厚	5.3	粗粒輝石安山岩	やや厚みのある円盤状の礫を素材、表裏両面に摩耗痕と摩耗痕が認められる。敲打痕は摩耗痕を切る。	
				幅	8.2	重	627.7			
第39図 PL.17	246	礫石器 磨石	1区中2面 完形	長	12.2	厚	5.7	石英閃緑岩	やや厚みのある楕円礫を素材、表面に磨耗痕、右側面に面取りされた磨耗痕が認められる。風化により剥落が進んでいる。	
				幅	7.4	重	673.6			
第39図 PL.17	247	礫石器 磨石	1区北2面 完形	長	11.7	厚	4.6	粗粒輝石安山岩	偏平な楕円礫を素材、表裏面に摩耗痕、左右両側面に敲打痕が認められる。	
				幅	8.8	重	688.2			
第39図 PL.17	248	礫石器 磨石	1区北3面 完形	長	11.6	厚	3.6	石英閃緑岩	偏平な楕円礫を素材、表裏両面に磨耗痕、側面全体に敲打痕が認められる。	
				幅	7.7	重	534.8			
第39図 PL.17	249	礫石器 磨石	1区北2面 完形	長	10.7	厚	3.8	石英閃緑岩	偏平な楕円礫を素材、表裏両面に磨耗痕が認められる。	
				幅	7.6	重	444.1			
第39図 PL.17	250	礫石器 磨石	1区北端2面 完形	長	12.9	厚	5.5	粗粒輝石安山岩	やや厚みのある偏平な楕円礫を素材、表面と側面に部分的な敲打痕、裏面に弱い摩耗痕が認められる。	
				幅	9.0	重	816			
第39図 PL.17	251	礫石器 磨石	1区1面 完形	長	19.9	厚	4.1	石英閃緑岩	偏平な大型楕円礫を素材、表裏両面に弱い摩耗痕、側面に部分的な敲打痕、裏面に浅い凹みが認められる。	
				幅	10.9	重	1414.5			
第40図 PL.17	252	礫石器 敲石	1区北3面 完形	長	8.0	厚	4.6	石英閃緑岩	偏平な楕円礫を素材、表面に凹み、裏面に摩耗痕、側面に敲打痕が認められる。	
				幅	6.2	重	266.9			
第40図 PL.17	253	礫石器 敲石	1区北3面 完形	長	9.9	厚	3.9	粗粒輝石安山岩	偏平な楕円礫を素材、表裏両面に摩耗痕、上下両端部に敲打痕が認められる。	
				幅	6.0	重	312.2			
第40図 PL.17	254	礫石器 敲石	1区北2面 完形	長	9.9	厚	3.9	粗粒輝石安山岩	偏平な長楕円礫を素材、上下両端部に部分的な敲打痕、上端部ぶ磨耗痕が認められる。	
				幅	6.0	重	328			
第40図 PL.17	255	礫石器 敲石	1区北端1面 完形	長	12.8	厚	3.0	細粒輝石安山岩	偏平な棒状礫を素材、右側面に敲打痕、表裏面に摩耗痕が認められる。左右両側面中央部に抉入部を持つ。	
				幅	4.6	重	296.4			
第40図 PL.18	256	礫石器 敲石	1区北3面 完形	長	9.6	厚	3.9	石英閃緑岩	偏平な楕円礫を素材、上下両端部と右側面に敲打痕が認められる。	
				幅	8.0	重	464.8			
第40図 PL.18	257	礫石器 敲石	1区北2面 完形	長	12.7	厚	4.0	粗粒輝石安山岩	偏平な長楕円礫を素材、上下両端部に部分的な敲打痕が認められる。	
				幅	6.6	重	536			
第40図 PL.18	258	礫石器 敲石	1区北3面 完形	長	12.1	厚	6.7	花崗岩	厚みのある楕円礫を素材、表面に剥離を伴う敲打痕と浅い凹み、裏面に敲打痕と磨耗痕が認められる。	
				幅	9.3	重	951.6			
第40図 PL.18	259	礫石器 敲石	1区北2面 完形	長	9.6	厚	5.0	粗粒輝石安山岩	偏平な円礫を素材、端部に敲打痕、表裏両面に磨耗痕が認められる。	
				幅	8.3	重	580.3			
第40図 PL.18	260	礫石器 敲石	1区北3面 完形	長	12.0	厚	4.9	粗粒輝石安山岩	偏平な楕円礫を素材、左右両側面に部分的な敲打痕が認められる。	
				幅	8.4	重	656.8			

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値 (cm、g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第41図 PL.18	261	礫石器 敲石	１区北端２面 完形	長	12.7	厚	5.7	粗粒輝石安山岩	やや厚みのある偏平な楕円礫を素材､上下両端部に敲打痕、裏面に摩耗痕、右側面に面取りされた顕著な敲打痕が認められる。	
				幅	8.5	重	919.5			
第41図 PL.18	262	礫石器 敲石	１区北３面 完形	長	15.3	厚	4.5	粗粒輝石安山岩	偏平な楕円礫を素材、表裏面に摩耗痕、右側面に敲打痕が認められる。	
				幅	9.8	重	928.7			
第41図 PL.18	263	礫石器 敲石	１区北端１面 完形	長	17.2	厚	7.0	粗粒輝石安山岩	断面が丸みのある長楕円礫を素材、表面と上下両端部に敲打痕が認められる。	
				幅	8.9	重	1578			
第41図 PL.18	264	礫石器 石皿	１区北２面 完形	長	12.4	厚	4.9	粗粒輝石安山岩	円盤状の礫を素材、表裏面に摩耗痕が認められる。	
				幅	10.8	重	1038.3			
第41図 PL.18	265	礫石器 石皿	１区北３面 欠損	長	17.2	厚	3.5	細粒輝石安山岩	薄手の偏平な隅丸長方形の礫を素材、表裏面に摩耗痕、上端部は摩耗痕を切る意図的な破損を加える。	
				幅	18.7	重	1813.4			
第42図 PL.19	266	礫石器 石皿	１区遺構外 欠損	長	16.7	厚	6.4	粗粒輝石安山岩	大型石皿の下半部。偏平な楕円礫を素材、全体を敲打により整形。表面は溝状の顕著な摩耗痕、裏面は径10mmほどの凹みが多数認められる。	
				幅	20.9	重	2656.4			
第42図 PL.19	267	礫石器 台石	１区北２面 完形	長	16.6	厚	5.3	礫岩	円盤状の礫を素材、表面に摩耗痕と中央部やや右寄りに浅い凹みが認められる。	
				幅	15.9	重	2194.6			
第42図 PL.19	268	礫石器 台石	１区北２面 完形	長	18.0	厚	4.0	石英閃緑岩	偏平な円盤状の礫を素材、表裏両面に摩耗痕、表面に径５mmほどの小さな凹みが認められる。	
				幅	15.7	重	1796.5			
第42図 PL.19	269	礫石器 台石	１区北２面 完形	長	20.3	厚	5.2	石英閃緑岩	偏平な大型の楕円礫を素材、表裏両面に弱い摩耗痕、側面に敲打痕が認められる。	
				幅	14.9	重	2637.2			
第42図 PL.19	270	礫石器 砥石	１区遺構外 欠損	長	13.3	厚	4.0	粗粒輝石安山岩	角柱状の礫の上下両方を折断、表面は全体的な摩耗痕と溝状の摩耗痕、裏面は弱い摩耗痕が認められる。	
				幅	6.0	重	555.7			
第43図 PL.19	271	剥片石器 原石	１区遺構外 完形	長	5.9	厚	2.5	黒曜石	長さ59mmの角柱状の角礫を素材とした原石、５mmほどの球顆を含む。	分析試料２・星ヶ台
				幅	3.7	重	66.8			
第43図 PL.19	272	剥片石器 原石	１区遺構外 完形	長	7.5	厚	1.6	黒曜石	長さ75mmの縦長の角礫を素材とした原石。	分析試料３・星ヶ台
				幅	3.7	重	46.7			
第43図 PL.20	273	剥片石器 原石	１区遺構外 完形	長	9.8	厚	3.3	黒曜石	長さ98mm・厚さ33mmの板状の角礫を素材としたやや大型の原石。５mmほどの球顆を含み、石質は271と似る。	分析試料４・星ヶ台
				幅	7.7	重	305.4			
PL.16	274	剥片石器 石核	１区北３面 完形	長	10.1	厚	3.8	黒色安山岩	黒色安山岩の接合資料、大型の母岩を素材とし剥片剥離した石核。母岩は球形状の河川礫。接合資料２と同一母岩の可能性が高い。	接合資料１ 写真のみ
				幅	6.0	重	175.6			
PL.16	275	剥片石器 石核	１区北３面 完形	長	6.8	厚	4.3	黒色安山岩	黒色安山岩の接合資料、大型の母岩を素材とし剥片剥離した石核。接合資料１と同一母岩の可能性が高い。	接合資料２ 写真のみ
				幅	8.3	重	265.8			

第６表　未掲載縄文土器集計表（点数）

	区	遺構No.	遺構種	黒浜・有尾	諸磯ａ	諸磯ｂ（爪）	諸磯ｂ（浮線）	諸磯ｂ（沈線）	諸磯ｃ	大木５式	前期後葉	前期末葉～中期初頭	五領ヶ台	阿玉台
	１区北端	78	土坑											
	１区北端	81	土坑											
	１区北端	82	土坑											
			小計											
遺構外	１区北端		１面No.付											
	１区北端		１面一括	1										
	１区北端		２面一括	4										
	１区北端		攪乱											
			小計	5										
	１区北	45	土坑											
	１区北	46	土坑											
	１区北	49	土坑											
	１区北	50	土坑											
	１区北	51	土坑											
	１区北	52	土坑		1									
	１区北	59	土坑											
	１区北	60	土坑		12									
	１区北	62	土坑	3					4					
	１区北	63	土坑		1									
	１区北	64	土坑	1	3									
	１区北	65	土坑											
	１区北	66	土坑											
	１区北	67	土坑											
	１区北	68	土坑										1	
	１区北	69	土坑											
	１区北	70	土坑	1	4									
	１区北	71	土坑	2	7									
	１区北	72	土坑											
	１区北	73	土坑	8	2				2	1	1		6	
	１区北		包含層	3		1								
			小計	15	30	1			6	1	1		7	
遺構外	１区北	10	土坑											
	１区北	11	土坑											
	１区北	12	土坑											
	１区北	13	土坑											
	１区北	14	土坑											
	１区北	15	土坑											
	１区北	16	土坑	1										
	１区北	17	土坑											
	１区北	20	土坑											
	１区北	31	土坑											
	１区北	33	土坑											
	１区北	38	土坑											
	１区北	40	土坑		1									
	１区北	43	土坑										1	
	１区北	1	溝		1				1					
	１区北		１面一括											
	１区北		攪乱	5	2			1					1	
	１区北		２面No.付						1					
	１区北		２面一括	127	162	9	1	4	22		92	1	10	5
	１区北		３面一括	59	17				14		7			1
	１区北		遺構外	3	4									
			小計	235	187	9	1	5	38		99	1	12	6
	１区中	47	土坑		1									
	１区中	48	土坑		1									
	１区中	53	土坑		1									
	１区中	54	土坑	1										
	１区中	61	土坑		1									
			小計	1	4									
遺構外	１区中		１面一括	3	4				1		18			
	１区中		２面一括	6	22	10		3	1		8	1		
			小計	9	26	10		3	2		26	1		
遺構外	１区南		１面一括											
	１区南		２面一括					1						
			小計					1						
遺構外	２区													
			総合計	265	247	20	1	9	46	1	126	2	19	6

未掲載縄文土器集計表

	区	遺構No.	遺構種	加曽利E1	加曽利E2	加曽利E3	加曽利E3かE4	加曽利E4	中期後葉	称名寺	堀之内1	不明	小計	
	1区北端	78	土坑									1	1	
	1区北端	81	土坑		5				1			1	7	
	1区北端	82	土坑		6				8				14	
			小計		11				9			2	22	
遺構外	1区北端		1面No付		3				2				5	
	1区北端		1面一括		22				32		1	13	69	
	1区北端		2面一括		39				15		1	10	69	
	1区北端		攪乱		3							1	4	1区北端計
			小計		67				49		2	24	147	169
	1区北	45	土坑						5			2	7	
	1区北	46	土坑						7			7	14	
	1区北	49	土坑						2				2	
	1区北	50	土坑		3							2	5	
	1区北	51	土坑									7	7	
	1区北	52	土坑										1	
	1区北	59	土坑									13	13	
	1区北	60	土坑									10	22	
	1区北	62	土坑									5	12	
	1区北	63	土坑									4	5	
	1区北	64	土坑									3	7	
	1区北	65	土坑		1								1	
	1区北	66	土坑		2								2	
	1区北	67	土坑						1			6	7	
	1区北	68	土坑										1	
	1区北	69	土坑		1				1			1	3	
	1区北	70	土坑									5	10	
	1区北	71	土坑										9	
	1区北	72	土坑									1	1	
	1区北	73	土坑		5				3	1		4	33	
	1区北		包含層		119	3	1		194	1		234	556	
			小計		131	3	1		213	2		304	718	
遺構外	1区北	10	土坑									1	1	
	1区北	11	土坑									1	1	
	1区北	12	土坑									1	1	
	1区北	13	土坑									1	1	
	1区北	14	土坑									1	1	
	1区北	15	土坑									1	1	
	1区北	16	土坑									1	2	
	1区北	17	土坑									1	1	
	1区北	20	土坑						1				1	
	1区北	31	土坑									1	1	
	1区北	33	土坑									1	1	
	1区北	38	土坑									2	2	
	1区北	40	土坑									1	2	
	1区北	43	土坑									2	3	
	1区北	1	溝						1			1	4	
	1区北		1面一括		5				10			10	25	
	1区北		攪乱		3				3			5	20	
	1区北		2面No付		23				12			3	39	
	1区北		2面一括	4	188	18			145	1		1311	2100	
	1区北		3面一括		34	2			12			328	474	
	1区北		遺構外		13				73			7	100	1区北計
			小計	4	266	20			184	1		1673	2681	3399
	1区中	47	土坑										1	
	1区中	48	土坑										1	
	1区中	53	土坑									1	2	
	1区中	54	土坑									1	2	
	1区中	61	土坑									4	5	
			小計									6	11	
遺構外	1区中		1面一括									3	29	
	1区中		2面一括		3			1	8			175	238	1区中計
			小計		3			1	8			178	267	278
遺構外	1区南		1面一括		3				3			4	10	
	1区南		2面一括		1							1	3	1区南計
			小計		4				3			5	13	26
遺構外	2区				5							1	6	
			総合計	4	487	23	1	1	466	3	2	2193	3865	

※1区北2面包含層　中期後葉と不明の大部分はE2の可能性が高い

第４章　理化学分析とまとめ

第１節　理化学分析

第１項　火山灰分析報告

１　はじめに

北関東地方西部の赤城山西麓には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、中部地方や中国地方、さらには九州地方など遠方の火山から噴出したテフラ(火山砕屑物，火砕物)が数多く降灰している。とくに、後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代、さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログ(たとえば町田・新井，2011)などに収録されており、考古遺跡などでテフラに関する調査分析を行って、年代や層位が明らかな指標テフラを検出することで、遺物包含層や遺構の年代などに関する情報が得られるようになっている。

渋川市赤城町棚下込山遺跡の発掘調査でも、層位や年代さらに堆積様式が不明な土層が検出されたことから、野外調査(地質調査)を実施して、土層やテフラの層序記載ならびに高純度での分析試料の採取を行った。さらに、実験室内でテフラ分析(テフラ検出分析)を行って、指標テフラの検出同定を実施した。調査分析の対象は２区基本土層Ａトレンチである。

２　調査分析地点の土層層序

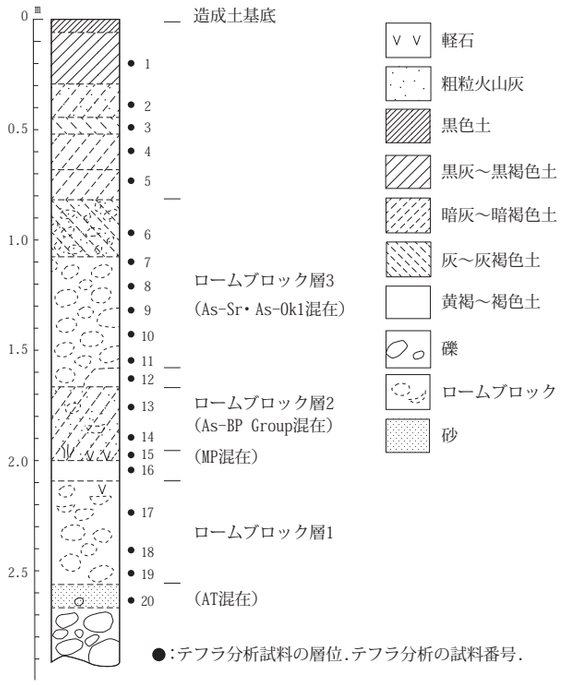
発掘調査区内の中でやや傾斜が急な場所に作成された２区基本土層Ａトレンチでは、亜円礫層(層厚25cm以上，礫の最大径261mm)の上位に、下位より亜円礫や砂を含むやや灰色がかった褐色土(層厚12cm，礫の最大径93mm)、最上部に斑晶に角閃石が認められる比較的粗粒の白色軽石を含む黄褐色土ブロックに富むやや灰色がかった褐色土(層厚45cm，軽石の最大径22mm，ロームブロック層１と仮称)、褐色土(層厚７cm)、黄桃色風化軽石を含む黄褐色土(層厚３cm，軽石の最大径７mm)、褐色土ブロックを含むラミナが発達した灰色粗粒火山灰混じり暗灰色土(層厚29cm，ロームブロック層２と仮称)、褐色土(層厚７cm)、マトリクスが暗灰色土の黄褐色土ブロック層(層厚50m)および灰色粗粒火山灰混じり灰褐色粘質土ブロック層(層厚25cm，ロームブロック層３と仮称)、暗灰褐色粘質土(層厚14cm)、暗灰色土(層厚14cm)、灰褐色土(層厚８cm，いわゆる淡色黒ボク土層)、黄灰色粗粒細粒軽石混じり暗灰褐色土(層厚14cm，軽石の最大径２mm)、黒灰褐色土(層厚19cm)、黒色土(層厚６cm)が認められる(第44図)。このうち、上位より２層目の黄灰色粗粒細粒軽石混じり暗灰褐色土からは、縄文時代中期の土器が発掘調査で検出されている。

その上位には、さらに６世紀中葉の榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP，新井，1962，坂口，1986，早田，1989，町田・新井，2011)の軽石採取後の造成土がのっている(第44図)。

３　テフラ検出分析

(１)分析試料と分析方法

２区基本土層Ａトレンチにおいて採取された20試料のうちの14試料を対象に、テフラ粒子の量や特徴を定性的



第44図　２区基本土層Ａトレンチの土層柱状図

に把握するテフラ検出分析を行って、指標テフラの検出・同定を実施した。分析の手順は次のとおりである。

１)試料10gずつを秤量。

２)超音波洗浄装置により泥分を除去。

３)恒温乾燥器により80℃で恒温乾燥。

４)実体顕微鏡下で観察。

(２)分析結果

テフラ検出分析の結果を第7表に示す。テフラ検出分析で認められた特徴的なテフラ粒子には、次のような火山ガラスがある。

タイプａ：無色透明のバブル型の火山ガラス。

タイプｂ：スポンジ状に比較的良く発泡した白色軽石型ガラス。

タイプｃ：ジェリー状の褐色や淡褐色の軽石型ガラス。

タイプｄ：スポンジ状に非常に細かく発泡した白色軽石(最大径2.7㎜)や白色軽石型ガラス。

タイプｅ：淡灰色、淡褐色、灰色、無色透明の分厚い中間型ガラス。

タイプｆ：スポンジ状の灰白色軽石型ガラス。

タイプｇ：スポンジ状の白色軽石型ガラス。

タイプａは試料20～15に、タイプｂは試料15に、タイプｃは試料15より上位に、そしてタイプｄは試料９にわずかずつ認められた。また、タイプｅは試料11以上に含まれており、とくに試料７や試料６に多い。タイプｆは試料８に、さらにタイプｇは試料６に少量ずつ含まれている。

４　考察

(１)テフラ粒子の由来

テフラ検出分析で認められた火山ガラスのうち、タイプａは、岩相から約3～2.8万年前に南九州の姶良カルデラから噴出した姶良Tn火山灰(AT，町田・新井，1976，2011など)と考えられる。また、タイプｂやタイプｃは、検出層位や岩相から約2.9～2.4万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group，新井，1962，町田・新井，2011，早田，2019など)に由来すると考えられる。とくに、試料15に含まれるタイプｂは、採取層準の層相も合わせると、As-BP Group最下部の室田軽石(MP，森山，早田，1996など)に特徴的なものと思われる。

タイプｄについては、約1.65～1.5万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP，新井，1962，町田・新井，2011)や浅間草津テフラ(As-K，町田・新井，2011)の可能性もあるが、発泡の細かさを考慮して、約2.2万年前に浅間火山から噴出した浅間白糸軽石(As-Sr，町田ほか，1984，早田，2019など)の可能性を指摘しておきたい。なお、As-Srのブロックは、２区基本土層Ａトレンチ周辺において、ロームブロック層３の上面で認められることがあった。

タイプｅの火山ガラスには、本遺跡の位置とテフラの分布を考えると、浅間大窪沢第１軽石(As-Ok1，中沢ほか，1984，早田，1996，2019など)が含まれている可能性が高い。また、As-YPやAs-K由来のものも多いのかも知れない。タイプｆやタイプｇの由来の詳細は現段階では不明であるが、いずれも縄文時代の浅間火山の噴火に由来する可能性が高い。とくに後者に関しては、約5,400年前[*1]に浅間火山から噴出した浅間六合軽石(As-Kn，早田，1991，1996など)あるいは約4,500年前[*1]に浅間火山から噴出した浅間Ｄ軽石(As-D，新井，1979など)に由来するのかも知れない。

(２)ロームブロック層の年代と成因

子持火山南麓や赤城火山西麓やその周辺の緩斜面や河岸段丘面上には、榛名火山や浅間火山などに由来するテフラ層を複数挟在する明色のいわゆるローム層が堆積していることが多い。しかしながら、今回調査対象になった２区基本土層Ａトレンチでは、ローム層由来の土層は認められたものの、テフラ層の明瞭な堆積は認められなかった。そこで、今回はとくにその堆積様式の解明が調査分析のおもな目的になった。

２区基本土層Ａトレンチにおいて、層相から河川性堆積物と考えられる亜円礫層と、比較的安定的に形成された黒ボク土の間には、火山灰土の薄層を挟んでロームブロック層１～３が認められる。これら３層は、層相からいずれも火山灰土の地すべりの堆積物と推定される。火山灰土の地すべりではさほど火山灰土が乱されずに移動することがあり、ここでも一度の地すべりにも関わらず、３度の地すべりが発生したように見えている可能性も否定できないが、堆積物を細分して記載を進める[*2]。

亜円礫層の上位のロームブロック層１やその上下の堆積物にはATが含まれている。また、ロームブロック層１とロームブロック層２の間の黄褐色土にはMPが含まれており、ロームブロック層２にはAs-BP Group由来のテフラ粒子が多く含まれている。さらに、ロームブロック層３にはAs-SrやAs-Ok1が含まれている。なお、前述のように、As-Srのブロックはロームブロック層３の上面にも存在している。

仮に３層のロームブロック層が３度の地すべりに由来するものであれば、ロームブロック層１、ロームブロック２、ロームブロック層３の形成は、順にATとMPの降灰間、MP降灰後でAs-Sr降灰前、As-Ok1降灰後の可能性がある。その詳細は不明であるが、早川ほか(2002)は、赤城山南・西斜面において、約4.5万年前以前の赤城鹿沼軽石(Ag-KP，新井，1962，町田・新井，2011など)とAs-BP Groupの間(3.01万年前)、そしてAs-Sr降灰後(1.43万年前)に818(弘仁９)年地震の時のような斜面崩壊が発生したとしている。赤城山西麓にはほかにも完新世初頭の大規模地すべりの堆積物が分布していることから(早田，未公表資料)、これらと今回検出された地すべり堆積物との関係がわかると良い。

さて、ロームブロック層１やロームブロック層２の断面をよく観察すると、扁平な形をしたロームブロックが認められる。この形状が地すべりの初期段階で形成された場合と、後で変形を受けてできた場合に分けて堆積物の形成過程を考えてみる。

テフラ層を複数挟在するローム層の地すべりの際には、層理面に沿ってローム層が移動して、扁平な形状のロームブロックが形成される可能性がある。そして、地すべりの移動とともに、扁平な形状が壊れて塊状になることもあろう。

一方、今回検出された地すべりに由来すると考えられる堆積物の中のロームブロック層の断面には、堆積学の分野で言われるdish structure(Reineck and Singh，1980など)に似た部分もある。また、ラミナが認められるロームブロック２の基底部付近には、Reineck and Singh(1980)が「flame-like，cylindrical pillar(p.93，Fig.148：火炎状の円筒柱)」と表現した構造に似た湧昇流の痕跡のような構造も認められる(写真３)。dish structureやpillar structureは、一般的に堆積物からの脱水現象に伴うもので、震動にともなう液状化・流動化の際にも形成されると考えられている(たとえば保柳ほか，2004)。

ロームブロックの形状の由来はともかく、湧昇流の痕跡のような構造の中には、ロームブロック層の堆積後に形成されたものがあることから、水を大量に含んだロームブロックに富む地すべりの移動や脱水に伴う地すべり構成物の変形の後に、震動に伴う砂を含むロームブロック層の液状化・流動化が発生した可能性もある。いずれにしても、今後、遺跡周辺でも露頭などで堆積物の調査研究が期待される。

５　まとめ

渋川市赤城町棚下込山遺跡において、野外調査(地質調査)とテフラ分析(テフラ検出分析)を実施した。その結果、２区基本土層Ａトレンチで認められた堆積物は、下位より亜円礫層、ローム質堆積物、黒ボク土からなることがわかった。このうち、ローム質堆積物は、間に火山灰土を挟在する３層のロームブロック層からなり、姶良Tn火山灰(AT，約3～2.8万年前)、室田軽石(MP)を含む浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group，約2.9～2.4万年前)、浅間白糸軽石(As-Sr，約2.2万年前)、浅間大窪沢第１軽石(As-Ok1，約２万年前)などのテフラを含む。ロームブロック層は地すべりに由来する可能性が高く、その形成時期は、AT降灰後で、完新世前半以前と推定される。

註

*1　放射性炭素(^{14}C)年代.

*2　本調査後に実施された別の深掘調査では、As-BP Group構成層の少なくとも一部より上位に土石流様の斜面堆積物が認められたらしい。したがって、その斜面堆積物は、今回の調査対象トレンチのロームブロック層２あるいはロームブロック層１に対応する可能性がある。

文献

新井房夫（1962）関東盆地北西部地域の第四紀編年．群馬大学紀要自然科学編，10，p.1-79.

新井房夫（1979）関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層．考古学ジャーナル，no.53，p.41-52.

早川由紀夫・森田　悌・中嶋田絵美・加部二生（2002）『類聚国史』に書かれた818年の地震被害と赤城山の南斜面に残る９世紀の地変跡．歴史地震，no.18，p.34-41.

保柳康一・公文富士夫・松田博貴（2004）「堆積物と堆積岩」．共立出版，171p.

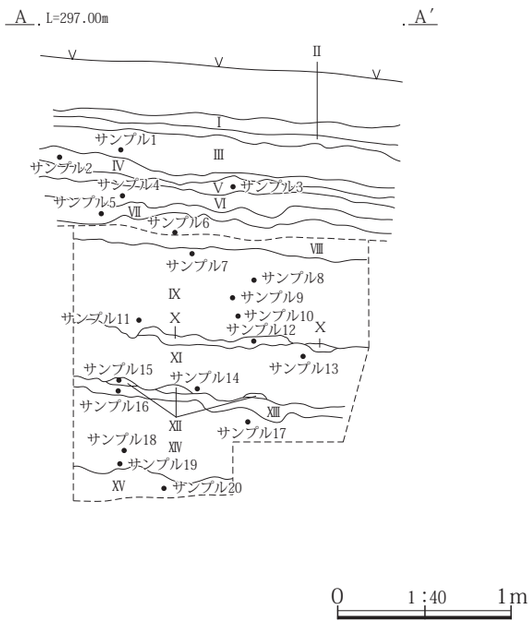
町田　洋・新井房夫（1976）広域に分布する火山灰－姶良Tn火山灰の発見とその意義．科学，46，p.339-347.

町田　洋・新井房夫（2011）「新編火山灰アトラス－日本列島とその周辺(第２刷)」．東京大学出版会，336p.
町田　洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫（1984）テフラと日本考古学－考古学研究に関係するテフラのカタログ．古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」，p.865-928.
中沢秀俊・遠藤邦彦・新井房夫（1984）浅間火山，黒斑～前掛期のテフラ層序.日本第四紀学会講演要旨集,no.14,p.69-70.Reineck,0 H.E. and Singh,I.B.（1980）「Depositional sedimentary environments with reference to terrigenous clastics」.Springer-Verlag,549p.
坂口　一（1986）榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器．群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」，p.103-119.
早田　勉（1989）６世紀における榛名火山の２回の噴火とその災害．第四紀研究，27，p.297-312.
早田　勉（1991）浅間火山の生い立ち．佐久考古通信，no.53，p.2-7.
早田　勉（1996）関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴－とくに御岳第１テフラより上位のテフラについて－．名古屋大学加速器質量分析計業績報告書，no．７，p.256-267.
早田　勉（2019）北関東地方西部における旧石器時代の火山噴火と環境変化．令和元年度岩宿フォーラム講演要旨集．p.19-25.

第７表　テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石			火山ガラス			重鉱物
		量	色調	最大径	量	形態	色調	（不透明鉱物以外）
２区基本土層	6				＊＊	md，pm（sp）	淡灰，白，無色透明，褐	opx，cpx，（am）
Ａトレンチ	7				＊＊	md	淡灰，淡褐	opx，cpx，（am）
	8				＊	md＞pm（sp）	淡灰，灰，灰白	opx，cpx，（am）
	9	（＊）	白	2.7mm	＊	md＞pm（sp）	淡灰，灰，白，褐	opx，cpx，（am）
	10				（＊）	md，pm（sp）	淡灰，灰，灰白，無色透明	opx，cpx
	11				（＊）	md，pm（sp）	淡灰，灰，白，無色透明	opx，cpx
	12				（＊）	pm（sp）	淡褐，褐	opx，cpx
	13				（＊）	pm（sp）	褐	opx，cpx
	14				（＊）	pm（sp）	褐	opx，cpx，（am）
	15				（＊）	bw，pm（sp）	無色透明，白，褐	opx，cpx，（am）
	16				（＊）	bw	無色透明	opx，cpx，（am）
	17				（＊）	bw	無色透明	opx，cpx，am
	18				（＊）	bw	無色透明	opx，cpx，am
	20				（＊）	bw	無色透明	opx，cpx，（am）

＊＊＊＊：とくに多い，＊＊＊：多い，＊＊：中程度，＊：少ない，（＊）：とくに少ない.
bw：バブル型，md：中間型，pm：軽石型，sp：スポンジ状，fb：繊維束状，sc：スコリア型.
ol：カンラン石，opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石，am：角閃石，bi：黒雲母．重鉱物の（ ）：量が非常に少ないことを示す.



２区基本土層Ａトレンチ
Ⅰ　灰黄褐色土(10YR6/2)　Hr-FP層。
Ⅱ　黒色土(10YR1.7/1)
Ⅲ　黒褐色土(10YR2/2)　φ５～10㎜岩片５％。
Ⅳ　黒褐色土(10YR3/2)　φ５～７㎜岩片５％、白色粒子含む。やや締まりあり。
Ⅴ　暗褐色土(10YR3/4)　φ４～15㎜岩片５％、白色粒子含む。やや締まりあり。
Ⅵ　黒褐色土(10YR2/3)　φ４～30㎜岩片10％、白色粒子含む。粘性少しあり。
Ⅶ　暗褐色土(10YR3/4)　φ５～25㎜岩片10％、白色粒子含む。やや締まりあり。
Ⅷ　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　φ３～６㎜岩片５％、白色粒子含む。粘性少しあり。
Ⅸ　褐色土(10YR4/4)　黒褐色土とロームの混合土。再堆積のくり返しと考えられる。φ２～４㎜黄色軽石が少量入っている。
Ⅹ　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ロームと黒褐色土の混合土。やや柔らかめ。
Ⅺ　褐灰色土(10YR4/1)　黒褐色土とロームのラミナ状の層。下の方が黒褐色土が多い。φ３～５㎜黄色軽石10%含む。
Ⅻ　にぶい黄褐色土(10YR7/4)　ローム塊。φ３～５㎜黄色軽石20％含む。
ⅩⅢ　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　Ⅹ層に近似。φ３～５㎜黄色軽石５％含む。やや柔らかめ。
ⅩⅣ　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　Ⅹ層に近似とローム層がラミナ状になっている層。φ20～30㎜礫10％、φ４～７㎜角閃石入り軽石20％を含む。
ⅩⅤ　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム主体。礫混じりの層。φ30～150㎜礫20％含む。

第45図　サンプルデータ採取位置

左上・写真１　２区基本土層Ａトレンチの土層断面

右上・写真２　２区基本土層Ａトレンチにおける試料の採取層位

左・写真３　As-BP Group の MP 包含層の上位に認められる皿状構造に類似した構造

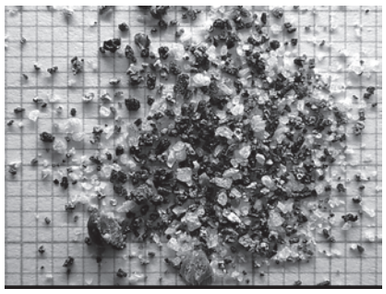


写真４　試料９（As-Sr・As-Ok1 包含層）
mafic 鉱物が比較的多いものの、白色の細粒の軽石や軽石型ガラスが含まれる。背後は１mm メッシュ。

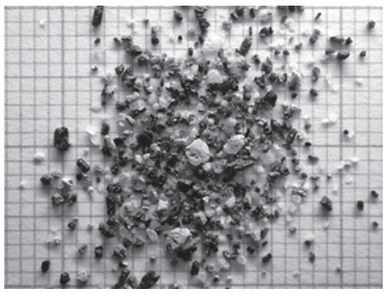


写真５　試料 15（As-BP Group の MP 包含層）
無色透明のバブル型ガラスのほか、白色や褐色の軽石型ガラスが含まれる。mafic 鉱物の量はさほど多くない。背後は１mm メッシュ。

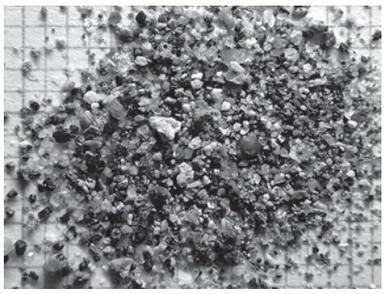


写真６　試料 20（AT 包含層）
河川堆積物由来の砂が多いものの、無色透明のバブル型ガラスも認められる。背後は１mm メッシュ。

第２項　棚下込山遺跡出土黒曜石製石器の産地推定

１　はじめに

全国各地に分布している黒曜石製石器等の石材原産地を想定することで、ものの動きやそれに伴う人々の生活のあり方などを知る上で優良な手がかりを得るために、渋川市赤城町棚下地内に所在する棚下込山遺跡から出土した黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

２　試料と方法

分析対象は、棚下込山遺跡より出土した黒曜石製石器10点である（第８表）。試料は、測定前に超音波洗浄器やメラミンフォーム製スポンジと精製水を用いて、測定面の洗浄を行った。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光Ｘ線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、Ｘ線管ターゲットはロジウム（Rh）、Ｘ線検出器はSDD検出器である。測定条件は、測定時間100sec、照射径８㎜、管電圧50kV、管電流1000μA、試料室内雰囲気は真空に設定し、一次フィルタにPb測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光Ｘ線分析によるＸ線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた（望月，1999など）。本方法では、まず各試料を蛍光Ｘ線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム（K）、マンガン（Mn）、鉄（Fe）、ルビジウム（Rb）、ストロンチウム（Sr）、イットリウム（Y）、ジルコニウム（Zr）の合計７元素のX線強度（cps；count per second）について、以下に示す指標値を計算する。

１）Rb分率=Rb強度×100/（Rb強度+Sr強度+Y強度+Zr強度）

２）Sr分率=Sr強度×100/（Rb強度+Sr強度+Y強度+Zr強度）

３）Mn強度×100/Fe強度

４）log（Fe強度/K強度）

次に、これらの指標値を用いた２つの判別図（横軸Rb分率－縦軸Mn強度×100/Fe強度の判別図と横軸Sr分率－縦軸log（Fe強度/Ｋ強度）の判別図）を作成し、各地の

第８表　分析対象となる黒曜石

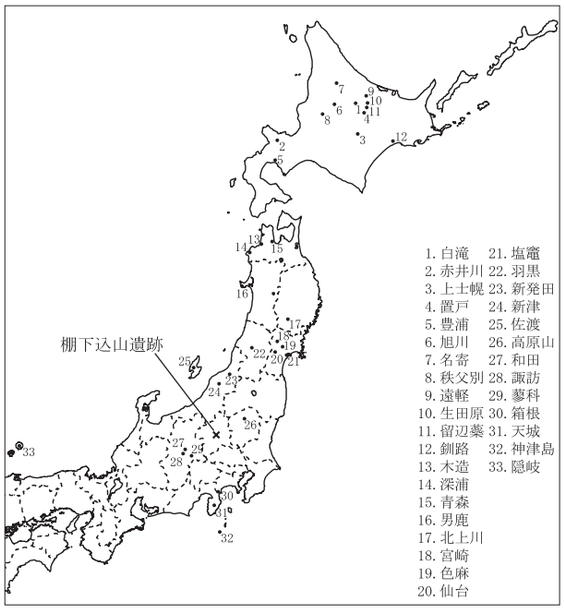
分析№	登録番号	出土位置	取上番号	器種	残存	法量（㎜,g）			
						長さ	幅	厚さ	重量
1	10035	１区遺構外	120	尖頭器	完形	38	19	4	3.6
2	10078	１区遺構外	116	原石	完形	59	37	25	66.8
3	10079	１区遺構外	117	原石	完形	75	37	16	46.7
4	10080	１区遺構外	118	原石	完形	98	77	33	305.4
5	10081	１区北２面	8	石鏃	完形	17	17	2	0.4
6	10110	１区北２面		石核	完形	32	23	18	16.5
7	10111	１区北２面		石核	完形	27	36	13	10.2
8	10112	１区北２面		石核	完形	20	28	18	13.6
9	10113	１区北２面		石核	完形	21	26	18	8.1
10	10171	１区遺構外	126	石鏃	完形	18	14	4	0.6

第９表　東日本黒曜石産地の判別群

都道府県	エリア	判別群名	原石採取地	
北海道	白滝	白滝１	赤石山山頂(43),八号沢露頭(15)	赤石山山頂,八号沢露頭,八号沢,黒曜の沢,幌加林道(36)
		白滝２	７の沢川支流（２),IK露頭(10),十勝石沢露頭直下河床(11),アジサイの滝露頭(10)	
	赤井川	赤井川	曲川･土木川(24)	
	上士幌	上士幌	十勝三股（４),タウシュベツ川右岸(42),タウシュベツ川左岸(10),十三ノ沢(32)	
	置戸	置戸山	置戸山（５）	
		所山	所山（５）	
	豊浦	豊浦	豊泉(10)	
	旭川	旭川	近文台（８),雨紛台（２）	
	名寄	名寄	忠烈布川(19)	
	秩父別	秩父別１	中山(65)	
		秩父別２		
		秩父別３		
	遠軽	遠軽	社名淵川河床（２）	
	生田原	生田原	仁田布川河床(10)	
	留辺蘂	留辺蘂１	ケショマップ川河床（９）	
		留辺蘂２		
	釧路	釧路	釧路市営スキー場（９),阿寒川右岸（２),阿寒川左岸（６）	
青森	木造	出来島	出来島海岸(15),鶴ヶ坂(10)	
	深浦	八森山	岡崎浜（７),八森山公園（８）	
	青森	青森	天田内川（６）	
秋田	男鹿	金ヶ崎	金ヶ崎温泉(10)	
		脇本	脇本海岸（４）	
岩手	北上川	北上折居１	北上川（９),真城(33)	
		北上折居２		
		北上折居３		
宮城	宮崎	湯ノ倉	湯ノ倉(40)	
	色麻	根岸	根岸(40)	
	仙台	秋保１	土蔵(18)	
		秋保２		
	塩竈	塩竈	塩竈(10)	
山形	羽黒	月山	月山荘前(24),大越沢(10)	
		櫛引	たらのき代(19)	
新潟	新発田	板山	板山牧場(10)	
	新津	金津	金津（７）	
	佐渡	真光寺	追分（４）	
栃木	高原山	甘湯沢	甘湯沢(22)	
		七尋沢	七尋沢（３),宮川（３),枝持沢（３）	
長野	和田	西餅屋	芙蓉パーライト土砂集積場(30)	
		鷹山	鷹山(14),東餅屋(54)	
		小深沢	小深沢(42)	
		土屋橋１	土屋橋西(10)	
		土屋橋２	新和田トンネル北(20),土屋橋北西(58),土屋橋西（１）	
		古峠	和田峠トンネル上(28),古峠(38),和田峠スキー場(28)	
		ブドウ沢	ブドウ沢(20)	
		牧ヶ沢	牧ヶ沢下(20)	
		高松沢	高松沢(19)	
	諏訪	星ヶ台	星ヶ台(35),星ヶ塔(20)	
	蓼科	冷山	冷山(20),麦草峠(20),麦草峠東(20)	
神奈川	箱根	芦ノ湯	芦ノ湯(20)	
		畑宿	畑宿(51)	
		鍛冶屋	鍛冶屋(20)	
静岡		上多賀	上多賀(20)	
	天城	柏峠	柏峠(20)	
東京	神津島	恩馳島	恩馳島(27)	
		砂糠崎	砂糠崎(20)	
島根	隠岐	久見	久見パーライト中（６),久見採掘現場（５）	
		箕浦	箕浦海岸（３),加茂（４),岸浜（３）	

原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、産地を推定する。この方法は、できる限り蛍光X線のエネルギー差が小さい元素同士を組み合わせて指標値を算出するため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊分析が望ましい考古遺物の測定に対して非常に有効な方法であるといえる。ただし、風化試料の場合、log(Fe強度/Ｋ強度)の値が減少する点に注意が必要である(望月，1999)。試料の測定面にはなるべく平滑な面を選んだ。

判別図のバックデータとなる原石試料は、採取原石を割って新鮮な面を露出させた上で、産地推定対象試料と同様の条件で測定した。第９表に判別群一覧とそれぞれの原石の採取地点および点数を、第46図に各原石の採取地の分布図を示す。



第46図　黒曜石産地分析図(東日本)

３　分析結果

第10表に石器の測定値および算出した指標値を、第47図、第48図に黒曜石原石の判別図に石器の指標値をプロットした図を示す。視覚的にわかりやすくするため、図では各判別群を楕円で取り囲んである。

分析の結果、１点が西餅屋群(長野県、和田エリア)、１点が小深沢群(長野県、和田エリア)、１点が鷹山群(長野県、和田エリア)と小深沢群の重複域、７点が星ヶ台群(長野県、諏訪エリア)の範囲にプロットされた。

第10表に、判別図法により推定された判別群名とエリア名を示す。第11表に器種別の産地を示す。今回分析した10点の範囲内において、すべてが信州産であり、うち７割が諏訪産であった。また、石鏃、尖頭器は和田産で、石核、原石は諏訪産と、あくまでも10点の範囲内においてであるが器種によって産地に違いがみられた。

４　おわりに

棚下込山遺跡より出土した黒曜石製石器10点について、蛍光Ｘ線分析による産地推定を行った。その結果、３点が和田、７点が諏訪エリア産と推定された。

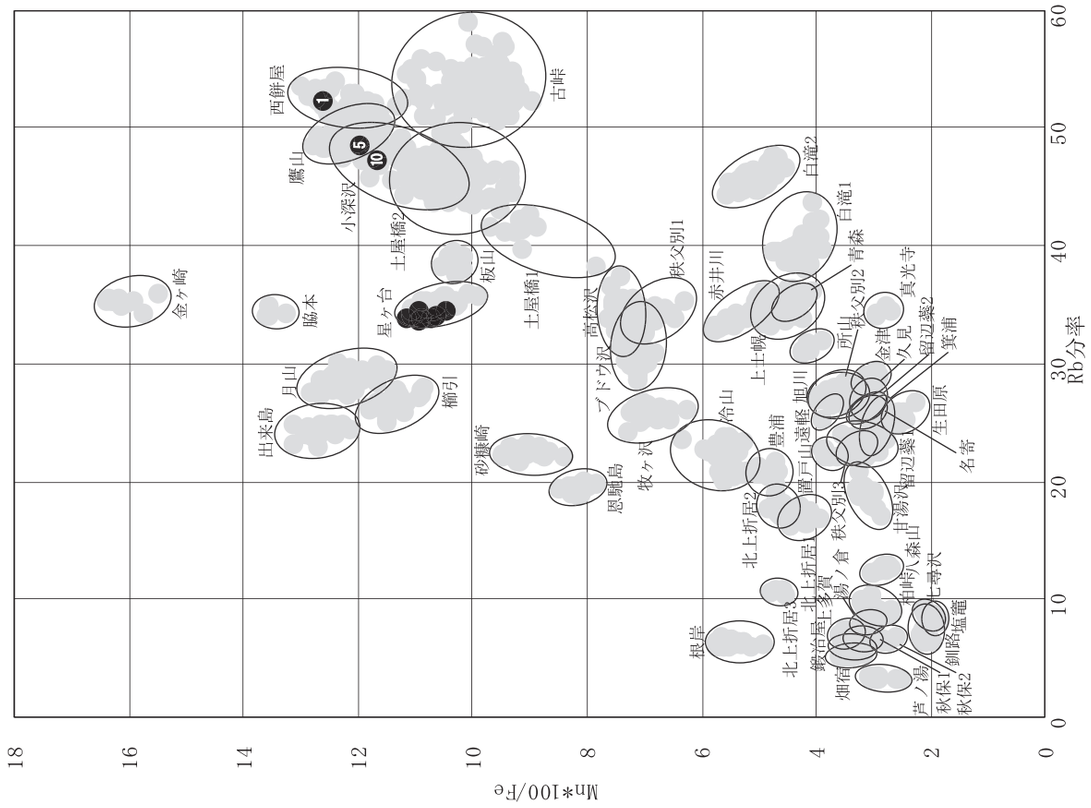
引用文献
望月明彦（1999）上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定．大和市教育委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書２－上和田城山遺跡篇－」：172-179，大和市教育委員会．

第11表　器種別の産地

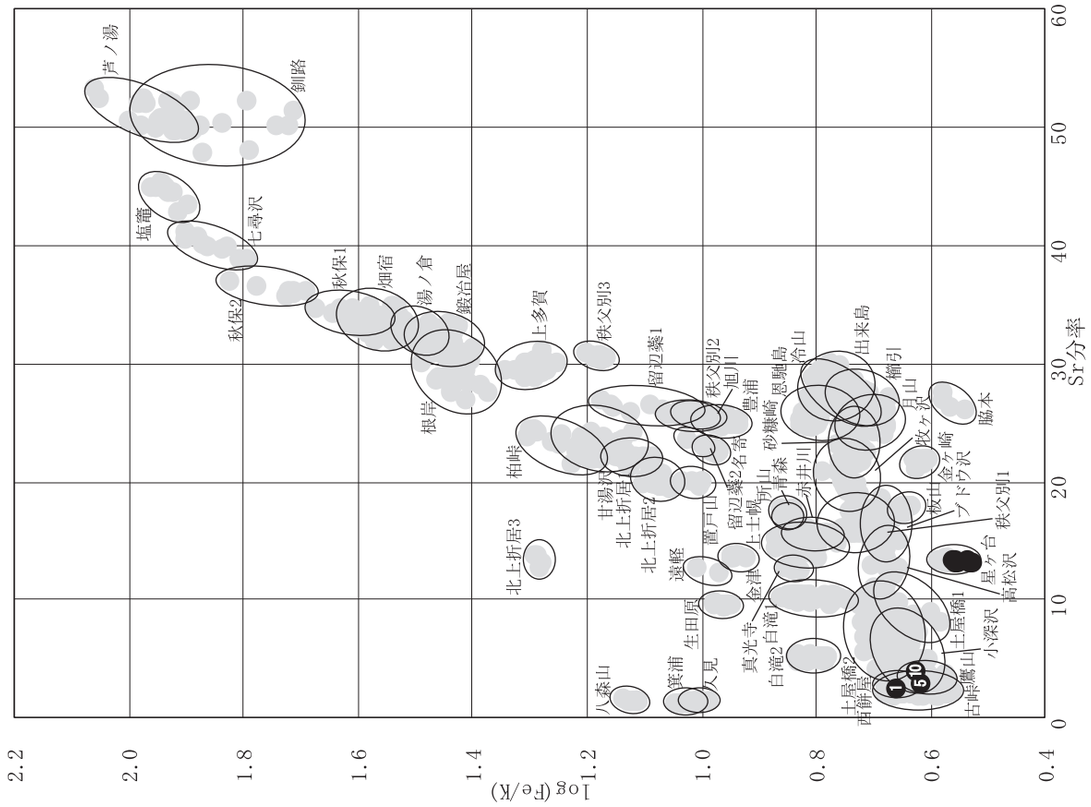
器種	和田				諏訪	合計
	西餅屋	小深沢	鷹山 or 小深沢	小計	星ヶ台	
石鏃		1	1	2		2
尖頭器	1			1		1
石核					4	4
原石					3	3
合計	1	1	1	3	7	10

第10表　測定値および産地推定結果

分析No.	K 強度 (cps)	Mn 強度 (cps)	Fe 強度 (cps)	Rb 強度 (cps)	Sr 強度 (cps)	Y 強度 (cps)	Zr 強度 (cps)	Rb 分率	$\frac{Mn*100}{Fe}$	Sr 分率	$\log\frac{Fe}{K}$	判別群	エリア	分析No.
1	253.1	146.4	1162.4	1584.2	77.4	645.2	720.3	52.34	12.60	2.56	0.66	西餅屋	和田	1
2	306.7	116.6	1046.5	832.6	321.1	438.4	868.9	33.83	11.15	13.05	0.53	星ヶ台	諏訪	2
3	229.2	89.6	834.8	632.3	247.1	333.7	651.0	33.92	10.73	13.26	0.56	星ヶ台	諏訪	3
4	292.6	113.3	1063.0	802.5	310.2	416.1	824.0	34.11	10.66	13.18	0.56	星ヶ台	諏訪	4
5	269.5	133.4	1115.7	1511.3	90.3	642.6	871.8	48.50	11.95	2.90	0.62	鷹山 or 小深沢	和田	5
6	342.9	128.4	1175.2	919.2	352.8	468.1	923.2	34.51	10.92	13.25	0.53	星ヶ台	諏訪	6
7	262.4	104.0	948.7	701.0	279.0	369.0	730.7	33.71	10.96	13.42	0.56	星ヶ台	諏訪	7
8	334.0	125.2	1194.5	892.9	338.8	455.3	907.6	34.41	10.49	13.06	0.55	星ヶ台	諏訪	8
9	309.0	113.4	1040.2	841.1	325.5	441.9	870.5	33.93	10.90	13.13	0.53	星ヶ台	諏訪	9
10	298.7	147.1	1262.5	1645.4	136.2	708.5	983.5	47.37	11.65	3.92	0.63	小深沢	和田	10



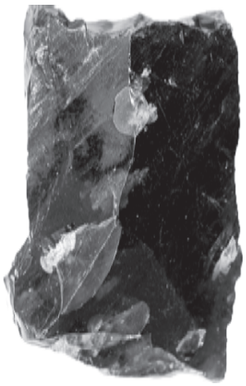
第47図　黒曜石製石器の産地推定判定図（１）



第48図　黒曜石製石器の産地推定判定図（２）

1

2

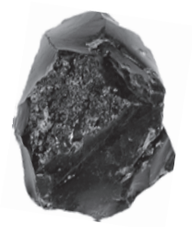


3

4

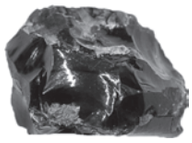
5

6

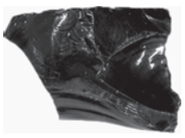


7

8



9



10

分析資料写真（分析№１～№10）

第２節　まとめ

第１項　棚下込山遺跡の火山灰

１　分析の目的

本遺跡では、発掘調査において「Hr-FP」と思われるテフラが確認された。この「Hr-FP」層下には黒ボク土が形成され、ローム漸移層を経てローム層に至っている。黒ボク土内及びローム層からは複数のテフラが確認され、基盤の礫層に至る。ローム層であるが、複数のテフラが混在する土層からなりたっており、二次的な堆積を繰り返しながら形成された可能性が高い。そこで、黒ボク土中に含まれるテフラの抽出、各降下テフラの年代的位置付けから想定されるローム層の成因等を明らかにすることを目的として前掲(前節第１項)の理化学的分析を実施した。また、理化学的分析とともに地質調査を行い各層の成因についても分析を行うこととした。

２　分析結果より明らかとなったこと

(１)検出されたテフラについて

今回の地質調査とテフラ分析によって、約3～2.8万年前に南九州の姶良カルデラから噴出した姶良Tn火山灰(AT)、約2.9～2.4万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group)、As-BP Group最下部の室田軽石(MP)、約1.65～1.5万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP)、約2.2万年前に浅間火山から噴出した浅間白糸軽石(As-Sr)と思われるテフラが検出された。他に、浅間大窪沢第１軽石(As-Ok1)が含まれている可能性が高いようである。また、縄文時代において浅間火山の噴火に由来する可能性が高い浅間六合軽石(As-Kn、約5,400年前)、あるいは浅間Ｄ軽石(As-D、約4,500年前)が検出された。これらのテフラの上位には６世紀中葉の榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP)が堆積することが確認された。

(２)ロームブロック層の年代と成因について

今回分析対象としたローム層は、通常当該地域で確認されるような、テフラ層を複数挟在する明色のいわゆるローム層が堆積している状態ではなかった。一方で、層相よりローム層に由来することは明らかであり、その成因が課題となった。ローム層中に混在するテフラは下位からAT、MP、As-BP、最上位にAs-Sr・As-Ok1が検出され、明瞭な一次堆積層はないものの、層位としては矛盾せず、ある程度年代的にまとまった状態でテフラが混在する状況が確認された。分析及び観察により、火山灰土の薄層を挟んでロームブロック層１～３が認められること、さらにこれら３層は、層相からいずれも火山灰土の地すべりの堆積物と推定されることがわかった。火山灰土の地すべりでは、さほど火山灰土が乱されずに移動することがあるようで、ここでも一度の地すべりにも関わらず、３度の地すべりが発生したように見えている可能性も否定できなかった。現状では地滑りが１回であったのか最大３回であったのかは確定できない。今後、周辺地域の地滑り層と関連させながら検討を加える必要がある。

なお、ロームブロック層の断面観察から、扁平な形をしたロームブロックが認められ、形状が地すべりの初期段階で形成された場合と、後で変形を受けてできた場合の可能性がある。前者は、層理面に沿ってローム層が移動して、扁平な形状のロームブロックが形成される可能性が指摘でき、後者の場合は堆積物からの脱水現象に伴うもので、震動にともなう液状化・流動化の際にも形成されたものと考えられる。

いずれにしても、今後、遺跡周辺でも露頭などで堆積物の調査研究が期待される。

第２項　縄文時代の石器

１　概要

石器については、遺物収納箱に換算して10箱分が出土した。この10箱分全点を対象として種別分類、器種分類、石材分類、報告書掲載遺物の選別を行った。

種別分類では、剥片石器、礫石器、礫、自然石に分類した。自然石とは、もともと地層中(地山)に含まれていた自然の石のことで、遺物に誤認され取り上げられたものである。

この結果、総数1,147点を石器に認定した。このうち、1,145点を縄文時代の石器(以下「縄文石器」という。)、２点を旧石器時代の石器(以下「旧石器」という。)と判定した。旧石器は、遺構覆土や縄文時代の遺物包含層(以下「縄文包含層」という。)からの出土で原位置を失っていた。

旧石器確認調査の結果、旧石器遺跡は確認できなかったため、これらの旧石器の本来の文化層の時期は特定できなかった。

また、縄文石器は遺構出土のものは少なく、大部分が縄文包含層からの出土であった。縄文包含層からは縄文土器も多数出土した。土器型式は、縄文前期の諸磯ａ式土器と縄文中期の加曽利E２式土器が主体であった。縄文石器と縄文土器は共伴関係にあるので、縄文石器はこれらの土器型式の時間幅の中に残された一括の石器群といえる。

石器については、剥片を含め全点を対象に１点ずつ登録番号を付して出土位置、器種、石材、大きさ(長さ･幅･厚さ・重量)、特徴などの各種属性を台帳記載して、表計算ソフトでデータベース化してから各種集計表で数値化しグラフで可視化した。

２　種別分類・器種分類・石材分類(第12～16表)

まず、種別分類を行った。剥片石器、礫石器、礫、自然石に分類した。なお、礫は焼礫や人為的に遺跡に運搬されてきた可能性が高いもの、自然石はもともと地層中に含まれていた自然の礫(主に小礫)のことで、発掘時に遺物に誤認されたものである。

次に、器種分類を種別分類と並行して行った。剥片石斧、剥片などに分類した。礫石器では、磨石、凹石、石皿などに分類した。点数を見ると、剥片石器では剥片が最も多く、以下打製石斧、石核、二次加工剥片、スクレイパーの順であった。礫石器では、磨石が最も多く、以下敲石、凹石、台石の順であった。

次に石材分類を行った。黒曜石、黒色頁岩、珪質頁岩、黒色安山岩、粗粒輝石安山岩、ホルンフェルスなど計６種類に分類した。なお、本報告でいう珪質頁岩とは黒色頁岩よりも珪化し暗灰色から灰色を呈した石材のことである。山形県など東北地方に産地を持つ硬質頁岩(チョコレート頁岩)、新潟県に産地を持つ珪質頁岩、長野県東部に産地を持つ駒込頁岩と推定される珪質頁岩は含まない。

３　石材組成と器種製作(第12,16表、第49～54図)

石材組成をみると、剥片石器では黒色頁岩が圧倒的に多く、以下、黒色安山岩、黒曜石の順であった。ほかの石材は60点以下であった。礫石器では、粗粒輝石安山岩が最も多く、以下、石英閃緑岩の順であった。ほかの石材は５点以下であった。

剥片石器の石材組成を点数で見ると、黒色頁岩が785点で全体の75％を占めた。黒色安山岩は、計85点8.1％と少なく黒色頁岩と著しい差が認められた。黒曜石は、64点６％であった。

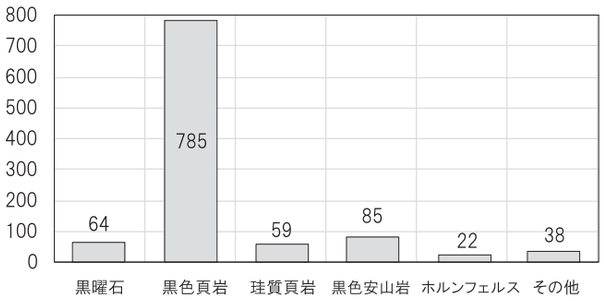
黒色頁岩では、剥片(648点)が大部分を占めた。ツールでは打製石斧(50点)が最も多く、以下スクレイパー、二次加工剥片であった。石核も32点で比較的多かった。一方、黒色頁岩製の石鏃は確認できなかった。

黒色安山岩では、石核とスクレイパーが少量確認されたほかは大部分が剥片であり、黒色安山岩製の打製石斧は確認できなかった。

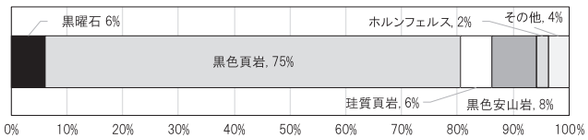
黒曜石では、原石の出土が注目される。黒曜石製原石

第12表　石材別集計表

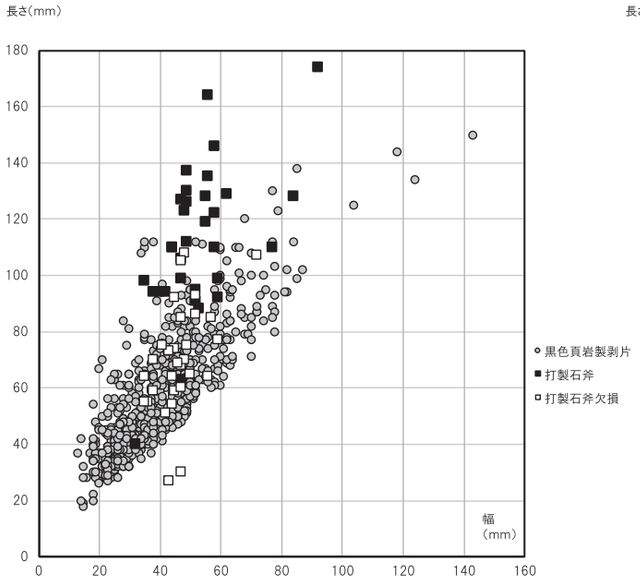
時代	石材（剥片石器）	点数	%	重量(g)	%
縄文	黒曜石	64	6%	554.5	1%
	黒色頁岩	785	75%	42,088.8	73%
	珪質頁岩	59	6%	2,738.3	5%
	黒色安山岩	85	8%	6,165.9	11%
	ホルンフェルス	22	2%	1,190.8	2%
	その他	38	4%	4,638.6	8%
総計		1053	100%	57,376.9	100%



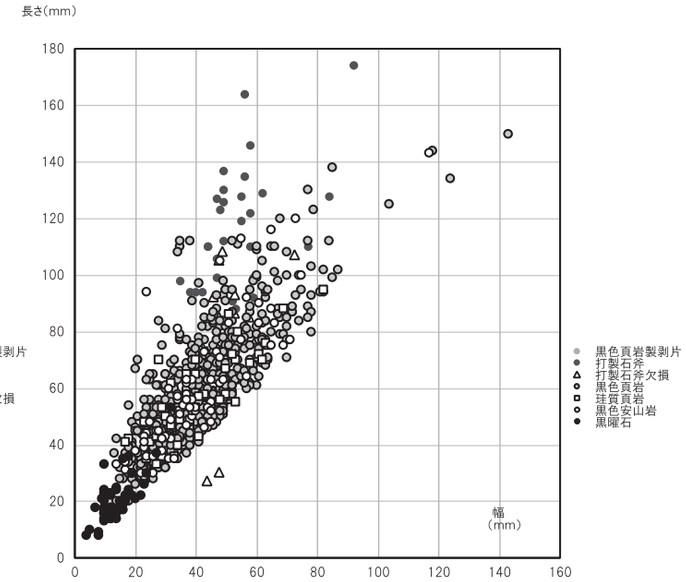
第49図　石材別点数グラフ



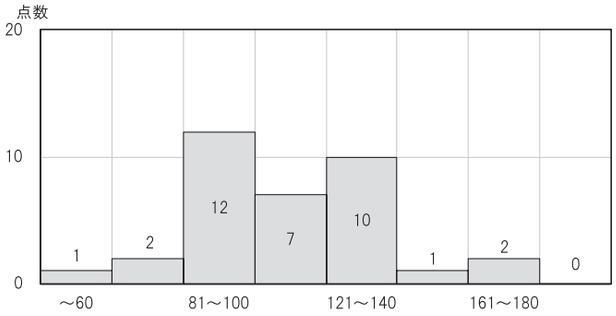
第50図　石材組成



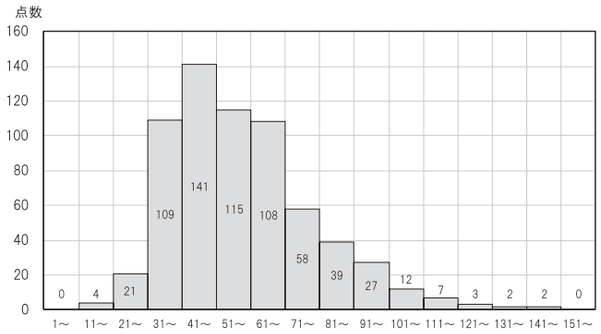
第51図　打製石斧と黒色頁岩製剥片の長幅散布図



第52図　剥片の石材別長幅散布図



第53図　打製石斧(完形)の長さ別ヒストグラム



第54図　黒色頁岩製剥片の長さ別ヒストグラム

は、長さ98㎜・59㎜・75㎜の比較的大型の計３点が確認された。石核も５点出土した。黒曜石製原石は、剥離や分割の痕跡のない亜角礫の原石状態で、遺跡に廃棄されていたことを加味すると、埋納(キャッシュ)された遺物の可能性も考えられる。

器種別にみると、石鏃は計５点で４点が黒曜石製、１点が珪質頁岩製であり、黒色頁岩製や黒色安山岩製は確認できなかった。石鏃製作では主に黒曜石が選択して利用されたといえる。

黒曜石製剥片は51点確認された。ほとんどが20㎜以下の小型剥片で、これらは石鏃製作に伴う調整剥片や石鏃の素材剥片と推定される。しかし、石鏃を含む黒曜石の全点数の少なさから見て、本遺跡の石鏃製作は小規模であったといえる。

打製石斧は、計64点で、大部分が黒色頁岩製でほかに珪質頁岩製、ホルンフェルスや細粒輝石安山岩製が少量確認された。黒色安山岩製は確認できなかった。

打製石斧製作では黒色頁岩を利用、石鏃製作では黒曜石を利用というように、特定の器種と石材に密接な結び付きが認められ、器種製作に応じて石材を選択し使い分けていたことが考えられる。黒色頁岩も黒色安山岩も遺跡近くの利根川で採取可能であるが、打製石斧の製作では黒色頁岩を意図的に選択していたと考えられる。

また、打製石斧には自然面を持つもの、大型横長剥片を素材としたものが多数確認された。また、黒色頁岩製の剥片と打製石斧の長さを比較すると、剥片は打製石斧

の長さよりも小型のものが大部分で、打製石斧の長さを上回るものは少ないことが判明した(第49～54図)。大型横長剥片の剥離痕跡を持つ石核も確認できなかった。したがって、黒色頁岩製剥片は打製石斧整形時に生じた調整剥片で、遺跡外で剥離した打製石斧素材大型剥片を遺跡内に搬入して、調整加工して打製石斧を製作していたと考えられる。また、摩耗痕を持つ打製石斧、破損した打製石斧も認められるので、打製石斧は遺跡内で使用し再加工を繰り返した後に廃棄されたと考えられる。

4　石材環境

本遺跡は、利根川左岸の赤城山西麓裾野末端部の丘陵地に立地している。傾斜の著しい斜面地形である。利根川は、本遺跡付近では赤城山西麓と子持山東麓の間を蛇行しながら渓谷と河岸段丘を形成して流れている。本遺跡から西側の利根川まで最短距離で約100mである、

黒色頁岩や黒色安山岩などの剥片石器には、河川礫と同じ円磨度の自然面を持つ石器が多数確認された。また、磨石、凹石、石皿などの礫石器も円磨度が進んだ円礫素材であった。これらの石器の素材となった円礫は河川礫を利用したもので、遺跡近くを流れる利根川で採取されたと考えられる。現在、本遺跡西側を流れる利根川の流路は、縄文時代も大きな違いはないと考えられる。遺跡の西方約100mに位置する利根川で採取するには、最短ルートでは綾戸橋付近に断崖が続くため、ここから河原への接近は難しいが、綾戸橋から200mも下流に行けば開けた河原に接近できる。

利根川では、上流の赤谷層に産地を持つ黒色頁岩、武尊山に産地を持つ黒色安山岩をはじめ、珪質頁岩、粗粒輝石安山岩、細粒輝石安山岩などの各種石材が採取可能である。利根川のすぐ近くに立地した本遺跡は石材資源環境に恵まれ、特に旧石器・縄文時代の剥片石器の製作に多く利用された黒色頁岩と黒色安山岩の二大石材の採取に恵まれた遺跡といえる。しかし、石材利用をみると打製石斧製作では黒色頁岩に特化していた。現在のわれわれの目からすると黒色頁岩も黒色安山岩も打ち割り時の剥離面が両方とも黒色を呈しよく似ている印象を持つが、本遺跡を残した縄文人は二つの石材の石質の違いをきちんと見極めて、より打製石斧に適した石材として黒色頁岩を意図的に選択していたのである。

第13表　黒曜石産地分析一覧

時代	判別群	尖頭器	石鏃	石核	原石	二次加工剥片	剥片	合計
旧石器	西餅屋	1						1
縄文	星ヶ台			4	3			7
	小深沢		1					1
	鷹山 or 小深沢		1					1
分析計			2	4	3			10
未分析計			2	1		1	51	55
黒曜石総計		1	4	5	3	1	51	65

5　黒曜石産地推定分析(第13表)

黒曜石は、旧石器・縄文石器を含めて全部で65点出土し、このうち10点(分析率15％)を産地分析した(分析の詳細は前節参照)。内訳は、尖頭器１点(旧石器)、石鏃２点、石核４点、原石３点である。石器製作の原料となった石核と原石を主体的に分析し、二次加工剥片と剥片は分析対象外とした。

分析結果は、７点が諏訪エリア、３点が和田エリアで、すべて長野県産黒曜石であった。判別群については、尖頭器が西餅屋１点、石鏃が小深沢１点と鷹山or小深沢１点、石核が４点とも星ヶ台、原石が３点とも星ヶ台であった。このように分析した黒曜石のうち70％が諏訪エリアの黒曜石であった。

諏訪・和田エリアは長野県下諏訪町から長和町に広がる黒曜石産地で、利根川・吾妻川合流点よりも以北に立地する本遺跡から見て、南西方向に約90㎞離れた山岳部に位置している。諏訪・和田エリアで採取された黒曜石は東方へと運搬され、その後太平洋側地域と中部高地との分水嶺となる群馬・長野県境の山岳部及び吾妻川源流部の鳥居峠を越えて吾妻川流域を通って、本遺跡まで運搬されてきた可能性が推定される。

本遺跡の黒曜石産地分析結果は、長野県の諏訪・和田エリアの黒曜石産地と消費地である赤城山西麓地域・利根川上流地域の縄文遺跡とを結ぶ黒曜石運搬ルートを推定するための貴重なデータを提供できたといえる。

第14表　石器集計表（掲載点数）

時代	掲載	剥片石器　計　1055　点															礫石器　計　92　点								
		尖頭器	石刃	石槍	石鏃	石匙	楔形石器	スクレイパー	へら状石器	打製石斧	磨製石斧	石核	原石	二次加工剥片	剥片	小計	磨石	凹石	敲石	石皿	台石	砥石	礫器	小計	総計
旧石器	掲載	1	1													2									2
縄文	掲載			1	2	1	1	16	1	34	2	19	3			80	14	10	14	3	4	1	2	48	128
	未掲載				3			15	1	30	1	29		40	854	973	23	3	15		3			44	1017
	総計	1	1	1	5	1	1	31	2	64	3	48	3	40	854	1055	37	13	29	3	7	1	2	92	1147

第15表　石器集計表（遺構別）

時代	出土位置	剥片石器　計　1055　点															礫石器　計　92　点								
		尖頭器	石刃	石槍	石鏃	石匙	楔形石器	スクレイパー	へら状石器	打製石斧	磨製石斧	石核	原石	二次加工剥片	剥片	小計	磨石	凹石	敲石	石皿	台石	砥石	礫器	小計	総計
旧石器	１区中２面		1													1									1
	１区遺構外	1														1									1
縄文	１区２面遺構外									1		1			6	8									8
	１区６号土坑														1	1									1
	１区７号土坑														5	5		1	1					2	7
	１区37号土坑														1	1									1
	１区38号土坑														1	1									1
	１区45号土坑														1	1									1
	１区46号土坑														3	3									3
	１区47号土坑							1								1									1
	１区50号土坑														1	1									1
	１区52号土坑														2	2									2
	１区54号土坑														1	1									1
	１区60号土坑							1		1					3	5	1							1	6
	１区61号土坑														1	1									1
	１区62号土坑							1		1		2			6	10			1					1	11
	１区64号土坑											1				1									1
	１区65号土坑											1				1					1			1	2
	１区66号土坑														1	1			1					1	2
	１区67号土坑									1						1	2		1					3	4
	１区70号土坑					1										1									1
	１区71号土坑											1			1	2	1				1			2	4
	１区73号土坑							1		2					19	22					1			1	23
	１区北端１面									3		4		1	34	42	3	2	2					7	49
	１区北端２面							1		2				1	16	20	2		1					3	23
	１区１面											1		1		2	1	1						2	4
	１区２面							5		13						18									18
	１区一括									1					10	11									11
	１区中１面														2	2									2
	１区中２面							1		1		2		3	53	60	1	3						4	64
	１区南２面							1							2	3									3
	１区北１面														6	6									6
	１区北２面			3	1		1	11	1	18	1	26		21	492	575	9	5	6	1	4			25	600
	１区北３面							5		5		9		12	186	217	17	1	16	1				35	252
	１区遺構外			2				3	1	15	2		3	1		27				1		1	2	4	31
	総計	1	1	5	1	1	1	31	2	64	3	48	3	40	854	1055	37	13	29	3	7	1	2	92	1147

第16表　石器集計表（器種別・石材別）

時代	出土位置	剥片石器　計　1055　点															礫石器　計　92　点								
		尖頭器	石刃	石槍	石鏃	石匙	楔形石器	スクレイパー	へら状石器	打製石斧	磨製石斧	石核	原石	二次加工剥片	剥片	小計	磨石	凹石	敲石	石皿	台石	砥石	礫器	小計	総計
旧石器	黒曜石	1														1									1
	黒色頁岩		1													1									1
縄文	黒曜石			4								5	3	1	51	64									64
	黒色頁岩					1	1	19	2	50		32		32	648	785			2					2	787
	珪質頁岩			1	1			2		6		2		4	43	59									59
	黒色安山岩							7				5			73	85									85
	ホルンフェルス							2		2					18	22							2	2	24
	チャート														3	3									3
	蛇紋岩										2				1	3									3
	赤碧玉							1							2	3									3
	粗粒輝石安山岩									1		1			1	3	19	10	14	2	2	1		48	51
	細粒輝石安山岩									5		1		2	3	11	1		1	1	1			4	15
	石英閃緑岩																14	2	7		3			26	26
	変玄武岩										1			1	6	8									8
	花崗岩																2	1	1					4	4
	溶結凝灰岩														1	1			1					1	2
	砂岩														2	2	1		1					2	4
	泥岩														1	1									1
	流紋岩											1				1									1
	珪化木														1	1									1
	石英											1				1									1
	礫岩																		2		1			3	3
	総計	1	1	5	1	1	1	31	2	64	3	48	3	40	854	1055	37	13	29	3	7	1	2	92	1147

時代	出土位置	剥片石器　計　1055　点															礫石器　計　92　点								
		尖頭器	石刃	石槍	石鏃	石匙	楔形石器	スクレイパー	へら状石器	打製石斧	磨製石斧	石核	原石	二次加工剥片	剥片	小計	磨石	凹石	敲石	石皿	台石	砥石	礫器	小計	総計
旧石器	黒曜石	3.6														3.6									3.6
	黒色頁岩		5.4													5.4									5.4
縄文	黒曜石			3.0								54.6	418.9	3.1	74.9	554.5									554.5
	黒色頁岩					10.4	79.3	1,662.4	97.1	4,926.4		10,006.9		2,744.0	22,562.3	42,088.8			471.3					471.3	42,560.1
	珪質頁岩			0.9	11.9			146.9		627.5		494.6		239.6	1,216.9	2,738.3									2,738.3
	黒色安山岩							792.1				1,777.0			3,596.8	6,165.9									6,165.9
	ホルンフェルス							279.5		294.4					616.9	1,190.8							1,863.5	1,863.5	3,054.3
	チャート														11.6	11.6									11.6
	蛇紋岩										364.1				11.6	375.7									375.7
	赤碧玉							45.1							18.4	63.5									63.5
	粗粒輝石安山岩									59.9		162.1			84.6	306.6	9,027.7	7,406.9	10,086.1	3,694.7	3,361.1	555.7		34,132.2	34,438.8
	細粒輝石安山岩									1,261.3		350.5		391.0	271.9	2,274.7	417.5		296.4	1,813.4	2,080.1			4,607.4	6,882.1
	石英閃緑岩																7,848.2	1,383.8	3,225.0		5,353.1			17,810.1	17,810.1
	変玄武岩										2.9			93.6	1,218.2	1,314.7									1,314.7
	花崗岩																1,494.8	358.6	951.6					2,805.0	2,805.0
	溶結凝灰岩														16.0	16.0			1,379.7					1,379.7	1,395.7
	砂岩														77.2	77.2	492.1		556.4					1,048.5	1,125.7
	泥岩														7.3	7.3									7.3
	流紋岩											169.7				169.7									169.7
	珪化木														0.7	0.7									0.7
	石英											20.9				20.9									20.9
	礫岩																		703.8		2,194.6			2,898.4	2,898.4
	総計	3.6	5.4	3.9	11.9	10.4	79.3	2,926.0	97.1	7,169.5	367.0	13,036.3	418.9	3,471.3	29,785.3	57,385.9	19,280.3	9,149.3	17,670.3	5,508.1	12,988.9	555.7	1,863.5	67,016.1	124,402.0

第17表　石器一覧表

No.	掲載番号	石器登録番号	出土位置	取上番号	種別	器種	石材	産地分析	残存率	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
1	189	10001	１区２面		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		欠損	55	36	15	38.2	
2		10002	１区２面		剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	65	32	20	44.4	
3	8	10003	１区60号土坑	5	剥片石器	スクレイパー	黒色頁岩		完形	88	56	17	98.2	
4	9	10004	１区60号土坑	6	剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		完形	128	84	55	704.2	未成品
5	10	10005	１区60号土坑	7	礫石器	磨石	花崗岩		完形	142	115	57	1262.9	
6	15	10006	１区62号土坑		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		欠損	54	44	17	45.2	
7	14	10007	１区62号土坑	4	剥片石器	スクレイパー	黒色頁岩		完形	74	82	21	113	
8	16	10008	１区62号土坑	2	剥片石器	石核	珪質頁岩		完形	105	77	50	439.9	
9		10009	１区62号土坑	5	剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	53	59	18	74.4	
10	17	10010	１区62号土坑	6	礫石器	敲石	黒色頁岩		完形	108	63	46	394.1	
11		10011	１区64号土坑		剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	79	82	44	259.3	
12		10012	１区65号土坑	2	剥片石器	石核	粗粒輝石安山岩		完形	56	53	39	162.1	
13	21	10013	１区65号土坑	3	礫石器	台石	粗粒輝石安山岩		完形	161	114	67	1715.6	
14		10014	１区66号土坑		礫石器	敲石	粗粒輝石安山岩		完形	93	84	56	591.0	
15	23	10015	１区67号土坑		礫石器	磨石	粗粒輝石安山岩		完形	145	95	36	804.8	
16		10016	１区67号土坑		礫石器	磨石	粗粒輝石安山岩		完形	125	76	43	592.1	
17	22	10017	１区67号土坑	1	剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		完形	91	52	10	46.1	
18		10018	１区67号土坑	2	礫石器	敲石	黒色頁岩		完形	99	25	21	77.2	
19	25	10019	１区70号土坑		剥片石器	石匙	黒色頁岩		完形	46	47	5	10.4	
20	28	10020	１区71号土坑	3	剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	177	115	85	2065.4	
21	29	10021	１区71号土坑		礫石器	磨石	粗粒輝石安山岩		完形	100	71	57	582.8	
22		10022	１区71号土坑		礫石器	台石	粗粒輝石安山岩		完形	233	82	53	1645.5	
23		10023	１区73号土坑		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		欠損	59	38	19	55.6	
24		10024	１区73号土坑		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		完形	40	32	9	13.7	
25		10025	１区73号土坑		剥片石器	スクレイパー	黒色安山岩		完形	76	72	15	119.0	
26		10026	１区73号土坑		礫石器	台石	細粒輝石安山岩		完形	186	106	70	2080.1	
27		10027	１区47号土坑		剥片石器	スクレイパー	黒色頁岩		完形	72	56	21	74.4	
28		10028	１区遺構外	3	剥片石器	打製石斧	細粒輝石安山岩		欠損	107	72	29	262.1	
29		10029	１区遺構外	6	剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		欠損	108	48	19	94.5	
30		10030	１区１面		剥片石器	石核	黒曜石	未分析	完形	26	24	13	6.2	
31		10031	１区１面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	58	78	18	74.5	
32	238	10032	１区１面	1	礫石器	凹石	粗粒輝石安山岩		完形	138	96	52	1018.4	
33	251	10033	１区１面	2	礫石器	磨石	石英閃緑岩		完形	199	109	41	1414.5	
34		10034	１区遺構外	7	剥片石器	石鏃	珪質頁岩		完形	19	12	5	0.9	
35	170	10035	１区遺構外	120	剥片石器	尖頭器	黒曜石	西餅屋	完形	38	19	4	3.6	分析
36		10036	１区遺構外	4	剥片石器	スクレイパー	黒色頁岩		完形	69	67	15	82.3	
37		10037	１区遺構外	5	剥片石器	スクレイパー	黒色頁岩		完形	52	69	19	79.7	
38		10038	１区２面	51	剥片石器	スクレイパー	黒色頁岩		完形	32	65	10	21.5	
39	64	10039	１区２面包含層	59	剥片石器	スクレイパー	黒色頁岩		完形	85	69	35	220.7	
40		10040	１区２面	70	剥片石器	スクレイパー	黒色頁岩		完形	58	63	17	70.3	
41		10041	１区２面	76	剥片石器	スクレイパー	黒色頁岩		完形	51	61	9	24.7	
42	180	10042	１区２面	97	剥片石器	スクレイパー	ホルンフェルス		完形	73	50	27	98.5	
43	187	10043	１区遺構外	115	剥片石器	スクレイパー	黒色頁岩		完形	100	101	34	296.1	
44		10044	１区遺構外	105	剥片石器	へら状石器	黒色頁岩		完形	77	62	20	89.0	
45	68	10045	１区２面包含層	36	剥片石器	打製石斧	珪質頁岩		完形	146	58	21	184.9	
46		10046	１区２面	37	剥片石器	打製石斧	細粒輝石安山岩		欠損	77	59	21	112.1	
47		10047	１区２面	38	剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		欠損	68	47	21	69.8	
48		10048	１区２面	63	剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		欠損	55	35	13	34.5	
49	193	10049	１区２面	69	剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		完形	94	38	16	67.9	
50		10050	１区２面	71	剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		欠損	86	52	17	93.0	
51	65	10051	１区２面包含層	78	剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		欠損	93	52	19	126.2	
52		10052	１区２面	79	剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		欠損	65	50	19	65.0	
53	201	10053	１区遺構外	84	剥片石器	打製石斧	ホルンフェルス		完形	126	49	22	175.6	
54	67	10054	１区２面包含層	85	剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		完形	122	58	23	158.4	
55	66	10055	１区２面包含層	86	剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		完形	123	48	21	116.0	
56		10056	１区２面	87	剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		欠損	105	47	24	130.3	
57		10057	１区遺構外	95	剥片石器	打製石斧	細粒輝石安山岩		欠損	85	57	37	222.6	
58	206	10058	１区遺構外	98	剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		完形	137	49	25	127.9	
59	195	10059	１区２面	99	剥片石器	打製石斧	珪質頁岩		完形	110	44	16	78.0	
60		10060	１区遺構外	102	剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		欠損	70	48	19	68.1	

No.	掲載番号	石器登録番号	出土位置	取上番号	種別	器種	石材	産地分析	残存率	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
61	197	10061	1区遺構外	109	剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		完形	110	44	18	83.2	
62	204	10062	1区２面	112	剥片石器	打製石斧	ホルンフェルス		完形	135	56	14	118.8	
63	216	10063	1区遺構外	121	剥片石器	磨製石斧	蛇紋岩		完形	83	48	25	162.0	
64	219	10064	1区遺構外	113	礫石器	礫器	ホルンフェルス		完形	142	116	59	1002.5	
65	218	10065	1区遺構外	114	礫石器	礫器	ホルンフェルス		完形	144	82	57	861.0	
66	69	10066	1区北２面包含層	39	剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	69	85	50	286.7	
67		10067	1区北２面	46	剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	59	46	24	81.6	
68	71	10068	1区北２面包含層	53	剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	114	81	62	396.9	
69		10069	1区北２面	60	剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	91	85	33	184.7	
70	70	10070	1区北２面包含層	61	剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	89	80	35	219.8	
71		10071	1区北２面	65	剥片石器	石核	流紋岩		完形	66	75	27	169.7	
72	229	10072	1区北２面	67	剥片石器	石核	細粒輝石安山岩		完形	116	90	30	350.5	
73		10073	1区北２面	68	剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	72	103	42	266.5	
74		10074	1区遺構外	108	剥片石器	二次加工剥片	細粒輝石安山岩		完形	90	66	28	135.1	
75	72	10075	1区北２面包含層	82	礫石器	凹石	粗粒輝石安山岩		完形	116	79	52	673.5	
76	73	10076	1区北２面包含層		礫石器	敲石	粗粒輝石安山岩		完形	101	59	35	319.5	
77	266	10077	1区遺構外	119	礫石器	石皿	粗粒輝石安山岩		欠損	167	209	64	2656.4	
78	271	10078	1区遺構外	116	剥片石器	原石	黒曜石	星ヶ台	完形	59	37	25	66.8	分析
79	272	10079	1区遺構外	117	剥片石器	原石	黒曜石	星ヶ台	完形	75	37	16	46.7	分析
80	273	10080	1区遺構外	118	剥片石器	原石	黒曜石	星ヶ台	完形	98	77	33	305.4	分析
81	171	10081	1区北２面	8	剥片石器	石鏃	黒曜石	鷹山 or 小深沢	完形	17	17	2	0.4	分析
82		10082	1区北２面		剥片石器	石鏃	黒曜石	未分析	完形	21	17	5	1.6	未成品
83		10083	1区北２面		剥片石器	石鏃	黒曜石	未分析	完形	15	12	2	0.4	未成品
84	173	10084	1区北２面		剥片石器	石槍	珪質頁岩		欠損	58	21	9	11.9	
85	174	10085	1区北２面		剥片石器	楔形石器	黒色頁岩		完形	70	45	17	79.3	
86	176	10086	1区北２面		剥片石器	スクレイパー	黒色安山岩		完形	59	55	19	54.6	
87	177	10087	1区北２面		剥片石器	スクレイパー	赤碧玉		完形	76	45	17	45.1	
88		10088	1区北２面		剥片石器	スクレイパー	黒色頁岩		欠損	52	30	9	15.1	
89		10089	1区北２面		剥片石器	スクレイパー	黒色頁岩		完形	84	58	10	58.8	
90	196	10090	1区北２面		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		完形	106	47	25	117.8	
91	205	10091	1区北２面		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		完形	129	62	29	255.6	
92	202	10092	1区北２面		剥片石器	打製石斧	珪質頁岩		完形	130	49	27	150.8	
93	198	10093	1区北２面		剥片石器	打製石斧	珪質頁岩		完形	112	49	17	98.8	
94	214	10094	1区北２面		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		完形	110	77	23	186.8	
95		10095	1区北２面		剥片石器	打製石斧	粗粒輝石安山岩		欠損	59	45	19	59.9	
96		10096	1区北２面		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		欠損	75	49	20	92.6	
97		10097	1区北２面		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		欠損	64	35	13	37.0	
98		10098	1区北２面		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		欠損	30	47	16	24.4	
99		10099	1区北２面		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		欠損	69	46	13	49.2	
100		10100	1区北２面		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		欠損	27	43	14	21.6	
101		10101	1区中２面		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		欠損	74	45	17	72.8	
102		10102	1区北２面		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		欠損	73	43	13	40.2	
103		10103	1区北２面		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		欠損	60	47	12	42.0	
104		10104	1区北２面		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		欠損	51	42	16	36.0	
105		10105	1区北２面		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		欠損	75	41	18	74.5	
106		10106	1区北２面		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		欠損	70	38	14	52.9	
107		10107	1区北２面		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		欠損	85	47	17	83.8	
108		10108	1区北２面		剥片石器	打製石斧	細粒輝石安山岩		欠損	64	56	15	60.6	
109	175	10109	1区北２面		剥片石器	へら状石器	黒色頁岩		完形	53	22	6	8.1	
110	223	10110	1区北２面		剥片石器	石核	黒曜石	星ヶ台	完形	32	23	18	16.5	分析
111	225	10111	1区北２面		剥片石器	石核	黒曜石	星ヶ台	完形	27	36	13	10.2	分析
112	221	10112	1区北２面		剥片石器	石核	黒曜石	星ヶ台	完形	20	28	18	13.6	分析
113	220	10113	1区北２面		剥片石器	石核	黒曜石	星ヶ台	完形	21	26	18	8.1	分析
114		10114	1区北２面		剥片石器	二次加工剥片	細粒輝石安山岩		完形	141	83	25	255.9	
115		10115	1区北２面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	63	65	18	80.5	
116		10116	1区北２面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		欠損	51	42	9	24.4	
117		10117	1区北２面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	55	75	21	99.3	
118		10118	1区北２面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		欠損	38	63	13	34.1	
119		10119	1区北２面		剥片石器	二次加工剥片	黒曜石	未分析	完形	20	22	8	3.1	
120		10120	1区北２面		剥片石器	二次加工剥片	珪質頁岩		完形	86	53	15	107.7	
121		10121	1区北２面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		欠損	87	37	17	72.4	

No.	掲載番号	石器登録番号	出土位置	取上番号	種別	器種	石材	産地分析	残存率	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
122	234	10122	１区北２面		礫石器	凹石	粗粒輝石安山岩		完形	110	87	47	627.8	
123	232	10123	１区北２面		礫石器	凹石	粗粒輝石安山岩		完形	87	81	47	495.5	
124	247	10124	１区北２面		礫石器	磨石	粗粒輝石安山岩		完形	117	88	46	688.2	
125	249	10125	１区北２面		礫石器	磨石	石英閃緑岩		完形	107	76	38	444.1	
126	241	10126	１区北２面		礫石器	磨石	粗粒輝石安山岩		完形	50	48	40	118.4	
127	243	10127	１区北２面		礫石器	磨石	石英閃緑岩		完形	90	75	33	304.4	
128	244	10128	１区北２面		礫石器	磨石	石英閃緑岩		欠損	99	69	55	464.3	
129	264	10129	１区北２面		礫石器	石皿	粗粒輝石安山岩		完形	124	108	49	1038.3	
130		10130	１区北２面	83	礫石器	磨石	粗粒輝石安山岩		完形	142	85	40	768.2	
131		10131	１区北２面		礫石器	磨石	粗粒輝石安山岩		完形	107	101	49	611.3	
132		10132	１区北２面		礫石器	磨石	粗粒輝石安山岩		完形	52	35	29	69.5	
133		10133	１区北２面		礫石器	磨石	粗粒輝石安山岩		完形	87	76	23	223.3	
134	254	10134	１区北２面		礫石器	敲石	粗粒輝石安山岩		完形	99	60	39	328.0	
135	257	10135	１区北２面		礫石器	敲石	粗粒輝石安山岩		完形	127	66	40	536.0	
136		10136	１区北２面		礫石器	敲石	砂岩		完形	108	65	52	556.4	
137		10137	１区北２面		礫石器	敲石	石英閃緑岩		完形	117	67	55	612.7	
138	267	10138	１区北２面	81	礫石器	台石	礫岩		完形	166	159	53	2194.6	
139	268	10139	１区北２面		礫石器	台石	石英閃緑岩		完形	180	157	40	1796.5	
140	182	10140	１区北２面		剥片石器	スクレイパー	黒色頁岩		完形	86	43	16	55.0	
141	185	10141	１区北２面		剥片石器	スクレイパー	黒色頁岩		完形	82	77	27	193.6	
142		10142	１区北２面		剥片石器	スクレイパー	黒色頁岩		完形	70	52	13	58.1	
143		10143	１区北２面		剥片石器	スクレイパー	黒色頁岩		完形	68	41	9	23.9	
144		10144	１区北２面		剥片石器	磨製石斧	変玄武岩		欠損	22	28	4	2.9	
145	224	10145	１区北２面		剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	52	94	55	303.8	
146	227	10146	１区北２面		剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	82	82	48	286.7	
147		10147	１区北２面		剥片石器	石核	黒色安山岩		完形	65	41	23	57.2	
148		10148	１区北２面		剥片石器	石核	珪質頁岩		完形	45	38	21	54.7	
149		10149	１区北２面		剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	90	89	44	323.8	
150		10150	１区北２面		剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	76	64	23	117.8	
151		10151	１区北２面		剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	63	54	35	120.3	
152		10152	１区北２面		剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	102	69	46	358.9	
153		10153	１区北２面		剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	69	86	49	269.7	
154		10154	１区北２面		剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	54	50	22	43.5	
155		10155	１区北２面		剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	41	73	38	93.3	
156		10156	１区北２面		剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	83	121	48	445.6	
157		10157	１区北２面		剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	58	70	37	188.8	
158		10158	１区北２面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	94	73	21	132.4	
159		10159	１区北２面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	44	53	14	37.5	
160		10160	１区北２面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	37	31	7	10.6	
161		10161	１区北２面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	69	66	11	55.7	
162		10162	１区北２面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	47	71	8	26.3	
163		10163	１区北２面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	101	100	26	338.8	
164		10164	１区北２面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	62	69	23	87.1	
165		10165	１区北２面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	45	49	13	26.0	
166		10166	１区北２面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	84	61	28	150.9	
167		10167	１区北２面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	63	62	22	58.6	
168		10168	１区北２面		剥片石器	二次加工剥片	珪質頁岩		完形	73	47	11	29.8	
169		10169	１区北２面		剥片石器	二次加工剥片	珪質頁岩		欠損	49	50	17	48.8	
170		10170	１区北２面		剥片石器	二次加工剥片	変玄武岩		完形	84	54	21	93.6	
171	172	10171	１区遺構外	126	剥片石器	石鏃	黒曜石	小深沢	完形	18	14	4	0.6	分析
172	179	10172	１区北３面		剥片石器	スクレイパー	珪質頁岩		完形	70	46	15	40.1	
173	186	10173	１区北３面		剥片石器	スクレイパー	黒色安山岩		完形	104	65	21	133.3	
174	181	10174	１区北３面		剥片石器	スクレイパー	黒色安山岩		完形	60	65	16	67.9	
175	178	10175	１区北３面		剥片石器	スクレイパー	黒色安山岩		完形	69	40	14	45.0	
176	183	10176	１区北３面		剥片石器	スクレイパー	黒色安山岩		完形	89	60	20	107.1	
177	212	10177	１区遺構外	127	剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		完形	92	59	15	83.7	
178	211	10178	１区北３面		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		完形	99	47	15	62.4	
179	194	10179	１区北３面		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		完形	98	35	19	71.3	
180	213	10180	１区北３面		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		完形	99	59	19	119.0	
181	208	10181	１区遺構外	133	剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		完形	127	47	22	119.3	
182	210	10182	１区遺構外	129	剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		完形	88	53	18	87.7	

No.	掲載番号	石器登録番号	出土位置	取上番号	種別	器種	石材	産地分析	残存率	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
183	192	10183	1区遺構外	136	剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		完形	91	52	19	101.1	
184	209	10184	1区遺構外	134	剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		完形	95	52	25	128.0	
185	199	10185	1区遺構外	130	剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		完形	110	58	19	131.1	
186	191	10186	1区北3面		剥片石器	打製石斧	珪質頁岩		完形	94	40	10	34.9	
187	215	10187	1区遺構外	135	剥片石器	打製石斧	細粒輝石安山岩		完形	174	92	40	603.9	
188		10188	1区北3面		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		完形	63	47	19	67.7	
189	217	10189	1区遺構外	123	剥片石器	磨製石斧	蛇紋岩		欠損	99	53	24	202.1	
190	226	10190	1区北3面		剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	72	89	57	439.2	
191		10191	1区北3面		剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	63	54	39	121.3	
192	274	10192	1区北3面		剥片石器	石核	黒色安山岩		完形	101	60	38	175.6	接合資料11134、11135と接合
193		10193	1区北3面		剥片石器	石核	黒色安山岩		完形	89	55	25	133.3	
194		10194	1区北3面		剥片石器	石核	石英		完形	25	41	23	20.9	
195		10195	1区北3面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	60	30	15	23.7	
196		10196	1区北3面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	49	51	9	28.9	
197		10197	1区北3面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	56	54	14	53.1	
198		10198	1区北3面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	58	36	10	17.7	
199		10199	1区北3面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	69	76	28	155.8	
200		10200	1区北3面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	47	39	17	32.7	
201	253	10201	1区北3面		礫石器	敲石	粗粒輝石安山岩		完形	99	60	39	312.2	
202	270	10202	1区遺構外	137	礫石器	砥石	粗粒輝石安山岩		欠損	133	60	40	555.7	
203	275	10203	1区北3面		剥片石器	石核	黒色安山岩		完形	68	83	43	265.8	11136と接合
204	230	10204	1区北3面		剥片石器	石核	黒色安山岩		完形	154	95	66	1145.1	
205		10205	1区北3面		剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	90	55	41	166.5	
206		10206	1区北3面		剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	76	57	41	144.7	
207		10207	1区北3面		剥片石器	二次加工剥片	珪質頁岩		完形	63	60	21	53.3	
208		10208	1区北3面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	44	101	23	97.3	
209		10209	1区北3面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	57	79	35	130.2	
210		10210	1区北3面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	65	73	17	72.7	
211		10211	1区北3面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	68	60	23	107.5	
212		10212	1区北3面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	113	66	21	169.7	
213		10213	1区北3面		礫石器	凹石	石英閃緑岩		完形	104	76	45	505.0	
214	248	10214	1区北3面		礫石器	磨石	石英閃緑岩		完形	116	77	36	534.8	
215	245	10215	1区北3面		礫石器	磨石	粗粒輝石安山岩		完形	101	82	53	627.7	
216	242	10216	1区北3面		礫石器	磨石	粗粒輝石安山岩		完形	65	57	37	169.0	
217		10217	1区北3面		礫石器	磨石	石英閃緑岩		完形	94	70	57	533.2	
218		10218	1区北3面		礫石器	磨石	粗粒輝石安山岩		完形	55	50	41	157.5	
219		10219	1区北3面		礫石器	磨石	花崗岩		完形	77	60	33	231.9	
220		10220	1区北3面		礫石器	磨石	石英閃緑岩		完形	122	87	51	825.1	
221		10221	1区北3面		礫石器	磨石	石英閃緑岩		完形	113	99	46	871.3	
222		10222	1区北3面		礫石器	磨石	粗粒輝石安山岩		完形	112	93	52	743.0	
223		10223	1区北3面		礫石器	磨石	石英閃緑岩		完形	41	33	26	46.6	
224		10224	1区北3面		礫石器	磨石	石英閃緑岩		完形	113	82	31	455.9	
225		10225	1区北3面		礫石器	磨石	砂岩		完形	108	89	42	492.1	
226		10226	1区北3面		礫石器	磨石	石英閃緑岩		完形	117	83	47	649.6	
227		10227	1区北3面		礫石器	磨石	粗粒輝石安山岩		完形	92	64	44	321.0	
228		10228	1区北3面		礫石器	磨石	粗粒輝石安山岩		完形	93	70	36	336.1	
229		10229	1区北3面		礫石器	磨石	石英閃緑岩		完形	119	70	24	324.4	
230		10230	1区北3面		礫石器	磨石	粗粒輝石安山岩		完形	122	98	36	690.6	
231	256	10231	1区北3面		礫石器	敲石	石英閃緑岩		完形	96	80	39	464.8	
232	258	10232	1区北3面		礫石器	敲石	花崗岩		完形	121	93	67	951.6	
233	252	10233	1区北3面		礫石器	敲石	石英閃緑岩		完形	80	62	46	266.9	
234	262	10234	1区北3面		礫石器	敲石	粗粒輝石安山岩		完形	153	98	45	928.7	
235	260	10235	1区北3面		礫石器	敲石	粗粒輝石安山岩		完形	120	84	49	656.8	
236		10236	1区北3面		礫石器	敲石	石英閃緑岩		完形	120	61	49	493.0	
237		10237	1区北3面		礫石器	敲石	粗粒輝石安山岩		完形	129	85	46	744.6	
238		10238	1区北3面		礫石器	敲石	石英閃緑岩		完形	98	57	45	321.1	
239		10239	1区北3面		礫石器	敲石	礫岩		完形	95	85	48	508.8	
240		10240	1区北3面		礫石器	敲石	粗粒輝石安山岩		完形	104	101	66	957.9	
241		10241	1区北3面		礫石器	敲石	粗粒輝石安山岩		完形	109	53	49	484.7	
242		10242	1区北3面		礫石器	敲石	粗粒輝石安山岩		完形	201	79	47	1148.9	

No.	掲載番号	石器登録番号	出土位置	取上番号	種別	器種	石材	産地分析	残存率	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重量（g）	備考
243		10243	１区北３面		礫石器	敲石	礫岩		完形	74	70	27	195.0	
244		10244	１区北３面		礫石器	敲石	石英閃緑岩		完形	160	65	51	805.9	
245		10245	１区北３面		礫石器	敲石	石英閃緑岩		完形	107	46	36	260.6	
246	265	10246	１区北３面		礫石器	石皿	細粒輝石安山岩		欠損	172	187	35	1813.4	
247	200	10247	１区遺構外	41	剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		完形	119	55	17	107.4	
248	169	10248	１区中２面		剥片石器	石刃	黒色頁岩		完形	43	22	5	5.4	旧石器
249		10249	１区中２面		剥片石器	スクレイパー	黒色頁岩		完形	73	45	8	27.0	
250		10250	１区中２面		剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	118	71	34	327.1	
251		10251	１区中２面		剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	94	63	27	177.1	
252		10252	１区中２面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	65	66	20	77.1	
253		10253	１区中２面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	82	44	12	47.6	
254		10254	１区中２面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	61	60	17	67.4	
255	237	10255	１区中２面		礫石器	凹石	粗粒輝石安山岩		完形	129	67	40	489.7	
256	235	10256	１区中２面		礫石器	凹石	粗粒輝石安山岩		完形	128	71	50	661.3	
257	236	10257	１区中２面		礫石器	凹石	石英閃緑岩		完形	116	92	54	878.8	
258	246	10258	１区中２面		礫石器	磨石	石英閃緑岩		完形	122	74	57	673.6	
259		10259	１区南２面		剥片石器	スクレイパー	黒色頁岩		完形	69	44	9	26.4	
260		10260	１区82号土坑	4	礫石器	凹石	粗粒輝石安山岩		欠損	86	98	37	416.3	
261		10261	１区82号土坑		礫石器	敲石	溶結凝灰岩		完形	151	107	69	1379.7	
262	207	10262	１区北端１面		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		完形	164	56	22	189.3	
263	190	10263	１区北端１面		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		完形	73	43	21	74.5	
264		10264	１区北端１面		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		欠損	64	44	21	67.6	
265	222	10265	１区北端１面		剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	75	45	36	138.2	
266	231	10266	１区北端１面		剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	165	114	70	1329.2	
267	228	10267	１区北端１面		剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	135	81	42	423.1	
268		10268	１区北端１面		剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	72	64	28	191.3	
269		10269	１区北端１面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	82	108	31	216.7	
270	239	10270	１区北端１面		礫石器	凹石	粗粒輝石安山岩		完形	132	110	90	1740.8	
271		10271	１区北端１面		礫石器	凹石	粗粒輝石安山岩		完形	69	52	25	76.8	
272		10272	１区北端１面		礫石器	磨石	細粒輝石安山岩		完形	121	66	33	417.5	
273		10273	１区北端１面		礫石器	磨石	石英閃緑岩		完形	92	70	32	306.4	
274		10274	１区北端１面		礫石器	磨石	粗粒輝石安山岩		完形	118	76	48	635.6	
275	255	10275	１区北端１面		礫石器	敲石	細粒輝石安山岩		完形	128	46	30	296.4	
276	263	10276	１区北端１面		礫石器	敲石	粗粒輝石安山岩		完形	172	89	70	1578.0	
277	203	10277	１区北端２面		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		完形	128	55	20	123.8	
278		10278	１区北端２面		剥片石器	打製石斧	珪質頁岩		欠損	92	45	18	80.1	
279		10279	１区北端２面		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩		完形	63	82	22	136.8	
280		10280	１区北端２面		礫石器	磨石	粗粒輝石安山岩		欠損	101	58	18	72.6	
281	261	10281	１区北端２面		礫石器	敲石	粗粒輝石安山岩		完形	127	85	57	919.5	
282	250	10282	１区北端２面		礫石器	磨石	粗粒輝石安山岩		完形	129	90	55	816.0	
283		10283	１区一括		剥片石器	打製石斧	黒色頁岩		完形	94	42	17	67.5	
284	188	10284	１区北２面		剥片石器	スクレイパー	黒色安山岩		完形	167	88	25	265.2	
285	184	10285	１区北２面		剥片石器	スクレイパー	黒色頁岩		完形	100	63	20	123.6	
286		10286	１区北２面		剥片石器	スクレイパー	珪質頁岩		完形	75	88	12	106.8	
287		10287	１区北２面		剥片石器	石核	黒色頁岩		完形	72	58	31	117.3	
288	233	10288	１区北２面		礫石器	凹石	花崗岩		完形	81	74	34	358.6	
289	240	10289	１区北２面		礫石器	凹石	粗粒輝石安山岩		完形	139	106	54	1206.8	
290	259	10290	１区北２面		礫石器	敲石	粗粒輝石安山岩		完形	96	83	50	580.3	
291	269	10291	１区北２面		礫石器	台石	石英閃緑岩		完形	203	149	52	2637.2	
292		10292	１区北２面		礫石器	台石	石英閃緑岩		完形	158	90	39	919.4	

＊剥片のデータについては、本報告書の記載からは除外した。デジタルデータでは保管してある。

写 真 図 版

1　棚下込山遺跡遠景（南から）

2　棚下込山遺跡１区北部～南部全景（南東から）

3　棚下込山遺跡２区全景（南から）

4　棚下込山遺跡１区北端部全景（南から）

5　１区北部第１調査面（南東から）

6　１区北部第１調査面（東から）

7　１区北端部第１調査面、焼土・炭化物（東から）

8　１区北端部第２調査面（西から）

PL.2

1　10号旧石器確認トレンチ(南から)

2　11号旧石器確認トレンチ(南から)

3　1号旧石器確認トレンチ(西から)

4　5号旧石器確認トレンチ(西から)

5　8号旧石器確認トレンチ(南から)

6　7号旧石器確認トレンチ(南から)

7　1区北端部基本土層1(西から)

8　1区北端部基本土層2(西から)

9　1区中部基本土層(西から)

10　1区南部基本土層(西から)

11　2区基本土層A(北から)

12　1号溝(西から)

13　2号溝(西から)

14　2号溝(南から)

15　3号溝(南から)

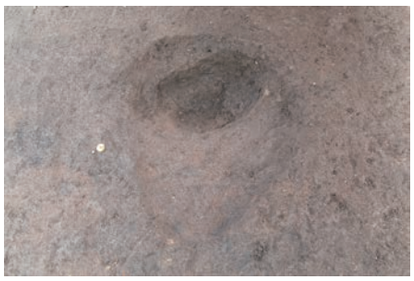
16　3号溝・土層断面(南から)

17　4号溝(北から)

18　4号溝・土層断面(南から)

1　10号土坑(南西から)

2　10号土坑・土層断面(南西から)


3　11号土坑(南西から)

4　11号土坑・土層断面(南西から)

5　13号土坑(北から)

6　13号土坑・土層断面(西から)

7　14号土坑(南東から)

8　14号土坑・土層断面(南西から)

9　15号土坑(北西から)

10　15号土坑・土層断面(南東から)

11　16号土坑(北西から)

12　16号土坑・土層断面(南西から)

13　17号土坑(北から)

14　17号土坑・土層断面(南西から)

15　20号土坑(南西から)

16　20号土坑・土層断面(南西から)

17　31号土坑(北から)

18　31号土坑・土層断面(西から)

PL.4

1　34号土坑(西から)

2　34号土坑・土層断面(西から)

3　37号土坑(北西から)

4　38号土坑(北から)

5　38号土坑・土層断面(南西から)

6　40号土坑(西から)

7　40号土坑・土層断面(南から)

8　43号土坑(南西から)

9　43号土坑・土層断面(南西から)

10　48号土坑(西から)

11　48号土坑・土層断面(南西から)

12　78号土坑(南から)

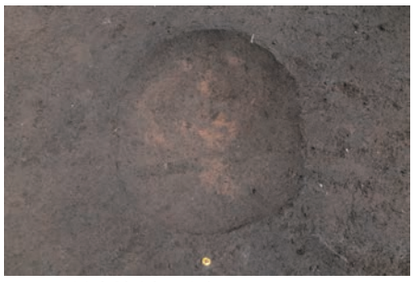
13　78号土坑・土層断面(南から)

14　45号土坑(南西から)

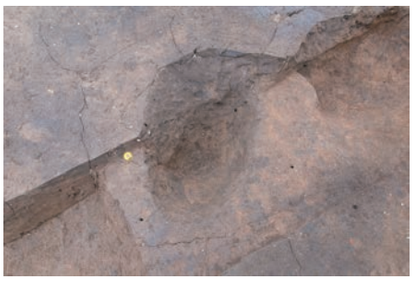
15　45号土坑・土層断面(南西から)

16　46号土坑(南から)

17　46号土坑・土層断面(南から)


18　47号土坑(南から)

1　47号土坑・土層断面(東から)


2　49号土坑(西から)

3　49号土坑・土層断面(南西から)

4　50号土坑(西から)

5　51号土坑(南西から)

6　51号土坑・土層断面(南西から)

7　52号土坑(南西から)

8　52号土坑・土層断面(南西から)

9　54号土坑(西から)

10　59号土坑(南から)

11　61号土坑・土層断面(西から)

12　67号土坑(北から)

13　60号土坑(北から)

14　60号土坑・土層断面(西から)

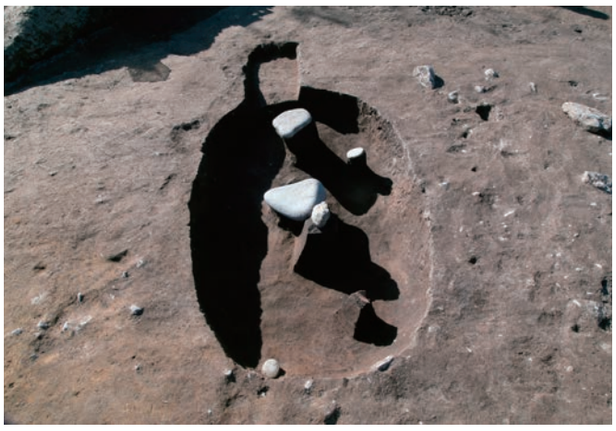
PL.6

1　62号土坑（南から）

2　62号土坑・土層断面（南西から）

3　65号土坑（南西から）

4　65号土坑・断ち割り（北東から）



5　71号土坑（東から）

6　71号土坑・土層断面（南から）

7　73号土坑（南から）

8　73号土坑・土層断面（東から）

1　81号土坑（西から）

2　81号土坑・土層断面（西から）

3　82号土坑（西から）

4　82号土坑・焼土（西から）

5　１区２面包含層（南西から）

6　１区２面包含層（南東から）

7　１区２面包含層（西から）

8　１区２面包含層（北から）

PL.8

49号土坑

1

50号土坑

2

52号土坑

3

53号土坑

4

60号土坑

5

6

7

8

9

10

62号土坑

11

12

13

14

15

16

17

63号土坑

18

64号土坑

19

65号土坑

20

21

67号土坑

22

23

70号土坑

24

25

71号土坑

26

27

28

29

73号土坑

30

31

32

33

34

35

36

37

38

PL.10

81号土坑
82号土坑
1区北遺物包含層
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70

71
72
73
遺構外出土土器
縄文前期
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128

PL.12

縄文前期～中期　縄文中期

縄文後期

遺構外出土石器

石刃　尖頭器　石鏃　石槍

169　170　171　172　173

楔形石器

174

へら状石器

175

スクレーパー

176 177 178 179 180

181 182 183 184

185 186 187 188

打製石斧

189 190 191 192 193

PL.14

194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214

215

磨製石斧

216

217

礫器

218

219

石核

220

221

222

223

224

225

226

227

228

229

PL.16

230

231

274

275

凹石

232

233

234

235

236

237

238

239

240

磨石

241 242 243 244

245 246 247

248 249 250

251

敲石

252 253

254 255

PL.18

256

257

258

259

260

261

262

263

石皿

264

265

266

台石

267

268

269

砥石

270

原石

271

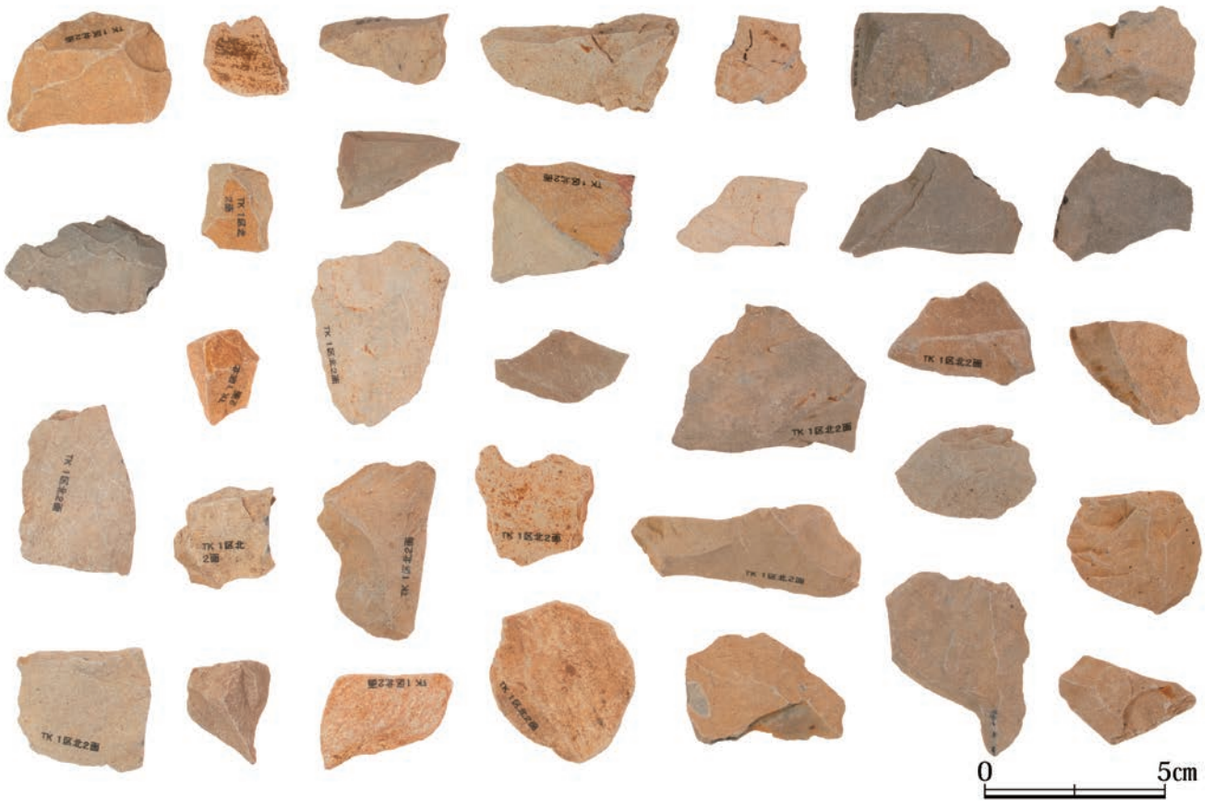
272

黒色頁岩　剥片

黒色頁岩　剥片

黒色頁岩　剥片

黒色頁岩　剥片



黒色頁岩　剥片

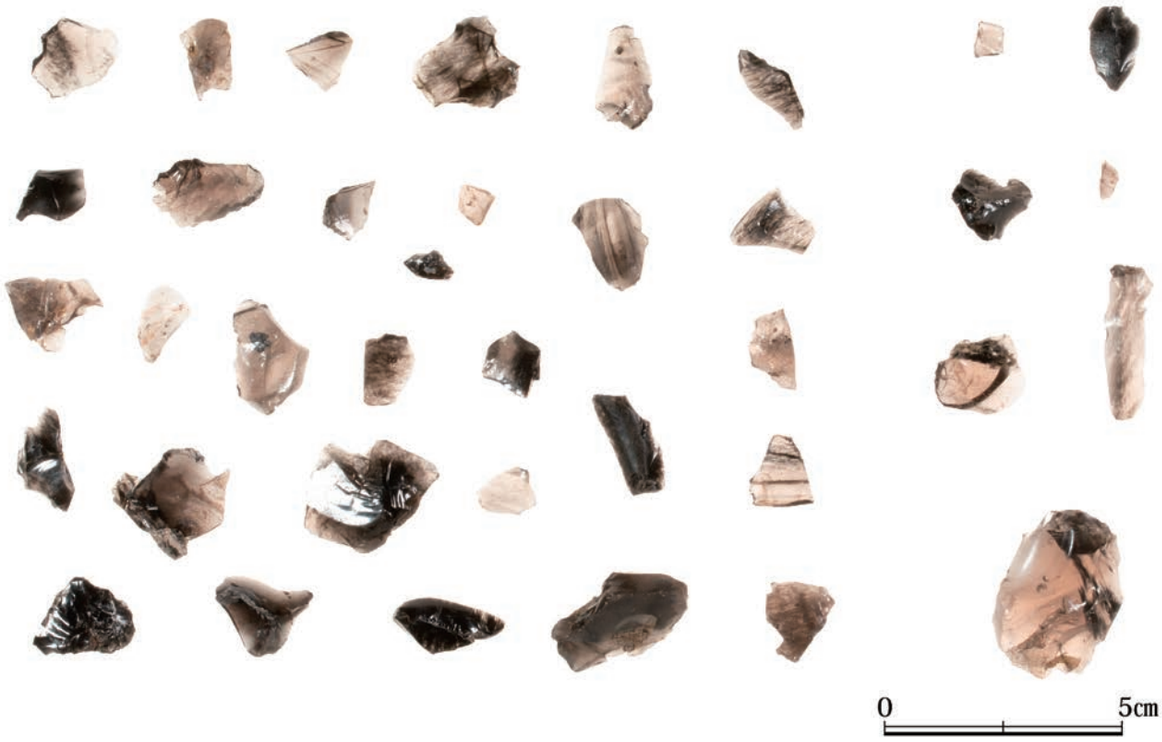
黒色頁岩　剥片

黒色頁岩　剥片

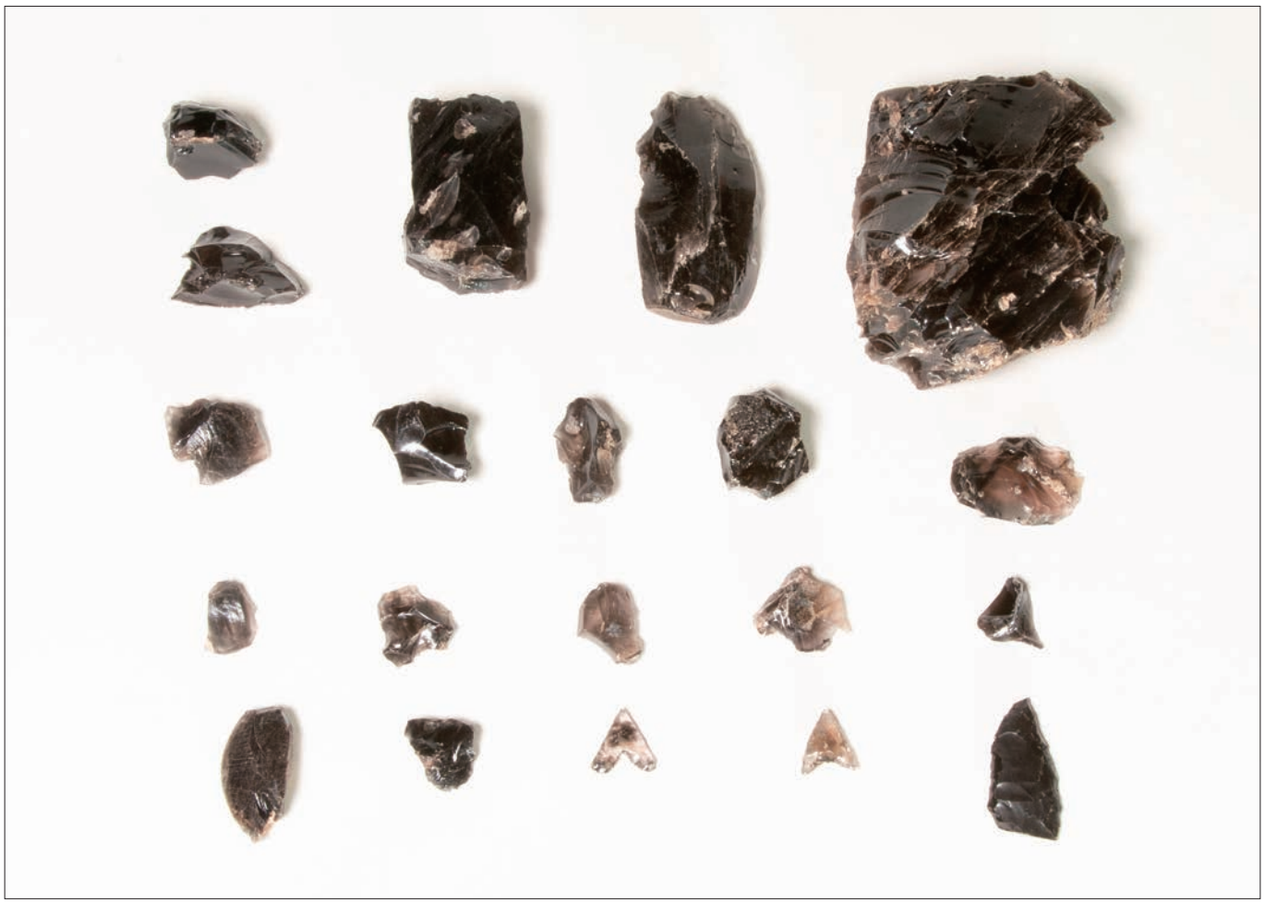
黒色頁岩　剥片

黒色安山岩　剥片

珪質頁岩　剥片



黒曜石　剥片



棚下込山遺跡出土の黒曜石製石器

棚下込山遺跡出土の縄文石器

報告書抄録

書名ふりがな	たなしたこみやまいせき
書名	棚下込山遺跡
副書名	一般国道17号(綾戸バイパス)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	738
編著者名	佐藤元彦、木村　收、関口博幸
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20240319
作成法人 ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地２
遺跡名ふりがな	たなしたこみやまいせき
遺跡名	棚下込山遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんしぶかわしあかぎまちたなしたあざこみやま、あざこさか
遺跡所在地	群馬県渋川市赤城町棚下字込山、字小坂
市町村コード	10208
遺跡番号	A0129
北緯(世界測地系)	363445
東経(世界測地系)	1390302
調査期間	20190801-20191031/20210801-20210831/20230501-20230531
調査面積	2310/953.68/364.85
調査原因	道路
種別	その他
主な時代	縄文
遺跡概要	古墳・古代-溝４+土坑49+ピット１/縄文-土坑31+ピット３+焼土遺構２+包含層１
特記事項	縄文時代前期中葉と縄文時代中期後葉を主体とする多量の土器や石器が出土した。
要約	赤城山西麓末端の山麓緩斜面から、縄文時代や古墳時代以降の土坑が発見された。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第738集

棚下込山遺跡

一般国道17号(綾戸バイパス)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和６(2024)年３月15日　印刷
令和６(2024)年３月19日　発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
電話(0279)52-2511(代表)
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印刷／上毎印刷工業株式会社